

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附屬ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
 略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ原本ヲ送達シテ之ヲ爲ス  
 裁判所書記本人ニ原本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト見做ス  
 同法第五百二十六條 裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實適用シタル法令ノ科スヘキ刑及附  
 屬ノ處分並原本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘ  
 キ旨ヲ示スヘシ  
 同法第五百二十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ原本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ  
 正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
 正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判  
 ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ  
 同法第五百三十一條 正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求補遺後ニ爲  
 シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對  
 シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 正式裁判ノ請求ヲ違法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ  
 於テハ略式命令ニ拘束セラヌコトナシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定(相被告甘利製茶平ニ關スル部分省略)ヲ爲シ被告人蛭川賀寬ノ略式  
 命令ニ對スル正式裁判ノ請求ハ之ヲ棄却スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人蛭川賀寬ニ對スル本件公訴事實ノ要領ハ被告人蛭川賀寬ハ長野縣北佐久郡小諸町ニ於テ甘利製茶平ヲ發行編輯  
 兼印刷人トシテ發行スル新聞魁新報ノ經營者ナルトコロ昭和十三年七月六日頃自宅ニ於テ「言行不一致町長の送迎會  
 を茶縮して其足で温泉地で豪遊」ナル題目ニテ同年六月二十四日小諸町役場ニ於テ小諸町會議員等出席シ前町長小山  
 三平ニ贈呈スヘキ退職慰勞金問題討議ノ際多數議員ハ金一千圓案ナリシカ小山亮、鹽川清兵衛等少數議員ハ金三千圓  
 案ニ賛成シタレトモ新町長ハ町ノ財政窮乏ノ故ヲ以テ金一千五百圓案ヲ出シ同額ニ決定シ時局柄町長送迎會ヲ簡粗ナ  
 ル茶話會トシテ終了シタルニ拘ラス小山亮、鹽川清兵衛等一行六名ハ右送迎會終了後直ニ自動車ヲ飛ハシテ上山田温  
 泉ニ到リ○園ニテ藝妓ヲ揚ケ豪遊ノ後○旅館ニ投宿翌日歸町シタル旨ノ原稿ヲ作成シ即日之ヲ右甘利ニ交付シ同  
 人ト共謀ノ上同年七月十一日附第六十一號魁新報第一面ニ右原稿ニ依ル記事ヲ掲載シ約一千部ヲ同縣北佐久郡、小縣  
 郡其ノ他ノ購讀者等ニ頒布シ以テ同町ノ衆議院議員兼町會議員小山亮同縣會議員兼町會議員鹽川清兵衛ノ名譽ヲ毀損  
 シタルモノナリト謂フニ在リテ之ニ付岩村田區裁判所檢事局檢事カ昭和十三年十二月二十四日岩村田區裁判所ニ被告  
 人蛭川賀寬ニ對スル名譽毀損被告事件トシテ略式命令ヲ請求シ同區裁判所ニ於テ同日被告人蛭川賀寬ヲ罰金三十圓ニ  
 右甘利ヲ罰金二十圓ニ處ス旨ノ略式命令ヲ爲シタルコトハ一件記録ニ照シ明白ニシテ尙被告人蛭川カ右甘利ト共ニ昭  
 和十四年一月四日附書面ヲ以テ右略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ヲ爲シ同裁判所カ同月五日該書面ヲ受附ケ其ノ後  
 被告人蛭川カ同月八日右略式命令原本ノ送達ヲ受ケタルコトハ被告人蛭川ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述並一件記録  
 中蛭川賀寬、甘利製茶平ノ正式裁判ノ請求書及蛭川賀寬ニ對スル略式命令原本ノ郵便送達報告書ヲ綜合シテ之ヲ認ム  
 ルニ十分ナリ然リ而シテ略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ原本ヲ送達シテ之ヲ爲シ略式命令ヲ受ケタル者ハ原本ノ送達ア  
 リタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルコトハ刑事訴訟法ノ明定スルコロナルヲ以テ略式命令ニ對  
 スル正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ受ケタル者即チ既ニ略式命令原本ノ送達ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲シ得ヘタ未タ該  
 略式命令原本ノ送達前ニ爲サレタル正式裁判ノ請求

贖本ノ送達ヲ受ケサル者ハ正式裁判請求權發生セズ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス斯ル者ノ爲シタル正式裁判ノ請求ハ法律上ノ方式ニ違反シ不適法ナルモノナルヲ以テ之ヲ棄却スヘク斯ル裁判ハ如何ナル審級ニ於テモ之ヲ爲スヘキモノト謂ハサルヘカラス從テ前認定ノ如ク未タ略式命令贖本ノ送達ヲ受ケサル被告人蟻川賀寛ノ爲シタル本件略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ハ不適法ニシテ棄却ヲ免レス而シテ本件ノ控訴裁判所タル當裁判所ハ判決ニ依リ該正式裁判ノ請求ヲ棄却スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人赤羽根銀作上告趣意書第一點被告人蟻川賀寛ニ對シ原判決ハ同被告人カ第一審岩村田區裁判所ノ爲シタル略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ヲ不法ニ棄却シタルモノニシテ即チ原判決ハ正式裁判請求棄却ニ關スル規定ヲ誤解シ且第一審判決不服トシテ控訴シタル事案ニ對シ判決ヲ爲ササルノ違法ニ歸セリ抑々本件ハ相被告人甘利ト共ニ被告人等ハ被害者小山亮及鹽川清兵衛ノ名譽ヲ毀損シタル事犯トシテ兩被告人ニ對シ岩村田區裁判所ニ於テ昭和十三年十二月二十四日被告人蟻川ニ對シ罰金三十圓被告人甘利ニ對シ罰金二十圓ヲ科刑セラレタル略式命令成立シ該命令ニハ各被告人ハ送達ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ト記載セラレアリ(一)該命令ハ同年ノ十二月二十九日被告人甘利製裝平ニ送達アリ被告人蟻川ニ對スル送達ハ郵便局員ノ住所誤解ニ依リ未送達

中被告人甘利トハ同新聞ノ經營上越エテ昭和十四年一月三日被告人甘利方ニ會合中兩被告人連名ノ本件略式命令ノ送達アリタルコトヲ了知シ(二)其ノ翌四日兩被告人ハ右略式命令不服ニ付岩村田區裁判所ニ正式裁判ヲ請求シタリ(三)而シテ同裁判所ハ右請求ヲ受理シ公判ヲ開廷シテ檢事ハ本件公訴事實ヲ陳述シ有罪ノ判決ヲ求メタリ(四)而モ第一審裁判所ハ被告人兩名ニ對シ公訴事犯ヲ認メテ罰金ノ判決ヲ言渡シタルニ因リ(五)兩被告人ハ原裁判所ニ控訴ヲ提起シタルモノナリ(六)然ルニ原審ハ被告人蟻川ニ對シ轍上略式命令ノ送達アリタルハ昭和十四年一月八日ナルコト郵便送達證書ニ依リ明白ナリ從テ同月八日以前ナル同月四日相被告人甘利ト同時ニ爲シタル正式裁判ノ請求ハ失當ナリト斷シ前記棄却ノ裁判ヲ爲シタルモノナリ然レトモ刑事訴訟法施行前ニ於ケル略式命令手續法實施當時ニ於テハ略式命令送達前ノ正式裁判請求ハ期間不遵守不適法トシテ之ヲ却下スヘキモノト斷シタル判例ノ下サレタルコトヲ諒承スルモ舊法ハ廢止トナリテ世相ハ變轉シ則チ不變期間ノ如キ徒過ハ當然其ノ行爲ヲ排斥スヘキモノト爲スモ其ノ期間ノ始マル前ニ爲シタル行爲ハ之ヲ要スル事實ヲ當事者ニ於テ諒知スルヲ以テ足ルト爲スカ如シ現行民事訴訟法第三百六十六條第一項但書ノ如キ蓋シ舊弊ヲ破リタルモノト謂フヘク亦轉シテ本件被告人蟻川ノ正式裁判請求ハ之ヲ適法ナリト解スルニ難カラサルヘシ況ヤ轍上ノ如ク第一審裁判所ハ檢事ノ公訴事實陳述ニ因リ審理ヲ爲シ其ノ期間ニ關スル責問權ヲ拋棄シタル以上刑事訴訟法第五百三十二條ニ依リ略式命令ハ其ノ效力ヲ失ヒタルカ故ニ原判決ハ之ニ

略式命令贖本ノ送達前ニ爲サレタル正式裁判ノ請求

對スル正式裁判請求ノ當否ヲ審査スルノ職權アルコトナシ然ルヲ原裁判所事茲ニ出テスシテ前述棄却ノ判決ヲ爲シタルハ頗ル不法ナリト信スト云ヒ」又各被告人原審辯護人赤羽根銀作上告申立書中原判決ハ被告人蟻川賀寛ニ付刑事訴訟法第五百二十八條ヲ誤解シ且第一審裁判所カ責問權ヲ拋棄シタル判決ノ效力ヲ不法ニ廢棄シタル違法アリト云フニ在レトモ

刑事訴訟法第五百二十三條第三項ニハ略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スト規定シ同法第五百二十八條第一項ニ於テ略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メ尙其ノ謄本ヲ送達スヘキ裁判書ニハ犯罪事實、適用法令、科刑及附隨處分ノ外謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヲ要スルコト同法第五百二十六條ノ規定スル所ナルヲ以テ略式命令ハ之ヲ受クル本人ニ其ノ裁判書ノ謄本ヲ送達スルニ依リ成立シ之カ送達ナキ以前ニ於テハ未タ略式命令アリタルモノト謂フヲ得サルカ故ニ之ニ對スル正式裁判請求權モ亦從テ發生セサルモノトス然ラハ略式命令ノ謄本送達以前ニ爲サレタル正式裁判ノ請求ハ法律上ノ方式ニ違反シ不適法ナルコト勿論ナルヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノナリ縱令其ノ者カ自己ト共犯ノ關係アル者ニ對シ送達アリタル謄本ニヨリ自己ニ對スル略式命令ノ内容ヲ窺知シ得タリトスルモ其ノ請求ノ不適法ナルコトニ何等差異ヲ來タス理由トナラス記録ヲ調査スルニ被告人兩名ニ對スル名譽毀損被告事件ニ付昭和十三年十二月二十四日岩村田區裁判所ニ於テ一通ノ裁判書

【要旨】

ニ依リ被告人蟻川賀寛ヲ罰金三十圓ニ被告人甘利製糖平ヲ罰金二十圓ニ各處スル旨ノ略式命令ヲ發シ其ノ謄本ハ被告人甘利製糖平ニ對シテハ同月二十九日又被告人蟻川賀寛ニ對シテハ昭和十四年一月八日夫々送達セラレタルニ拘ラス被告人蟻川賀寛ニ對スル右送達前タル昭和十四年一月四日附ノ一通ノ書面ヲ以テ被告人兩名ヨリ右略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ヲ爲シ同區裁判所ニ於テ同月五日之ヲ受付ケタルコト明白ニシテ被告人蟻川賀寛ノ右正式裁判請求ハ略式命令ノ謄本ノ送達ヲ受クル以前ニ爲サレタルモノナルカ故ニ敍上説明ニ依リ不適法トシテ之ヲ棄却スヘキ箇合ナリトス然ルニ岩村田區裁判所ハ事茲ニ出テス右正式裁判請求ニ基キ被告人蟻川賀寛ニ對シテモ公判ヲ開廷シ右被告事件ニ付第一審トシテ審理判決ヲ爲シタルモノナルコト記録上明ナルカ同區裁判所カ右ノ如キ措置ニ出テタリトテ之カ爲不適法ナル正式裁判請求カ適法ノモノト爲ルヘキ理由ナク略式命令ハ其ノ效力ヲ失フモノニ非サルハ勿論ニシテ適法ナル正式裁判請求ノ缺如ハ即チ訴訟條件ヲ缺クモノナルヲ以テ上訴審ニ於テ之カ當否ヲ審査シ適正ナル裁判ヲ爲ササルヘカラサルハ當然ナリ而シテ右事件ニ關シテハ第一審ニ於テ既ニ敍上ノ如キ判決ヲ爲シタルモノナル以上上訴審ニ於テ之ヲ是正スルニ付テハ亦判決ヲ以テ爲スヲ要スルモノト謂フヘク即チ判決ニ依リ右正式裁判ノ請求ヲ棄却スヘキモノトス原判決ハ之ト同趣旨ニ出テタルモノニシテ其ノ措置ハ洵ニ相當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事徳永榮吉關與

○猥褻圖畫頒布被告事件(昭和十四年(九)第三六〇號 棄却)

【上告人】 被告人 小鹽 正治 辯護人 家本 爲一

【第一審】 岡山區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

○判示事項

刑法第七十五條ノ猥褻ノ圖畫

○判決要旨

一見淫靡ナル感情ヲ生セシムルコトナキ圖畫ト雖其ノ或ル部分ト  
他ノ部分トヲ接續スルニ依リ猥褻ノ圖畫ヲ形成シ而モ當初ヨリス

ル目的ヲ以テ作成セラレタルモノナルトキハ刑法第七十五條ノ  
猥褻ノ圖畫ニ該當ス

【參照】 刑法第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之  
ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シ  
タル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト  
能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ岡山市東中山下八十五番地ニ於テ内縁ノ妻伊賀タケノノ名義ヲ以テ料亭島兵衛ヲ經營シ居ルモノナルトコロ  
右タケノト犯意ヲ通シ同女ヲシテ昭和十二年一月頃ヨリ昭和十三年五月頃迄ノ間岡山市内ニ於テ同市上石井上原和一  
外數十名ニ對シ一見セハ鬼及坊主ノ模樣ヲ現ハセル手拭ニ過キササルモ右各模樣ヲ夫々單ニ折合スノミニテ男子ノ陰莖  
及女子ノ陰部ノ圖トナレル様仕組ミタル猥褻ナル手拭數十枚(證第一號ハ其ノ内ノ一枚)ヲ配付セシメ以テ猥褻圖畫  
ヲ頒布シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第七十五條前段第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額  
範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換  
算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

刑法第七十五條ノ猥褻ノ圖畫

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人家本爲一上告趣意書第一點一、「空卽是色」ニシテ「色卽是空」也一塊ノ粘土陰莖ヲ形成スレハ猥褻物トナルモ又本來ノ面目一塊ノ粘土ニ還元スルトキハ猥褻物ト云フヘカラス宴會ニ出ルしぼりノ「タワル」本來ノ面目ニ於テ猥褻物ニ非ス然レトモ好事家アリテ別紙説明書（説明書略）ノ如ク形成スルトキハ猥褻物タルコト當然ナレトモ更ニ本來ノ面目タルしぼりノ「タワル」ニ還元シタルトキハ之ヲ猥褻物ト謂フヘカラス因之觀之猥褻物ノ觀念ハ物ノ常態ニ於テ之ヲ決定スヘキモノニシテ特殊狀態ニ於テ判定スヘキモノニ非サルヲ知ルニ、奈良ノ郊外法華寺ニ詣リ横笛堂ニ入り其ノ像ヲ見テ誰レカ猥褻ノ感情ヲ起スヘキ然レトモ其ノ像ニ張リ込メタル紙ハ全部濫口入道ノ横笛ニ送リタル艶書ノ文致ナリト傳フ之ヲ剝キ之ヲ張リ其ノ文章ヲ讀ムトキニ於テ始メテ顔ヲ反クルモノアリ紫式部ノ源氏物語ヲ讀ミ誰レカ猥褻ノ感ヲ起スヘキ然レトモ下手ナ文士ニヨリ之ヲ現代語ニ譯述セラルトキハ怪シキ感ニ打タル處ノアルヤ必セリ三、鑿ツテ本件手拭ヲ觀ルニ手拭トシテ常態ニ於テアルトキハ坊主ト鬼ノ畫トナリ迷信トハ云ヘ「最勝」ノモノトナリ戰爭ニ於ケル「彈ヨケ」「必勝」ノ感ヲ生シ其ノ本來ノ面目ニ於テ何等猥褻ノ感ヲ生スルモノニ非ス一塊ノ粘土、一條ノシボリタワル横笛ノ像、源氏物語ト異ル處ナシ唯之ヲ特殊ノ形成ニ於テ初メテ猥褻ノ感ヲ生セシムル可能性ヲ有スルニ過キ

ス四、和銅五年太朝臣安萬呂ノ謹上セシ古事記—以和銅四年九月十八日詔臣安萬呂撰錄神田阿禮所誦之願語ノ舊辭以獻上者謹隨詔旨子細探云々—中ニモ於是問其妹伊邪那美命曰汝身者如何成答曰吾身者成不成合處一處在伊邪那岐命詔我身者成而成餘處一處在故以此吾身成餘處利塞汝身不成合處而爲生成國土奈何伊邪那美命答曰然善云々トアリ本居宣長大人ノ神代正語ニモ其妹伊邪那美命ヨミまし此身ノいかよなれるや問給へば吾身ノなりノてふりあこさる所一とこありとまをし給ひて伊邪那岐命ノア給ひつらく吾身ノなりノてふりあまされるをころ一所あり故此のあろみの成あまされるところをみまし此身乃なりあまざる所よさしふたきて國ろみなさむと思ふはいかにとのたまへばいさなみ此命しかよけむとまをし給ひて云々トアリ平田篤胤謹記ノ古史成文ニモ因於是伊邪那岐命於其妹伊邪那美命問曰汝身者如何成則答曰吾身者成而成不成合處一處在矣伊邪那岐命詔曰之我身者成而成餘處一處在故以此吾身之成餘之處利塞汝身之不成合處而以爲生成國土奈何詔之則伊邪那美命答曰然善矣トアリ古事記神代正語古史成文等ソレ自體ノ本來ノ面目ニ於テ神典タリ正史タリ其著書其著作動機ニ於テ何等猥褻ノ觀念ヲ容ルヘキ餘地ナク又之ヲ拜誦讀シテ何等猥褻ノ感情ノ湧クコトナシ然レトモ之ヲ青樓亂舞ノ室ニ於テ朗讀スルニ到リテハ遺憾乍ラ猥褻ノ感情ヲ催シ之ヲ猥褻ノ文書ト云ハサルヘカラス五、即チ知ル一塊ノ粘土、一條ノシボリタワル横笛ノ像、本件手拭、古事記、神代正語、古史成文等ノ如ク其ノ形成ニヨリ其ノ取扱ニヨリ或ハ猥褻トナリ或ハ猥褻トナラサルモノニアリテハ

即チ其ノ物本來ノ面目ノミニヨリテハ猥褻物ニ非スシテ之ヲ異様ニ形成シ之ヲ異様ニ取扱フニヨリテ始メテ漸ク猥褻ノ感情ヲ湧スモノナリ其ノ物ノ本來ノ状態ヲ異様ニ形成シタル(形成ノ可能性ニテハ充分ナラス)事實又ハ異様ニ取扱ヒタル事實カ犯罪ノ構成事實ニシテ形成スレハ猥褻ノ感情ヲ湧スヘキ可能性ハ犯罪事實ニ非ス此ノ點ニ於テ原判決ハ鬼及坊主ノ圖ヲ描キ各其ノ中央ヲ折合セルトキハ女ノ陰部及男ノ陰莖ノ形トナル云々ト異様ニ形成セハ猥褻ノ感情ヲ湧スヘキ可能性ニツキ事實ヲ認定シタルモ現ニ其ノ可能性ニ基キ異様ニ形成シタルコトノ事實ニツキ何等認定スルコトナキモノニシテ猥褻物ノ要件ニツキ必要ナル事項ヲ認定セス直チニ猥褻物ナリトシ法律ヲ適用シタル違法アルモノトス六、果シテ斯ノ如クシハシカク形成シテ猥褻ノ感情ヲ湧シ得ル粘土ヲ頒布シ又ハ説明書ノ如ク形成スレハ猥褻ノ感情ヲ湧シ得ル「シボリタタル」ヲ頒布スル行爲ヲモ處罰セサルヘカラサルニ到ラント云フニ在レトモ

## 【要旨】

其ノ常態ニ於テ一見淫卑ナル感情ヲ生セシムルコトナキ圖畫ト雖猥褻ナル形像ヲ露骨ニ顯出スルコトヲ隱蔽スル意圖ノ下ニ該圖畫ノ或一部ト他ノ一部トヲ接續スルコトニ依リ性的感情ヲ刺戟シ人ヲシテ羞恥厭惡ノ念ヲ生セシムルカ如キ形像ヲ顯出セシムルコトヲ目的トシテ作成セラレタル圖畫ナルニ於テハ刑法第七十五條ノ猥褻ノ圖畫ト云フヲ妨ケス原判決舉示ノ證據ニ依レハ被告人ハ男女兩性ノ生殖器ノ圖ヲ隱蔽スル意圖ノ下ニ僧侶(黃褐色)カ鬼面(黑色及赤色)ヲ拜セル圖ヲ描出セルモ其ノ實

右鬼面ノ兩耳ヲ接續シテ女子ノ生殖器ヲ顯出セシメ僧侶ノ兩袖ヲ接續シテ男子ノ生殖器ヲ顯出セシムルコトヲ目的トスル手拭數十本ヲ調製セシメタルコトヲ認メ得ヘク原審ノ認定モ亦右ノ趣旨ニ歸著シ該認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス而モ右ノ方法ニ依リテ顯出セラレタル男女兩性ノ生殖器ノ圖ハ性的感情ヲ刺戟シ羞恥厭惡ノ念ヲ生セシムルニ足ルモノアルカ故ニ該圖畫ハ單純ニ僧侶及鬼面ノ描出シアル圖畫ヲ以テ目シ難ク刑法第七十五條ニ所謂猥褻ノ圖畫ニ該當スルモノナルコト上殺ノ説明ニ依リ明白ナリトス從テ之ヲ頒布セシメタル被告人ノ所爲ハ同法條ノ犯罪ヲ構成スルコト勿論ナルヲ以テ之ヲ該法條ニ問擬シタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如ク罪トナラサル事實ニ罰條ヲ適用シタル違法アリト云フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事徳永榮吉關與

○私文書偽造行使被告事件(昭和十四年(九)第四〇〇號 棄却)

【上告人】 被告人 大村保市

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

刑法第五十九條第一項ノ事實證明ニ關スル文書

○判決要旨

甲名義ノ名刺ニ同人カ乙ヲ丙ニ紹介シ乙ノ關係セル事業ノ後援ヲ  
依頼スル趣旨ヲ記載シタル名刺ハ刑法第五十九條第一項ノ事實  
證明ニ關スル文書ナリトス

【參照】 刑法第五十九條第一項 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ  
テ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ  
印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造  
シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處ス(押收ノ點省略)ル旨ノ  
判決ヲ爲シタリ

被告人ハ數名ノ同志ト共ニ昭和十三年一月初旬頃、滿、支三國ノ文化的提携強化ノ爲諸般ノ事業ヲ計畫遂行スルコ  
トヲ目的トシテ日中滿協會ナルモノヲ創立シ陸軍中將松井七夫ヲ同協會理事長ニ推シ自ラ其ノ常任理事トナリ事務所  
ヲ東京市京橋區銀座六丁目尾張町ビルディング内ニ設ケ寄附金ヲ募リテ事業ノ遂行ヲ意圖シ來リタル者ナルカ同協會  
第二期事業トシテ昭和十三年夏上海ニ全國學生代表ヲ派遣シテ日中滿防共學徒大會ヲ開催センコトヲ計畫シ之ニ要  
スル費用一萬二千圓位ノ寄附金募集ニ著手シタルカ募金極メテ困難ニシテ寄附ノ交渉ヲ爲スヘキ實業家等ニ面會ヲ得  
ルコトスラ容易ナラサルヲ察知シ松井七夫ノ實兄ニシテ前上海方面最高指揮官ナル陸軍大將松井石根ノ紹介名刺  
ヲ偽造シタル上之ヲ使用シテ先づ信用ヲ得有力ナル實業家等トノ面會ヲ遂ケンコトヲ企テ豫メ同年五月八日頃情ヲ知  
ラサル下關市西細江町三十一番地印刷業大津徳一ヲシテ「陸軍大將松井石根」ト表示シタル名刺百枚ヲ印刷セシメ之  
ヲ受取リタル後

- 一 同月九日頃下關市山陽ホテルニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右名刺ニ「大村保市御紹介申上候對支文化事業ニ付御  
後援ノ程希上候」ト貝島太市殿ニナル紹介文及宛名ヲ記載シテ同大將名義ノ貝島炭礦株式會社社長貝島太市宛紹介  
名刺一枚(昭和十三年押第一〇二四號ノ二)ノ偽造ヲ完成シ同日頃同市國田町ナル同會社ニ到リ社長貝島太市ニ面  
會ヲ求メ右偽造紹介名刺カ恰モ眞正ナルモノノ如ク裝ヒ之ヲ同會社庶務係藤波不二男ニ提出シテ行使シ
- 二 同月九日頃右山陽ホテルニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右名刺ニ前記ト同様ノ紹介文及伊藤傳右衛門殿ナル宛名ヲ  
記載シテ同大將名義ノ伊藤合名會社社長伊藤傳右衛門宛紹介名刺一枚ノ偽造ヲ完成シ同月十二日頃關西縣嘉穗郡幸  
袋町ナル同會社ニ到リ社長伊藤傳右衛門ニ面會ヲ求メ右偽造紹介名刺カ恰モ眞正ナルモノノ如ク裝ヒ之ヲ同會社支  
配人大塚忠保ニ提出シテ行使シ
- 三 同月十二日頃關西縣某旅館ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右名刺ニ前同趣旨ノ紹介文及石橋正二郎殿ナル宛名ヲ記

載シテ同大將名義ノ石橋正二郎宛紹介名刺一枚ノ偽造ヲ完成シ同日頃久留米市橋原町四丁目石橋正二郎方ニ到リ同人ニ面會ヲ求メ右偽造紹介名刺カ恰モ眞正ナルモノノ如ク装ヒ之ヲ右石橋ノ秘書係ナル養父清ニ提出シテ行使シ

(中略)

タルモノニシテ右私文書偽造、偽造私文書行使ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

尙被告人ハ昭和八年十二月十九日廣島地方裁判所ニ於テ恐喝脅迫横領罪ニ依リ懲役六月(昭和九年勅令第十九號減刑令ニ依リ其ノ刑ヲ懲役四月十五日ニ變更セラレ)ニ處セラレ昭和九年五月六日其ノ刑ノ執行ヲ終リタルモノニシテ右ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示私文書偽造ノ所爲ハ刑法第五十九條第一項第五十五條ニ判示偽造私文書行使ノ所爲ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ右私文書偽造ハ右偽造私文書行使ノ手段タル行爲ナルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ犯情重キ偽造私文書行使罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキトコロ被告人ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ再犯ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點原審判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス前審判決ハ其ノ認定判示一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇ニ於テ「被告人ノ當公廷ニ於ケ

ル判示同意旨ノ供述「押收ニ係ル松井石根名義青木謙太郎宛紹介名刺一枚(昭和十三年押第一〇二四號ノ一)同貝島太市宛紹介名刺一枚(同押號ノ二)同山口喜三郎宛紹介名刺(同押號ノ三)同下出義雄宛紹介名刺(同押號ノ四)及陸軍大將松井石根ト印刷シタル名刺六枚(同押號ノ五)ノ存在ヲ證據トシアルモ該名刺及紹介文ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書圖書ト認定スヘキ證據明確ナラサルモノト思料スヘク其ノ理由ハ偶々被告人ハ自己ノ關係スル文化團體タル日中滿協會ニ對スル援助ヲ求ムル爲メ相手方タル全國有力實業家ヲ訪問スルニ當リ原審公判記録ニ示ス如ク何等不正ニアラサル同協會ノ事業計畫書及事業報告書並收支豫算書ヲ相手方ニ提示シテ寄附援助方ヲ申込マントスルニ際シ相手方ニ面談スルノ機會ヲ得ントシテ單ナル面會ノ便誼ヲ得ルコトヲ目的トシテ該名刺及紹介文ヲ使用シタルモノニシテ何等松井石根大將並相手方ニ對シ權利義務關係ヲ生スルコトナク且事實證明トモナラサルモノナリ即チ被告人ハ正當ナル目的ヲ以テ正當ナル手段ニ於テ寄附金ノ援助ヲ申込マントセルモノニシテ該名刺及紹介文ヲ以テ刑法第五十九條ニ該當スル權利義務並事實證明ニ關スル文書ト認定スヘキ證據全ク存セス原審判決ハ理由ニ齟齬アルモノトスト云フニ在レトモ  
原判決舉示ノ所論證據ニ依レハ被告人カ陸軍大將松井石根名義ヲ冒用シテ作成シタル紹介名刺ハ原判示ノ如ク同人ニ於テ宛名人貝島太市其ノ他ニ對シ被告人ヲ紹介シ其ノ關係セル對支文化事業ニ付核對アリ度キ事ヲ依頼シタル趣旨ノ文書ナルコトヲ認ムルニ足リ記録ヲ精査スルモ原判決ノ事實認定ニ重



大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難ク斯ル文書ハ即刑法第五百十九條第一項ニ所謂事實證明ニ關スル文書ニ該當スルモノナルヲ以テ原判決ニハ所論違法ノ點ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴領文關與

○法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(レ)第四一九號  
同年六月三十日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 清水政太郎 辯護人 小野賢次  
原告補護人 小野賢次 外一名

【第一審】 横須賀區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項ノ罪ト連續犯—同法第一條ノ訴訟事件ノ意義

○判決要旨

一法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條所定ノ行為ハ數回繰返

ノ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項ノ罪ト連續犯 同法第一條

スモ之ヲ包括シテ同法第四條第一項ニ該當スル一個ノ犯罪トシ  
テ處斷スヘク連續犯トシテ處斷スヘキモノニ非ス(要旨第一)  
二同法第一條ニ所謂訴訟事件トハ未夕繫屬セサルモ將來繫屬スル  
コトアルヘキ事件ヲモ包含スルモノトス(要旨第二)

【參照】 法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條 辯護士ニ非ザル者ハ報酬ヲ得ル日  
的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非訟事件ノ辯護ニ關シ鑑定、代理、仲  
裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ズ但シ正當ノ業務ニ  
附屬シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
同法第四條第一項 第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ  
千圓以下ノ罰金ニ處ス辯護士此等ノ者ヨリ事件ノ周旋ヲ受ケタルキ亦同ジ  
刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルキハ一罪トシ  
テ之ヲ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮四月ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日  
數中二十日當審ニ於ケル未決勾留日數中七十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔ト  
スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ辯護士ニアラス且正當ノ業務ニ附屬シテ爲ス場合ニアラサルニ拘ラス報酬ヲ得ル目的ヲ以テ業トシテ

第一 昭和十三年頃横須賀市大瀧町五十四番地所在ノ柴代左右衛門ノ營業所ニ於テ同人ヨリ其ノ所有ニ係ル神奈川  
縣三浦郡浦賀町大津竹澤及同町大津砂坂所在ノ宅地合計千餘坪ノ借地人菅野衛、加藤近次郎、赤尾かね、野澤某等  
十數名ニ對スル地代値上請求事件ノ解決方依頼サレ右借地人等ニ對シ種々交渉ノ結果同年六月中加藤近次郎、赤尾  
かね、野澤某ノ三名ヲ除ク其ノ餘ノ借地人ト柴代左右衛門トノ間ニ一坪一箇月ニ付金二錢ノ地代値上ヲ爲スヘキ旨  
ノ和解ヲ成立セシメ其ノ報酬トシテ其ノ頃三回ニ互リ合計金百七十圓ヲ右柴代左右衛門ヨリ受取リ

第二 同年六月中右柴代左右衛門ヨリ和解成立ニ至ラザリシ借地人加藤近次郎、赤尾かね、野澤某ノ三名ニ對スル地  
代値上請求ノ件及柴代左右衛門所有ノ横須賀市内所在ノ土地賃借人皆川大次郎外二名ニ對スル延滞地代請求ノ件ニ  
付其ノ解決方ノ意見ヲ求メラルルヲ辯護士ニ委任シ之カ請求訴訟ヲ提起スヘシト勸メテ辯護士新田孫三郎ニ之ヲ委  
任セシムルコトトシ同月二十二日同辯護士ヲ伴ヒテ同市深田町六十二番地ナル柴代左右衛門方ニ赴キ同人ヲシテ右  
各事件ニ關スル裁判上及裁判外ノ行爲ヲ同辯護士ニ委任セシメ以テ代理ノ周旋ヲ爲シ其ノ際柴代左右衛門ヨリ右辯  
護士ニ交付シタル手数料等金百八十圓中ヨリ金六十圓ヲ同辯護士ヨリ周旋ノ報酬トシテ分與ヲ受ケ

(中略)

第五 同年七月中同市深田三百四十四番地伊藤佳一郎ヨリ同人ノ山本岩吉ニ對スル同市若松町八十一番地宅地ノ地代  
取立方依頼サレ其ノ頃右伊藤佳一郎ノ代理人トシテ右山本岩吉ト交渉シタル上地代内金二百六十圓ヲ受領シテ之ヲ  
伊藤佳一郎ニ交付シ其ノ頃右伊藤佳一郎方ニ於テ其ノ報酬トシテ同人ヨリ金三十圓ヲ受領シ  
タルモノニシテ以上ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ昭和八年法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條一項刑法第  
五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮四月ニ處スヘク尙刑法第二十  
法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條一項ノ罪ト連續犯 同法第一條 三六一 (七七)

ノ訴訟事件ノ意義

一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中二十日當審ニ於ケル未決勾留日數中七十日ヲ夫々右本刑ニ算入シ訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小野賢次上告趣意書第一點原審判決理由被告人ハ辯護士ニアラス且正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ニアラサルニ拘ラス報酬ヲ得ル目的ヲ以テ業トシ第一乃至第五ノ判示ヲ爲シタリ然レトモ原審判決ハ昭和八年法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル立法ノ趣旨ヲ誤解シ被告人ヲ不法ニ斷罪シタル違法アリトス(一)抑モ右法律ノ立法上ノ精神ハ辯護士ノ職業保護ノ爲ニアラスシテ國家ノ一定ノ考試ヲ經サル法律智識ニ暗キモノヲシテ同法所定ノ行爲ヲ爲サシムルコトハ正義ヲ以テ本分トスル國家司法制度ニ於テ時ニ重大ナル過誤ノ招來スルコトアルヘク其ノ結果正當ナル權利者ハ擁護セラレズ反ツテ不當不正ナル者ヲ跋扈セシムルノ惧アルヲ以テ法律ハ之等法律智識ニ疎キ所謂三百屋流ヲシテ右等ノ行爲ヲ爲スコトヲ嚴禁セントスル目的ニ出テタルモノナルコト眞ニ明ナリトス是レ國民ノ保健上國家カ醫師法ヲ制定シ無免許醫師ヲ處罰スルト同一律意ナルコトハ該法成ノ沿革經過ニ徴シテ明白ナル事實ナリ(二)サレハ同法第一條ニヨリテ禁止セントスルコトコロノモノハ非訟事件ニ關シテハ

紛議ヲ生シタル場合ノミニ限リ其ノ鑑定代理仲裁和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スコトヲ防止セントスルニ外ナラス何ントナラハ訴訟事件ニアリテ夫レ自體紛議ヲ包含スヘキモ非訟事件ニアリテハ常ニ必スシモ紛議ヲ隨伴スルモノニ非サルヲ以テナリ即或ル一定ノ當事者間ニ債權債務存在シタリトスルモ此ノ一事ヲ以テ茲ニ訴訟事件アリト爲スヘカラサルコト勿論ナリ詳言スレハ甲ヨリ乙ニ賣掛代金ノ債權アリ又丙ヨリ丁ニ地代及家賃ノ債權アリ而モ乙、丁カ未タ辨濟セステフ事實ヲ以テシテハ甲、乙間丙、丁間ニ未タ訴訟事件ノ紛議アリト謂フヘキニアラサルナリ然ラハ同法第一條ニ所謂訴訟事件トハ何ヲ謂フカ訴訟法學者カ定義スルカ如ク「訴訟トハ具體的ナ事件ニ關シ法規ノ具體的實現ヲ目的トシ對立スル利害關係人ノ關與ニ依リ國家機關ノ主宰スル法律手續ヲアル」民事訴訟トハ國家司法機關カ私法上ノ權利又ハ法律關係ノ存否ヲ確定シ又ハ必要ナル場合ニ之ヲ強制的ニ實現セシムル手續ヲアル而シテ其ノ目的ハ私法上ノ利益ノ保護ニ依ル私法ノ維持ニ存スル」訴訟ハ個々ノ事件ニ付キ裁判ニ依リ其ノ法律關係ヲ確定シ形成シ及ヒ其ノ結果ヲ實現スルコトヲ目的トスル手續ヲアル」ナリト狭ク解スヘキニアラサルヘシ蓋シ訴訟事件ハ訴訟即權利保護ノ申請アリタルコトヲ前提トスルモノナルコトヲ常態トスト雖右法律ニ所謂訴訟事件ハ裁判上ノミナラス裁判外ノモノヲモ包含スルモノト爲スヲ正當トスヘキカ故ニ裁判外ニアリテハ紛争トモ當事者間ニ紛争ヲ生シ之ヲ裁判上ニ移セハ前記訴訟法學者ノ定義ニ該當スヘキ事態ヲ生シタルコトヲ要スルモノト爲スヲ正當トス何ントナレハ普通ノ債

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項ノ罪ト連續犯 同法第一條 三六三 (11)

權債務ノ關係アルモ只單ニ債務者カ不履行ノ狀態ニ在ル場合ト所謂訴訟事件ニ進展シタル場合トヲ區別セサルヘカラサレハナリ案スルニ法律ノ禁止セントスル事項ハ訴訟事件ニアルモノニシテ單ナル債權債務ニ關與シタルニ過キナル場合ヲ包含セス此ノ事ハ同法制定ノ趣旨カ辯護士保護ニアラスシテ一般國民ノ正當ナル權利擁護ニ存スルコトニ想到スルトキハ此ノ間ノ消息ヲ知悉スルニ充分ナリトス又東京辯護會昭和十一年五月十四日非辯護士取締ニ關スル法律審理特別委員會報告書前略第一條ノ「訴訟事件」トハ私法上ノ權利關係ヲ容易ニ任意履行ヲ得難ク又ハ履行ヲ強要セラルル情勢ニアル總テノモノヲ包含スル第一條ノ鑑定トハ事件ノ勝敗之ニ類スル法律上ノ意見ノ發表テアル右ノ報告ニ依テモ前段訴訟法學者ノ意見ト一致スルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ然ルニ原審判決ハ之ヲ誤リ判示第一前略……一箇月ニ付金二錢ノ地代値上ヲ爲スヘキ旨ノ和解ヲ成立セシメ其ノ報酬トシテ其ノ頃三回ニ互リ合計百七十圓ヲ右柴代左右衛門ヨリ受取り判示第五前略……伊藤佳一郎方ニ於テ報酬トシテ同人ヨリ金三十圓ヲ受領シ證據説明前略……(六八四丁)ヲ綜合スレハ之ヲ認ムルニ十分ニシテ被告人カ辯護士ニ非サルコトハ被告人カ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ以上右證據ニ被告人カ右認定ノ如ク短期間ニ他人間ノ容易ニ解決シ得サル地代値上請求延滞家賃請求土地明渡等ノ事件ニ關シ其ノ解決方法ノ鑑定ヲ爲シ當事者ノ代理及訴訟行為ノ代理人ノ周旋等ヲ累行シ云々ト爲シタルモ以上所論ノ如ク原審判決ハ法規ノ解釋ヲ全然誤リタル擬律錯誤ノ重大ナル違法アルヲ以テ到底破毀ヲ免レスト

謂フニ在レトモ

辯護士ニ非ザル者ガ正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ニ非ザルニ拘ラズ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ鑑定、代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トシタルトキハ其ノ所爲ハ昭和八年法律第五十四號法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條ニ違反シ同第四條第一項ニ該當スルモノニシテ處罰ヲ免レザルコト同法ノ規定ニ照シ疑ナシ而シテ原判決ノ認定シタル原判示事實ニ依レバ被告人ノ所爲ハ右ニ該當スルコト寔ニ明白ナレバ原判決ニハ擬律錯誤ノ違法アルコトナシ尤モ右犯罪ハ所謂營業犯ニ屬スルヲ以テ業トシテ所定ノ行為ヲ數回ニ互リ繰返スモ其レ等行為ハ之ヲ包括シテ一個ノ犯罪トシテ處斷スベキモノニシテ個々ノ行為ニ對シ連續犯トシテ處斷スベキモノニ非ズ從テ原判決ガ連續犯トシテ刑法第五十五條ヲ適用處斷シタルハ違法タルヲ免レズト雖結局一罪ヲ以テ處斷シタルモノナレバ單一罪トシテ處斷シタルト刑ノ量定其ノ他ニ於テ異ナル所ナク前示違法ハ判決ニ影響ヲ及ボサザルヲ以テ上告ノ理由トスルコトヲ得ザルモノトス論旨ハ結局理由ナシ

【要旨第一】

第六點原判決理由第五同年七月中同市深田三百四十四番地伊藤佳一郎ヨリ中略其ノ頃右伊藤佳一郎方ニ於テ其ノ報酬トシテ同人ヨリ金三十圓ヲ受領シ云々ト判示セリ然レトモ論旨第一點ニ於テ詳論シタルカ如ク被告人ノ所爲ハ何等法律上ノ責任ヲ問ハルモノニアラサルコトハ勿論ナリト雖モ尙原審ノ

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項ノ罪ト連續犯 同法第一條

判示ニハ左ノ如キ誤謬ヲ包藏ス(一) 上告人カ伊藤佳一郎ノ代理ヲ爲シタルモノニアラサルコトハ關係人ノ供述ト其ノ行爲自體ノ性質ヨリ明ナリトス右ハ法律問題ナルヲ以テ伊藤佳一郎カ代理ヲ被告人ニ依頼シタリト述ヘタルト將又伊藤佳一郎ニ對スル原審證人訊問調書記載ノ如ク被告人ヲ單ナル使者トシテ地代ノ取立ヲ爲サシメタルニ過キサレコトハ其ノ行爲ノ性質ニ何等影響セサル處ナリ惟フニ代理トハ法律行爲ノ要分タル意思表示ヲ爲シ又ハ之ヲ受クルコトニ存スコレ民法第九十九條ニヨリテ明ナル處ニシテ敢テ多言ヲ要セサル次第ナリトス然リ而シテ代理ノ場合ハ其ノ意思決定ハ本人之ヲ爲スモノニアラスシテ代理人自ラ之ヲ爲スコトヲ以テ特色ノ存スルモノニシテ本件伊藤佳一郎ヨリ山本岩吉ニ對スル延滞地代取立行爲ノ如キ被告人カ伊藤ノ代理人ト指稱スルト將又使者ニ過キスト謂フト何レトスルモ被告人カ自己ノ意思決定ト其ノ表示ニヨリテ法律行爲ヲ爲スコトヲ要セス所定ノ地代ヲ取立ツレハ可ナル次第ナルニ依リ之ヲ爲シタレハトテ司法ヲ誤リ正義ヲ誤ラシムルカ如キ悞末モナキヲ以テ斯ル行爲ハ前記法律第一條ニ該當スヘキ限リニアラス(2) 假リニ被告人ノ右行爲カ同法第一條ニ所謂代理ニ該當スルモノナリトスルモ債權者伊藤佳一郎ト債務者山本岩吉トノ間ノ地代關係ハ債權債務ノ範圍ヲ出テサルモノニシテ未タ訴訟事件ナリト目シ得サルコト本件ノ證據自體ニ徴シ明カナリト爲ササルヘカラス即被告人ノ行爲ハ他人間ノ債權債務ニ關與シタリト言ヒ得ヘケンモ未タ訴訟事件ノ代理ヲ爲シタルモノト爲スヘカラサルナリ(論旨第一點詳論) 山本岩吉ニ對スル檢事ノ聽取書

(記録二一八丁以下) 三、前略地代ハ隣地ノ關係カラ見テモ不當ニ高イノテ私ハ夫レニ對シ何等ノ回答モセス捨テ置キマシタ四、スルト夫レカラ十日位モ經過シタ後ト記憶シマスカ清水政太郎カ私方ニ參リ前伊藤カラ内容證明郵便ヲ請求シテ來タ地代ノ問題ノ取定メ方ヲ伊藤カラ頼マレテ來タト申シマシタ私ハ清水カ來ル前ニ伊藤佳一郎カ其ノ土地ヲ買ツタト云フコトヲ聞イテ居リマシタノテ私ハ清水ニ對シ普通ノ値ナラハ應シタルカ云々中略坪五十錢ノ割合ナラハ自分カ家賃ヲ取ル様ニナツタ昭和十年三月以降ノ分ナレハ拂ツタモ宜シイト申シマスト清水ハ夫レテハ伊藤ニモ話シテ見ヤウト云ツタ歸リ其ノ後四、五回往復シテ結局昭和十年三月カラ本年六月一杯迄四十箇月分ヲ支拂ヒ本年六月末迄ノ地代ヲ解決スルト云フコトニ話カ纏リ本年七月末頃私カ妻ニ話シテ置イタ爲メ清水政太郎カ私ノ不在中共ノ二百六十圓ヲ取リニ來タ際妻カ拂ツテ受領證ヲ貰ヒマシタ伊藤佳一郎檢事聽取書(記録二三一丁以下) 私ハ前申シタ甲田カラ買取ツタ土地ノ内十三坪ノ地上ニ市内沙入町吳服商山本岩吉カ貸家ヲ持ツテ居リ昭和九年十二月頃前申シタ一本治平ノ競賣ノ時以後ハ納メテ居ラス其ノ未納ノ地代ハ私カ受取ル權利カ有ルノテ私ハ日ハ判然シマセスカ本年七月頃内容證明郵便ヲ山本ニ其ノ地代ノ請求ヲシマシタ其ノ内容證明郵便ニハ本年六月末迄ノ分ハ未タ自分カ土地ヲ買ツテ居ナイ時テ有ルカラ毎月坪五十錢ツツテ請求シ七月以降ハ坪八十錢ノ請求ヲスル様認メマシタ云々又同人原審公判(記録五九八丁以下) 前略其處テ私ハ自分カ買受ケル迄ノ分ハ坪五十錢ヲヨイカラト云フテ領收證ヲ書イテ渡シ山

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項ノ罪ト連續犯

同法第一條

三六七

(五)

本ノ處ニ行ツテ來テ貫ツタノラス云々トアルニ依リテモ眞ニ明白ナリトス以上ノ事實ニ徴スルモ被告  
 人ハ何等意思決定ヲ爲シタルモノニ非スシテ單ニ伊藤、山本兩名間ノ使ヲ爲シタルコト眞ニ明瞭ナリ  
 トス若シ原判決ノ如ク解センカ同法ハ他人間ノ訴訟事件ニ關與シタルモノヲ謂スルノミニアラスシテ  
 廣ク他人間ノ債權債務ニ關與シ鑑定代理仲裁和解又ハ周旋ヲ爲シタル場合ヲ總テ處罰スヘキ結果トナ  
 リ法律ノ精神ニ背反スルコト甚タ大ナリト言ハサルヘカラス之ヲ要スルニ原判決ニハ擬律錯誤ノ違法  
 アルヲ以テ到底破毀ヲ免レサルモノトスト謂フニ在レトモ

原判決學示ノ證據ニ依レバ原判示第五ノ事實殊ニ被告人ガ伊藤佳一郎ノ依頼ニヨリ其ノ代理人トナリ  
 テ判示山本岩吉ト交渉ヲ爲シ地代内金二百六十圓ヲ受領シタル事實ヲ優ニ認定シ得ベク記録ヲ精査檢  
 討スルモ被告人ガ單純ナル使者トシテ判示行爲ニ關與シタルモノナリトノ事實ヲ認メ難シ其ノ他原判  
 決ノ事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由存セズ而シテ法律事務取扱ノ取  
 締ニ關スル法律第一條ニ所謂訴訟事件トハ現在裁判所ニ訴訟トシテ繫屬中ノ事件ハ勿論未ダ繫屬セザ  
 ルモ將來訴訟トシテ繫屬スベキ虞アル事件ヲモ指稱スルモノト解スルヲ相當トスベク是レ右法律ノ目  
 的精神ニ照シ疑ヲ容レザル所ナリ然リ而シテ原判示第五事實ト其ノ證據説明トニ徴スレバ伊藤佳一郎  
 ハ山本岩吉ニ對シ地代請求債權ヲ有シ之ガ支拂ヲ求メタルモ應セザリシ爲被告人ニ其ノ取立方ヲ依頼  
 シ被告人ハ其ノ代理人トナリテ山本岩吉ニ請求ヲ爲シタル結果内金二百六十圓ヲ受領スルニ至リタル

【要旨第二】

コト明白ナルヲ以テ右法律第一條ニ所謂訴訟事件ニ付代理ヲ爲シタルモノニ該當スルコト疑ナク從テ  
 原判決ニハ所論ノ如キ違法存セズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事村上常太郎關與

○詐欺文書偽造被告事件

(昭和十四年(九)第四二一號 棄却)  
 同年七月三日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 石田 壽 一 辯護人 (嚴治利 力)

【第一審】 社區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

輸出向用綿絲購入票ノ性質

○判決要旨

輸出向用綿絲購入票ノ性質

日本綿織物工業組合聯合會ノ發行スル輸出向用綿絲購入票ハ刑法ニ所謂財物ナリトス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

〇 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人石田勝一ヲ懲役八月ニ處ス(訴訟費用ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人勝一及同太七ハ孰レモ輸出向用綿布機械業ヲ營ミ居ルカ輸出綿布賣行不振ノ爲經營困難ニ陥リ被告人勝一ハ昭和十三年一月末以來被告人太七ハ同年三月末以來夫々休養シ居タルモノナルトコロ同年三月一日施行ノ綿絲配給統制規則(商工省令第六號)ニ依リ内地向綿布用綿絲ニ割當採用セラレ著シク其ノ使用制限セラレタル爲輸出向綿布用綿絲カ密ニ之ニ流用セラル結果ヲ生シタルニ因リ日本綿織物工業組合聯合會(以下綿工聯ト略稱ス)及全國綿業關係諸團體カ商工大臣ノ指示ニ基キ同年四月一日ヨリ輸出向用綿絲ニ對シテ自治的ニ割當制ヲ實施ス(キ中合ヲ爲シ綿工聯ニ於テ其ノ所屬工業組合加入ノ織布業者ニ對シ輸出向用綿絲購入票(初メ輸出向用綿絲買付證ト稱シタルヲ五月一日改稱ス)ナル割當票ヲ發行シ該購入票ト引換ニ非サレハ綿絲商ヨリ輸出向用純綿絲ヲ購入シ得サルト爲シ以テ該綿絲ノ内地流用ヲ阻止セントシタルモ依然純綿絲ノ内地流用ノ爲ノ闇取引行ハレ其ノ價格ノ著シキ騰貴ヲ見タル

爲該購入票自體モ亦高價ニ賣買セララルニ至リタル結果

第一(一) 被告人勝一及同太七ハ前記購入票ヲ偽造行使シ利ヲ占ムコトヲ企テ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ同年五月末頃情ヲ知ラサル京都市下京區御馬場通佛光寺下ル萬里小路百六十五彫刺業戸田巳之助ニ銅版ヲ複製セシメ同年六月二日頃被告人太七ニ於テ情ヲ知ラサル同市同區御馬場通高辻上ル萬里小路百七十五印刷業アサヒ印刷所コト塚越林太郎方ニ到リ同人ニ右銅版複製購入票見本ヲ交付シテ日本綿織物工業組合聯合會ノ記名捺印アル輸出向用綿絲購入票五捆及一捆各千枚ノ印刷ヲ依頼シ因テ其ノ頃同人ヲシテ銅版刷ニテ該購入票合計二千枚ヲ順次印刷作成セシメテ各偽造ヲ遂ケ

(中略)

第二 前記ノ如ク輸出向用綿絲ノ自治的配給統制ニ基キ綿工聯カ所屬工業組合員ニ該綿絲購入票ヲ發行スルニハ織布業者カ綿布輸出商又ハ綿布卸商トノ間ニ締結シタル輸出向綿布ノ賣買契約書ヲ綿絲購入票請求書ニ添附シテ所屬工業組合ヲ經テ綿工聯ニ提出シ綿工聯ニ於テ該賣買契約ノ成立ヲ眞實ナリト認メタルトキハ該請求數量ニ相當スル輸出向用綿絲購入票ヲ發行シ工業組合ヲ經テ交付シ居リタルトコロ前掲事情ノ下ニ該購入票自體ニ賣買價格生スルニ至ルヤ被告人勝一ハ綿工聯係員ヲ欺罔シテ右購入票ヲ騙取セントコトヲ企テ同年六月初頃多可郡重春村綿布ブローカー村上義一ト通謀シ眞實神戸市葦合區上筒井通五丁目二十六番屋敷輸出商東亞貿易商會佐々木文雄主ヲ被告人勝一契約日時同年五月三十日誕生地八百反總絲量三十捆半納期同年七月二十五日ナル處低價ノ輸出綿布賣買契約書ヲ之ニ符合スル綿絲購入票請求書ト共ニ前記播州織工業組合事務所ニ於テ同組合ヲ經テ綿工聯大阪支所ニ提出シ同所係員ヲシテ眞實ニ履行セラルヘキ輸出綿布ノ賣買契約成立アルモノト誤信セシメ因テ右請求書記載ノ絲量タル合計三十捆半分ノ輸出向

輸出向用綿絲購入票ノ性質

用綿絲購入票計七枚ヲ發行セシメ同月十三日頃前記組合事務所ニ於テ係員ノ手ヲ經テ交付セシメテ之ヲ關取シタルモノニシテ被告人勝一及太七ノ前記購入票偽造被被告人太七ノ偽造購入票ノ行使及詐欺ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人勝一ノ判示所爲中判示購入票偽造ノ點ハ刑法第五十九條第一項第六十條第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スルコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人勝一ヲ懲役八月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鐵治利一同前田力上告趣意書第一點第一、一、本件犯罪事實ハ被告人(上告人)勝一ハ昭和十三年一月末以來休機シ居タルモノナル處同年三月一日施行ノ綿絲配給統制規則(商工省令第六號)ニ依リ内地向綿布用綿絲ニ割當制採用セラレ著シク其ノ使用制限セラレタル爲輸出向綿布用綿絲カ密カニ之ニ流用セラルル結果ヲ生シタルニ因リ日本綿織物工業組合聯合會(以下綿工聯ト略稱ス)及全國綿業關係諸團體カ商工大臣ノ指示ニ基キ同年四月一日ヨリ輸出向用綿絲ニ對シテモ自治的ニ割當制ヲ實施スヘキ申合ヲ爲シ綿工聯ニ於テ其ノ所屬工業組合加入ノ織布業者ニ對シ輸出向用綿絲購入票(初メ輸出向用綿絲買付證ト稱シタルヲ五月一日改稱ス)ナル割當票ヲ發行シ該購入票ト引換ニアラサレ

ハ綿絲商ヨリ輸出向用純綿絲ヲ購入シ得サルコト爲シ以テ該綿絲ノ内地流用ヲ阻止セントシタルモ依然純綿絲ノ内地流用ノ爲ノ關取引行ハレ其ノ價格ノ著シキ騰貴ヲ見タル爲該購入票自體モ亦高價ニ賣買セラルルニ至リタル結果前記購入票ヲ偽造行使シ利ヲ占ムコトヲ企テ太七ト共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ同年五月末頃情ヲ知ラサル彫刻業戸田巳之助ニ銅版ヲ調製セシメ同年六月二日頃太七ニ於テ情ヲ知ラサル印刷業アサヒ印刷所コト塚越林太郎方ニ至リ同人ニ右銅版並ニ購入票見本ヲ交付シテ日本綿織物工業組合聯合會ノ記名捺印アル輸出向用綿絲購入票五冊券及一冊券各千枚ノ印刷ヲ依頼シ因テ其ノ頃同人ヲシテ銅版刷ニテ該購入票合計二千枚ヲ順次印刷作成セシメテ各偽造ヲ送ケタリ二、前記ノ如ク輸出向用綿絲ノ自治的配給統制ニ基キ綿工聯カ所屬工業組合員ニ該綿絲購入票ヲ發行スルニハ織布業者カ綿布輸出商又ハ綿布卸商トノ間ニ締結シタル輸出向綿布ノ賣買契約書ヲ綿絲購入票請求書ニ添附シテ所屬工業組合ヲ經テ綿工聯ニ提出シ綿工聯ニ於テ該賣買契約ノ成立ヲ眞實ナリト認メタルトキハ該請求數量ニ相當スル輸出向用綿絲購入票ヲ發行シ工業組合ヲ經テ交付シ居タル處前掲事情ノ下ニ該購入票自體ニ賣買價格生スルニ至ルヤ被告人勝一ハ綿工聯係員ヲ欺罔シテ右購入票ヲ騙取セシコトヲ企テ同年六月初頃多可郡重春村綿布ブローカー村上義一ト通謀シ其實輸出商東亞貿易商會佐々木文雄トノ間ニ輸出向綿布ノ賣買契約ヲ締結スルノ意思ナキニ拘ラス買主ヲ東亞貿易賣主ヲ被告人勝一契約日時同年五月三十日綾生地八百反總絲量三十捆半納期同年七月二十五日ナル處偽ノ輸出向綿



在賣買契約書之ニ符合スル綿絲購入票請求書ト共ニ播州織工業組合事務所ニ於テ同組合ヲ經テ綿工  
 聯大阪支所ニ提出シ同所係員ヲシテ眞實ニ履行セラルヘキ輸出綿布ノ賣買契約成立アルモノト誤信セ  
 シメ因テ右請求書記載ノ絲量タル合計三十捆半分ノ輸出向用綿絲購入票計七枚ヲ發行セシメ同月十二  
 日頃前記組合事務所ニ於テ係員ノ手ヲ經テ交付セシメテ之ヲ騙取シタリト云フニ在リ而シテ原告控訴  
 裁判所ハ審理ノ結果右犯罪事實ヲ認容シ之カ有罪ノ判決ヲ爲シ唯僅カニ刑ノ量定ニ付斟酌ヲ加ヘ減刑  
 シタルノミニシテ依然本件第一事實ノ文書偽造ハ格別トシテ第二事實ヲ詐欺ト認定シタルハ重大ナル  
 事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ左記事由ニ依リ當然原判決ハ破毀  
 ヲ免レサルモノナリ第二、一、謂フ迄モナク詐欺罪ノ構成要件ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルコト  
 ナカラサルヘカラス本件綿絲購入票ナル紙片カ財物ナリヤ否ヤニ付論議スルノ必要アリ我刑法中財產  
 ニ關スル罪ノ客體トシテ法文ノ規定ヲ見ルニ竊盜、強盜、詐欺、恐喝ニ付テハ財物トアリ横領、損壞  
 ニ付テハ單ニ物トアルモ財物ト物トハ同一ニ解スヘキモノナルモ財物ノ意義ニ關シテハ從來ヨリ種々  
 ナル學說アル處ニシテ形體的觀察ヨリ見ル説ニ有體物説、管理可能性説、價值的觀察ヨリ見ル説ニ交  
 換價値説、財產權説、可動的觀察ヨリ見ル説ニ可動必要説、可動不要説、危險的觀察ヨリ見ル説ニ危  
 險必要説、危險不問説等アルモ學者間ノ通説ハ財產權説ニシテ此ノ説ハ財產權ノ目的タリ得ルヲ以テ  
 足リ交換價値ヲ有スルモノナリヤ否ヤハ問フ處ニアラス苟モ民法上財產權ノ目的タリ得ル以上刑法カ

之ヲ保護スヘキモノナリト云ヘリ然ラハ綿絲購入票ナルモノハ如何ナル性質ヲ有スル文書ナリヤヲ究  
 明セサルヘカラス綿絲購入ノ手續ハ記録上明カナルカ如ク綿布業者カ輸出向綿布ノ賣買契約書ヲ綿絲  
 購入票請求書ニ添附シテ所屬工業組合ヲ經テ綿工聯ニ提出シ綿工聯ニ於テ該賣買契約ノ成立ヲ眞實ナ  
 リト認メタルトキハ該請求數量ニ相當スル綿絲購入票ヲ發行スルモノニシテ綿絲購入票ナルモノノ文  
 書ノ内容ハ所謂權利義務ヲ證明スヘキ文書ニアラス事實證明ニ關スル文書ナルコト一點ノ疑ナキ處ナ  
 リ而シテ權利義務ヲ證明スヘキ文書カ財產權ノ目的タリ得ルコト亦論議ノ餘地ナキモ事實證明ニ關ス  
 ル文書カ財產權ノ目的タリ得ルヤ大イニ疑アル處ナルモ消極ニ解ス御院判例アリ其ノ要旨ハ證書ノ內  
 容カ民法上有效ナルト否トヲ問ハス苟モ其ノ内容ニシテ權利義務ヲ證明スヘキ體裁ヲ有シ所有權ノ目  
 的タルコトヲ得ルニ於テハ其ノ證書ハ恐喝罪ノ目的タル財物タルニ妨ケナシトテ事實證明ニ關スル文  
 書ヲ除外シ證書ノ内容カ事實證明ニ關スル文書ハ一般財產ニ關スル罪ノ客體タル財物ニアラストノ判  
 例ヲ示サレタルモノナリ(御院昭和五年(レ)第一〇九〇號第五刑事部判決同趣旨御院明治二十九年  
 第七〇八號判決同趣旨御院大正三年(レ)第一三二四號同大正十二年(レ)第八二七號判決御參照)  
 從テ虛偽ナル契約書ヲ添附シテ綿工聯ニ對シ綿絲購入票タル事實證明ノ文書ヲ受取ルモ他罪ノ構成ハ  
 格別決シテ原審認定ニ係ル詐欺罪ノ成立セサルコト一點ノ疑ナシニ、綿絲購入票ノ性質カ前記ノ如キ  
 事實證明ノ文書タルト同時ニ之ヲ價值的觀察方面ノ交換價值的見地ヨリ一面不融通性ヲ有シ此ノ方面

ヨリ見レハ準禁制品の性質ヲ有スル文書ナリ即チ輸出向契約サヘアレハ無制限ニ綿工聯ニ於テモ購入票ヲ發行スルモノニアラス必スヤ所屬工業組合ニ於テ加入綿布織物業者ノ前年度ノ事業成績ニ基準シテ割當ヲ爲シ其ノ配給ヲ受ケ得ラルル最高限度(本件上告人ノ割當ハ三十欄半ナリ)ノ發行ヲ求メ之ニ契約書ヲ添附シテ綿工聯ニ提出シ綿工聯ハ契約書カ眞實ナリト認メタルトキハ請求數ノ購入票ヲ發行スルモノニシテ該購入票ニ伴フ綿絲ノ賣先ハ確定不動ノモノニシテ決シテ融通性ノモノニアラス必スヤ契約上ノ賣先以外ニハ流通スルコト能ハサル性質ヲ有スルモノナリ何トナレハ綿工聯ニ於テ購入票ヲ發行スル唯一ノ條件ハ賣先ノ確定シタルコトカ發行ノ絕對的條件ナルヲ以テ發行ノ購入票カ何レノ何人ニ流通スルカ不明ノモノニアラス斯ル不明ノモノナレハ綿工聯ハ之ヲ發行セサレハ必ス綿工聯カ眞實ノ契約ナリト認定シタル賣先以外ニ該購入票カ流通スルコトハ絕對禁セラレタルモノナリト斷定セサルヘカラス是レ旅行免狀又ハ狩獵免狀ト同様ノ性質ヲ有スル法律上ノ融通物ニ屬スヘキ文書ナリ若シ此ノ購入票ニ流通性ヲ認メルニ於テハ綿工聯ノ購入票發行ノ條件タル賣先確定ハ解消シ賣買契約書ヲ添附セストモ自由ニ購入票ノ發行カ出來得ルコトナリ本件虛偽ノ賣買契約書モ必要ナルモノヲ無駄ニ添附シタルニ過キス斯ル不必要且ツ無駄ナル行爲ハ之ヲ放任スヘキモノナリ何等本件詐欺罪ヲ構成スルモノニアラス是レヲ經濟的方面ヨリ見レハ購入票自體ニ法律上融通性ヲ認メ是レニ經濟的價值附ケルトセハ所謂關取引ヲ公認スルノ結果トナルナリ從テ假ニ本件ノ賣先ナル東亞貿易商會

トノ契約カ虛偽ナリトセハ本件購入票ハ右商會ト上告人トノ間ニ限リ且ツ經濟的價值アルモノナルモ右兩者ヲ離レテ何等ノ法律上價值ナキモノナレハ眞實東亞貿易トノ賣買ナシトセハ所謂不能ニ終ル可キ運命ニアル購入票ナリ當時偶々購入票ヲ不法ニモ流通シ流通ニ伴フ價格騰貴ニ法律上ノ融通物ニ人工的非法的ニ融通性ヲ作爲シ所謂關取引ヲ爲シタルモノニシテ他ニ適當ナル取締法アルナラハ格別然ラサルニ於テハ是レ全ク法ノ不備ニシテ決シテ詐欺罪ノ成立セサルコト亦明ナリ三、次ニ詐欺罪ニハ詐欺罪成立ニヨル被害者ナルモノナカラサルヘカラス而シテ詐欺罪ノ被害者ハ詐欺罪ノ成立ニ依リ財産上ノ損害ヲ被リタル者ヲ指稱ス(御院大正十三年(レ)第一〇六九號第五刑事部御判決)從テ財產上何等ノ損害ナキ詐欺罪ナルモノナシ本件原告認定ノ如ク綿工聯ノ係員ヲ誤信セシメテ綿絲購入票七枚ヲ發行セシメ之ヲ騙取シタリトノ事實ニシテ該購入票ノ騙取ニ係リ係員ハ何ヲ損害シタルモノナリヤ前陳ノ如キ特殊ノ性質ヲ有スル事實證明ニ要スル文書ノ一紙片ニ過キス例ヘハ他人名義ノ印鑑證明書ヲ偽造シ之ヲ村役場ニ提出行使シ吏員ヲ欺キテ村長名義印鑑證明書ノ交付ヲ受タルモ欺カレタル吏員ニハ財産上ノ損害一錢モナキ故詐欺罪ハ成立セス(御院大正十二年(レ)第八二七號御判決)從テ本例ヨリ見レハ欺罔サレタル役場ノ吏員ハ何等ノ損害ナキ故詐欺罪トナラサルモノナリ綿工聯ノ係員ハ前記役場ノ吏員ト同様ニシテ一錢ノ損害ヲモ被リタルモノニアラス實際ノ被害者ノ如ク見ユル綿絲購入票ヲ買入レタル高瀬友一ハ關取引ナルコトヲ承知ノ上ニテ買入レタルモノニシテ上告人ヨリ決シ

ヲ欺サレタルモノニアラス斯ル票カ賣買出来サルモノナルコトハ既ニ知リ居ルモノナレハ自ラ招ケル損害ニシテ已ムヲ得タル結果ナリ以上何レノ點ヨリ見ルモ本件詐欺罪ハ成立セサルモノニシテ原審認定ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ當然破毀ヲ免レサルモノナリト謂フニ在リ

原判決擧示ノ證據ニ依レハ原判示事實ヲ證明スルニ十分ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ原判示ニ依レハ判示購入票ナルモノハ織布業者カ綿絲商ヨリ綿絲ヲ購入シ得ル權利アルコトヲ證明スヘキ文書ニシテ財產權ノ目的タルコトヲ得ル財物ナリト謂フヘキコト疑フ容ル餘地アルコトナク所論ノ如キ融通性ノ有無等ハ其ノ財物タル性質ニ影響ヲ及ホスモノニアラスサレハ判示ノ如キ手段方法ニ因リテ判示組合事務所係員ヲ欺罔シ以テ判示購入票ヲ交付セシメタル被告人勝一ノ判示所爲ハ詐欺罪ニ該當スルコト勿論ニシテ所論ノ如ク右購入票ヲ財物ニ非ストシ或ハ被害者ナシトシテ被告人ノ刑責ヲ否定セントスル見解ハ之ヲ採用スルヲ得ス論旨理由ナシ

第二點刑法第五十九條ニヨレハ私文書ノ偽造ハ權限ナクシテ「權利義務又ハ事實證明ニ關スル」文書ヲ作成スルコトニヨリテ成立スルモノナルヲ以テ文書偽造罪ノ成立アリトスルカ爲ニハ其ノ作成セラレタル文書カ夫レ自體完成セル文書ナリト觀察シ得ヘキ程度ノ外形ヲ具備シ居ラサルヘカラス何トナレハ未完成文書ハ夫レ自體未タ權利義務又ハ事

【要旨】

實證明ニ關スル文書ナリト云フコトヲ得サレハナリ故ニ文書ノ奉稱ヲ作成シタルヲ以テハ文書ノ偽造アリトナスコトヲ得ス又文書ノ内容ノ一部ヲ記載シタルモ未タ他ノ一部分ノ記載ヲ爲サズ從テ文書トシテ行使シ得ヘキ狀態ニ至ラサル場合ニ於テハ文書ノ偽造ヲ以テ論スルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス今本件ヲ見ルニ原告ハ上告人及三和田太七ハ「右銅版錠購入票見本ヲ交付シテ日本總機物工業組合聯合會ノ記名捺印アル輸出向用綿絲購入票五欄券及一欄券各千枚ノ印刷ヲ依頼シ因テ其ノ頃同人ヲシテ銅版錠ニテ該購入票合計二千枚ヲ順次印刷作成セシメ」タリトノ事實ニ基キ直ニ上告人ヲ以テ文書偽造罪ノ既遂ナリトスルモノナルカ右ノ印刷作成セシメタリト云フハ購入票用紙タルニ止マリ購入票ニハ非サルニヨリ之ヲ以テ直ニ購入票トシテ使用シ得ルモノニ非ス之ニ對シテ所定ノ事項ヲ記入スルコトニ因リテ初メテ購入票トシテ使用スルコトヲ得ルモノニシテ從テ所定事項ノ記入ナキ購入票用紙ノ作成自體ハ未タ文書ヲ完成シタルモノト云フヲ得サルヤ當然ナリトス即チ上告人等カ印刷セシメタルハ本件記録中塚越林太郎ノ始末書ニ添附シアル輸出向用綿絲買付證ト題スル紙片ニシテ其ノ内容ヲ見ルニ「昭和十三年月分」トアルノミニテ其ノ何月ナリヤノ記入無ク又組合名、工場名、購入委託者名モ全然記載無キモノナリ然レトモ輸出向用綿絲買付證ハ總工聯大阪支所綿絲課長吉村豊カ「三、輸出向用綿絲ノ割當方法ハ商工省ヨリ總工聯其ノ他ノ團體ニ對シ各團體ノ過去ノ消費實跡ニ對シ或ル程度ノ割當ヲ行ヒ總工聯ハ其ノ所屬組合ニ對シ同組合ノ過去ノ實跡ニ對シテ割當ヲ爲シ所屬組合ハ其ノ組合ニ對シ夫々其ノ過去ノ實跡ニ對シ割當ヲ爲スコトニナツタノテアリマス四、次ニ綿絲ノ配給手續(輸出向用)ヲ申シマスト總工聯其ノ他ノ團體ノ申合セニヨツテ定メラレタノテアリマスカ簡單ニ其ノ手續ヲ申シマスト機業家ト綿布問屋又ハ輸出商トノ間ニ綿布ノ賣買約定カ成立シタルトキハ契約書五通ヲ作成シ其ノ内三通ヲ綿布問屋又ハ輸出商ニ渡シ之ヲ受取リタル問屋又ハ輸出商ハ二通ヲ其ノ所屬ノ組合ニ送り其ノ所屬ノ組合ニテハ夫々輸出ノ證明ヲ爲シタル上内一通ヲ總工聯ニ送付シマス一方機業家ハ契約書二通ノ内一通ト綿絲買付證請求書トヲ其ノ所屬組合ニ送り所

屬組合ニ於テハ其ノ契約書ト組合名義ノ綿絲買付請求書トヲ總工聯ニ送付致シマス總工聯ニ於テハ綿布問屋又ハ輸出商ノ所屬組合ヨリ送ツテ來タ契約書ト一方機業家ノ所屬組合ヨリ送ツテ來タ契約書トヲ照合シタル上雙方カ一致スレハ買付證書記載ノ數ノ綿絲買付證書發行シ機業家ノ所屬組合ヨリ機業家ニ交付スル手續ニナツテ居リマス(一)九五丁以下)ト云フカ如キ由來及經過ニ基キ發行セラルルモノニシテ(1)毎月各自ノ割當限度内ニ於テ發行セラルルモノナレハ何年何月分ノ購入票ナリヤヲ記載スルニ非サレハ購入票トシテ完成セス其ノ記載ナキ限り單ナル購入票作成ノ場合使用セラルヘキ用紙タル以上ノ意義ヲ有セサルナリ(2)又各組合ヲ通シ其ノ組合所屬工場主ニ對シテ發行セラルルモノナルヲ以テ其ノ組合名、工場名、購入委託者名ヲ記載スルニ非サレハ如何ナル經過ヲ以テ何人ニ對シテ發行セラレタルヤヲ知ルコト能ハサルニヨリ之ヲ記入シテ發行スルコトナリ居ル次第ニシテ是等ノ事項ヲ記載スルニ非サレハ未タ單ニ購入票用紙タルニ止マリ購入票ニハ非ス然ラハ右ノ如キ買付證書用紙ヲ印刷シタルノミニテハ購入票ノ偽造アリタルモノト云フコト能ハサルハ當然ニシテ從テ其ノ後此ノ用紙ヲ其ノ偽造毀シタリトセハ偽造ノ途中ニ於テ之ヲ中止シタルモノニシテ文書偽造罪成立スルコト無キモノト云ハサルヘカラス上告人ハ右用紙カ印刷セラレタル後右用紙ニ所定事項ヲ記入シテ之ヲ完成スルコトナリタルカ其ノ行爲ノ恐ロシサト自責ノ念ヨリ自發的ニ其ノ後ノ行動ヲ中止シ三和田太七ヲ説得シテ右用紙ヲ全部燒毀スルコトトシタル次第ナリ此ノ事ハ上告人カ原審第二回公判ニ於テ「私ハ當時子供カ病氣シテ居タ爲醫者ヘ子供ヲ連レテ行ク序ニ右頼マレタスタンプヤゴム印ヲ買ツテ來ル心算ヲ子供背負ヒ家ヲ出タノテアリマス處カ醫者ニ行ク途中若シモ斯様ナ惡イコトヲシテ判ツタ場合ハ困ルト思ヒ恐ロシクナツテ止メル氣ニナリ醫者ニ診テ貰ツテカラ頼マレタ品物ヲ買ハスニ家ニ歸ツタノテアリマスツレカラ三和田ノ家ニ行キ同人ニ恐ロシイカラ止メ様テハナイカト云フタ處三和田モ家内カ病氣タカラ止メルト云フタノテ早速燒キ棄テル話ニナツタノテアリマス其ノ際私ハ三和田ニ君ノ方テ處分シテ呉レルカト云ツタ處全部燒キ棄テルト云ツタノ

テ私ハ同人ニ處分ヲ委シ家ニ歸ツタノテアリマス(四八六丁)ト供述シ三和田太七モ之ヲ肯定スルノミナラス(五〇五丁)原判決ニ於テモ「(一)被告人太七ハ相被告人勝一カ犯罪ノ發覺ヲ怖レ前記偽造購入票ノ行使ヲ斷念スヘク促シタルヨリ一旦竊意シ同人ニ對シテ手裡ニ在ル該偽造購入票全部ヲ燒毀スヘキコトヲ約シ」ト判示セルトコロナリ果シテ然ラハ上告人ハ購入票用紙ヲ印刷セシメタルニ止マリ之ヲ購入票トシテ完成スル以前自發的ニ之ヲ中止シテ太七ヲシテ燒毀セシメタル以上偽造行爲ノ完成前中止シタルモノト云フヘク從テ文書偽造罪成立セサルナリ原審ハ購入票用紙ノ印刷ヲ以テ夫レ因果シテ如何ナル形態ヲ具ヘ右印刷物カ夫レ自體直チニ購入票トシテ完成セラレ居ルモノナルヤ或ハ更ニ所定事項ヲ記載スルコトニヨリテ初メテ完成スルモノナリヤノ點ニ付思フ致スコトナク漫然右印刷ヲ以テ直チニ偽造ノ完成ナリト即斷シタルモノト云フヘク畢竟刑法第百五十九條ノ適用ヲ誤リタルノミナラス當ニ爲スヘキ審理ヲ遺脱シタル理由不備ノ裁判タリト云フヘク到底破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在レトモ

所論原判示ニ依レハ被告人勝一及原審相被告人三和田太七ハ判示動機理由ノ下ニ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ判示ノ如ク日本綿織物工業組合聯合會ノ記名捺印アル判示輸出用綿絲購入票五摺券及一摺券各一千枚ノ印刷ヲ判示印刷業者ニ依頼シ判示ノ如ク銅版刷ニテ判示購入票合計二千枚ヲ順次印刷作成セシメテ各偽造ヲ送ケタリト謂フニ在リテ右購入票ノ作成力未完成ナリトノ事實ハ原判決ノ認定セサルトコロナルノミナラス縱令所論ノ如ク右票ノ記載事項中ノ一部ノ事項ヲ缺キタル點アリトスルモ之ヲ以テ單ニ用紙ニ過キシテ偽造ニアラスト謂フヘカラス而シテ又所論中止ノ事實ハ原判示ニ副ハサル主張ナルノミナラス既ニ教上ノ如ク偽造文書ノ作成セラレタル以上ハ其ノ後ニ於テ之ヲ燒毀セシメタリトスルモ偽造罪ノ成立ニ何等ノ妨アルコトナシ從テ原審カ被告人等ノ右所爲ニ對シ刑法第百五十九條第一項等ノ法條ヲ適用シタルハ洵ニ正當ニシテ原判決ニハ審理遺脱理由不備等所論ノ違法一モ存スルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ニ遵ヒ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リテ主文ノ通り判決ス  
檢事井上貫一關與

○押收物件ニ付檢事ノ爲シタル處分ニ對スル異議申立却下決定ニ  
對スル即時抗告事件  
(昭和十四年(一)第一五號  
同年七月五日第一刑事部決定 却下)

【抗告人】 申立人 横澤要三 代理人 辯護士 秋山專藏  
【原 審】 名古屋控訴院

○ 判 示 事 項

刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議ノ申立ト代理

○ 決 定 要 旨

刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議ノ申立ハ代理ヲ許ササルモノト  
ス  
【參照】 刑事訴訟法第五百六十二條 裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐

人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判  
所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

○ 事 實

事實關係ハ決定理由ニ説示スル所ノ如シ

○ 主 文

原決定ヲ取消ス

本件異議申立ハ之ヲ却下ス

○ 理 由

本件抗告ノ要旨ハ抗告人ニ對スル詐欺被告事件ノ證據品トシテ名古屋控訴院檢事局ニ於テ押收シアル  
封金一千五百圓ニ對シ同檢事局ノ爲シタル沒收處分ニ對シ抗告人ヨリ爲シタル異議申立ニ對シ名古屋  
控訴院ノ爲シタル異議却下ノ決定ヲ取消シ押收物件封金一千五百圓也ハ之ヲ抗告人ニ還付スル旨ノ御  
決定ヲ求ムト云フニ在リテ原決定ニ對スル論難ヲ開陳スルトコロアリト雖本件記録ヲ査スルニ抗告人  
横澤要三ハ本件抗告ヲ爲スニ際シ辯護士秋山專藏ヲ代理人トシテ委任シ該委任ニ基キ同辯護士ヨリ本  
件抗告ヲ爲シタルノミナラス週テ原院ノ裁判ヲ爲スニ至リタル本件異議ノ申立書モ亦辯護士秋山專藏  
ヲ訴訟代理人トシテ名古屋控訴院檢事局ノ證據品トシテ押收シタル封金一千五百圓ニ對スル處分ニ對

刑事訴訟法第五百六十二條ノ異議ノ申立ト代理

スル異議申立ヲ爲ス一切ノ行爲ノ件々ナル訴訟委任狀(記録第六丁)ニ基キ同辯護士ヨリ代理人トシテ提出セラレタルモノナルコトヲ知り得ヘク而モ該申立書ノ要旨ニ依レハ申立人外九名ハ昭和十一年中詐欺被疑者トシテ名古屋地方裁判所検事局ノ取調ヲ受ケタル際同年六月二日御器所警察署ニ於テ申立人携帶ノ十圓札百五十枚金一千五百圓ヲ封金トシテ押收領置セラレタリ其ノ後申立人外九名ニ對スル詐欺等被告事件ハ名古屋地方裁判所ニ於テ審理ノ結果申立人ニ對シテハ懲役三年ニ處スル旨ノ判決アリ控訴審タル名古屋控訴院ニ於テモ原審同様ノ判決ヲ宣告セラレ該判決ニ對シ上告ノ申立ヲ爲シタルモ上告棄却ノ判決ヲ受ケ目下右確定判決ニ依リ其ノ刑ノ執行ヲ受ケ居ルモノナルトコロ該判決ニ於テハ右封金ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲ササルモノナルヲ以テ差出人タル申立人ニ還付セラルヘキ筈ナルニ拘ラス檢事局ハ其ノ還付請求ヲ拒ミ應セサルニ依リ刑事訴訟法第五百六十二條ニ基キ名古屋控訴院檢事局ニ於ケル不還付處分ニ付異議申立候也ト記載シ在リテ裁判ノ執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスル異議ノ申立ナルコト洵ニ明瞭ナリ然レ共刑事訴訟法第五百六十二條ニ基キ異議ノ申立ハ裁判ノ執行ヲ受クヘキ者又ハ其ノ法定代理人保佐人若ハ夫ニ限り之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ委任ニ基キ代理人ヲ以テ爲シ得ヘキ性質ノモノニ非ス蓋シ刑事訴訟法ハ所謂代理ニ因リテ生スヘキ弊害ヲ顧慮シ訴訟行爲ハ代理ヲ許ササルヲ原則トシ只其ノ必要ヲ認メタル場合ニ於テノミ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ認許スルノ法制ヲ採リタルコトハ法文ノ全體ヲ通シ看取シ得ヘキニ拘ラス該異議ノ申立ニ對シ單ニ同法

## 【要旨】

第五百六十三條末項第三百九十一條第二項ノ代書以外特ニ代理ヲ許シタル條規一モ存在セス而シテ異議ノ申立ハ裁判所ノ決定ヲ求ムヘキ事項ニ屬シ一ノ訴訟行爲ニ外ナラサルカ故ニ其ノ代理ハ之ヲ許容セサル法意ナリト解セサルヲ得サレハナリ果シテ然ラハ代理人ニ依リテ爲サレタル本件異議ノ申立ハ其ノ申立自體既ニ不適法ノモノナリト謂フヘク從テ原審ニ於テハ之ヲ不適法トシテ直ニ却下スヘカリシニ拘ラス本案理由ニ付審理決定ヲ爲シタルモノナレハ結局失當タルヲ免レサルモノトス仍テ本院ニ於テハ抗告理由ノ如何ニ及ハスシテ原決定ヲ取消シ更ニ異議申立ヲ却下スルヲ相當トシ主文ノ如ク決定ス

檢事山井浩關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(九)第二三四號  
同年七月八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 三上喜太郎 辯護人 國本善造

【第一審】 富山區裁 所 【第二審】 富山地方法裁列所

○判示事項

綿製品ステールファイバー等混用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係——綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係——綿絲ノ手持品ト數量割當ノ制限——仕掛品ト數量割當ノ制限——綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項ニ所謂綿織物ノ製造ノ意義

綿製品ステールファイバー等混用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係——綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係——綿絲ノ手持品ト數量割當ノ制限——仕掛品ト數量割當ノ制限——綿製品ノ製造ノ意義

○判決要旨

- 一 昭和十二年商工省令第三十五號綿製品ステールフアイバー等混用規則第二條第一項但書ニ依リ綿織物ヲ製造スル場合ニ使用スル綿絲ニ付テハ昭和十三年商工省令第六號綿絲配給統制規則第一條ノ數量割當ノ制限ヲ受クルモノトス【要旨第一】
- 二 昭和十三年商工省令第三十七號綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ニ依リ綿織物ヲ製造スル場合ニ使用スル綿絲ニ付テハ綿絲配給統制規則第一條ノ數量割當ノ制限ヲ受クルモノトス【要旨第二】
- 三 手持品即割當票ニ依ラスシテ割當制實施以前ヨリ入手シ居リタル綿絲ヲ使用スル場合ニハ綿絲配給統制規則第一條ノ數量割當ノ制限ヲ受クルモノトス【要旨第三】
- 四 綿製品ノ製造制限ノ件附則第三項ニ依リ仕掛中ノモノノ完成ノ爲綿絲ヲ使用スル場合ニハ綿絲配給統制規則第一條ノ數量割當ノ制限ヲ受クルモノトス【要旨第四】

五 綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項ノ綿織物ノ製造タルニハ綿織物製織ノ作業ニ著手シタル事實アルヲ以テ足り必スシモ製織工程ノ完了ヲ俟ツヲ要セサルモノトス【要旨第五】

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年法律第九十二號)第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限共ノ他ノ事由ニ依リ當給關係ノ調整ヲ必要トスルトキハ物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

- 一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ制限ヲ爲スコト
- 二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、譲渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

同法第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

綿製品ステールフアイバー等混用規則第二條第一項 綿織物又ハ綿莫大小ヲ製造スル場合ニ於テハ輸出品及輸入品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノヲ除クノ外ステールフアイバー共ノ他ノ綿又ハ毛ニ非ザル纖維ヲ重量割合ニ於テ三割以上ヲ混用スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

綿製品ステールフアイバー等混用規則第二條第一項但書ハ綿絲配給統制規則第一條ノ數量割當ノ制限ニ關スル件第一項但書トシテ適用スルモノトス







シ居レリ面シテ同期間内ニ於ケル被告人工場ノ實際織上ケ數量ハ許可受領數ノ三分ノ一タル僅々十一反タルコト記録上明カナリ面モ問題トナレル二十玉ハ其ノ十一反ノ織上ケニ使用セラレタルモノナリコト明カナリトス果シテ然ラハ超過使用二十玉カ縣知事ノ爲セル製造許可數量中ニ包含セラレ居ル以上許サレタル綿絲ノ使用トシテ綿絲配給統制規則第一條適用ノ例外ヲ爲シ同條所定數量ノ拘束ヲ受タルコトナク手持品ヲ以テ流用シ適法ニ使用スルコトヲ得ルモノナルコトヲ信スルナリ即チ製造制限規則ニ基テ製造許可ハ必然的ニ使用許可ヲ伴ヒ配給統制規則第一條ノ割當決定數量ニ東縛セラレスト爲スモノニシテ以下其ノ理由ヲ開陳セムトス(イ)綿絲配給統制規則第一條ハ「綿絲ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者(工業者)ハ地方長官又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當テタル數量ヲ超エ綿絲ヲ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ス」ト規定シ綿製品製造制限規則ハ「綿絲織物又ハ綿莫大小ハ輸出品ノ外之ヲ製造スルコトヲ得ス但特別ノ事情ニヨリ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス」ト規定ス法文ノ文理解釋上製造行為ハ使用行為ノ場合ナリ製造ハ即チ使用ナリ使用セスシテ製造ハ不可能ナリ面シテ製造ノ在ル處使用ハ存在ス使用ナル字義ハ此ノ製造ノ外加工染晒裁斷ヲ包含スト雖モ製造カ綿絲ノ使用ナルコトハ多言ヲ須キシテ明カナリト信ス果シテ然ラハ綿絲配給統制規則第一條ニ於テハ「割當數量ヲ超過シテ使用スルコトハ不可ナリ」ト規定シ綿織物製造制限規則ニテハ例外トシテ「軍需品特免品ニ限リ使用ヲ許容シタルモノナリ」依ツ

テ前者ハ綿絲ノ制限の使用禁止義務ヲ課シ後者ハ但書ニテ之カ解除ヲ爲シタルモノナリ此ノ結論ハ法文ノ文理解釋上當然ナリト信スルモノナリ即チ地方長官ハ綿絲配給統制規則第一條ニヨリ割當數量ノ決定權ヲ有ス此ノ權限ハ抽象的ノモノナリ然レトモ綿製品製造制限規則ニ基テ製造許可權ハ具體的ノモノニシテ數量ヲ指定シ被許可者ヲ指定シタル使用許諾ナリトス即チ地方長官ハ抽象的權限ヲ有スルニ止マラス具體的ニ許可權ヲ有シ之ニ基キ許可行為カアリタルモノナレハ配給統制規則第一條ノ拘束ヨリ解除セラレテ被許可者ハ使用限度ノ擴張ヲ受ケタルナリ地方長官ニ使用數量ノ決定權アルモノナレハ之カ擴張ノ權限又ハ禁止義務解除ノ權限アルハ看易キ道理ニシテ地方長官ニヨリ割當數量ニ基テ使用量ヲ制限セラレ地方長官ニヨリ具體的ニ之カ擴張ヲ受ケタルモノナリ依テ綿製品製造制限規則ニ依ル具體的許可數量ハ配給統制規則ノ例外ヲ爲ス同規則第一條ハ一般制的使用禁止義務ヲ課シタルモノナレトモ製造許可ハ特別的具體的の使用許可ナリ此ノ意味ニ於テ本件公訴第一事實タル二十玉ノ制限超過使用ハ許サレタル使用行為トシテ法律上罪トナラサルコトヲ確信スルモノナリ(ロ)面シテ此ノ超過使用二十玉ノ問題ヲ許サレタル手持品流用ノ問題トシテ觀察スルモ到底犯罪性ヲ有セザルモノナリ其ノ理由ヲ述ヘムニ政府ハ支那事變ニ際シ其ノ有終ノ美ヲ全クスル爲メ物資需給調整ニ手ヲ染メ昭和十三年二月一日ヨリスフ三割混用ヲ強制シ同年三月一日ヨリ綿絲ノ配給ヲ切符制ト爲シタリ然ル處從來ヨリ工業者カ所有セル所謂手持品ニ對シ如何ナル態度ヲ採リタルカ綿絲配給統制規則附則第

綿製品製造制限規則第一條但書トシテ「軍需品特免品ニ限リ使用ヲ許容シタルモノナリ」ト規定スルモノナリ  
 綿製品製造制限規則第一條但書トシテ「軍需品特免品ニ限リ使用ヲ許容シタルモノナリ」ト規定スルモノナリ  
 綿製品製造制限規則第一條但書トシテ「軍需品特免品ニ限リ使用ヲ許容シタルモノナリ」ト規定スルモノナリ

二項ハ「地方長官又ハ第一條第一項ノ團體ハ本則施行ノ際常時必要ト認メラルル保有數量ヲ超スル  
 ヲ保有スル工業者ニ對シテハ第二條第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ者ノ割當數量以下ノ數量ニ相當スル割  
 當票ヲ交付スルコトヲ得」ト規定セリ此ノ附則ハ二ツノ事項ヲ定メ居レリ其ノ(一)ハ工業者カ常時  
 必要ト認メラルル保有數量ニ相當スル綿絲ノ手持品ノ保有、存置ヲ認メタルコト之ナリ其ノ(二)ハ  
 常時必要保有數量ニ超過セル部分ニ限リ割當票ノ發行ヲ制限シ以テ其ノ適當ナル消費ヲ強行セシメタ  
 ル點之ナリ而シテ此ノ勅令ノ解釋トシテハ常時必要保有數量ノ手持品ノ存在ヲ認メタルノミニ止マラ  
 ス之ヲ超過スル數量ニテモ地方長官又ハ團體カ割當數量以下ノ割當票ヲ交付スルコトヲ得ルニ止マル  
 ヲ以テ其ノ超過數量ノ存在サヘ反面ヨリ見レハ之カ存在ヲ認メ居レルモノナリトス故ニ統制諸法規ハ  
 手持品ニ對シ絕對的ニ所有權ノ使用、收益、處分ノ三權能ヲ剝奪乃至停止シタルモノニ非スシテ或ル  
 場合ニ之カ處分使用ノ行爲ヲ認メ居レルモノナリトス即チ手持品ヲ目シテ絕對的ニ不融物視シタルモ  
 ノニ非ストス然ラハ如何ナル場合ニ手持品ノ流用ヲ認メタルカト云フニ(イ)綿絲配給統制規則第一  
 條割當數量ノ範圍内ノ使用ノ場合(ロ)綿製品製造制限規則ニ基キ數量ヲ定メテ地方長官ヨリ製造許  
 可アリタル數量ノ使用ノ場合及(ハ)綿製品製造制限規則附則第三項「本令施行ノ際現ニ仕掛中ノモ  
 ノニ付テハ本令ヲ適用セス」ト規定セラレタル仕掛中ノ織物完成ニ必要ナル數量ノ使用ノ場合之ナリ  
 トス本件超過使用二十五ノ綿絲ハ記録上明カナルカ如ク綿絲(ヨコ絲)ナリ而シテ本件毛織物仕上用

ラツピングダクロスノ仕掛ハ昭和十二年十月頃大阪本社ニ於テ整理シタルモノナレハ所謂仕掛中ノモ  
 ノトシテ製造制限規則適用ノ例外ヲ爲スモノナリ商工省ハ昭和十三年六月二十九日通牒一三調整第五  
 十六號ヲ以テ附則第三項ノ仕掛中ノモノハ左ニ依リ取扱フコト——綿織物ニ在リテハ整理以後ノ工程  
 ニ在ルモノトシテ其ノ見解ヲ明カニシテ一點ノ疑ヲ容ルルノ餘地無カラシメタリ故ニ製造制限規則適  
 用ノ例外ヲ爲ス既ニ經絲カ適用ノ例外ヲ爲ス以上而シテ綿絲配給統制規則ニ觸レサル以上其ノ織物完  
 成ニ必要ナル綿絲(ヨコ絲)ノ使用ヲモ認メサルヘカラス然ラサレハ綿製品製造制限規則カ仕掛中ノ  
 モノノ例外ヲ認メタル趣旨ヲ没却スヘク織物ヲ未完成ノ儘ニ放置シ不生産的ナル物ノ使用トナルヘク  
 物資尊重ノ觀念ニ相反スル結果トナル可ケレハナリ依ツテ本件二十五ノ超過使用ハ仕掛中ノモノノ完  
 成ニ使用セラレタルモノニシテ綿絲配給統制規則ノ拘束ヲ受ケサルモノナリト信ス(ハ)辯護人ハ  
 (イ)ニ於テ製造許可ハ使用許可ヲ伴フモノトナシ(ロ)ニ於テ仕掛品ノ綿絲ノ使用ノ許サルヘキモノ  
 ナリトノ見解ヲ明カニセリ今此ノ超過使用二十五ハ割當決定數量ノ範圍内ナルコトヲ明カニシテ原審  
 ニ審理ヲ盡ササル違法アル點ヲ述ヘムトス被告ハ第一審公判廷ニ於テ陳述シテ曰ク「オ訊ネノ様ニ  
 小杉分工場ヤ石本喜一郎ノ工場ヲ昭和十三年六月三日カラ同年八月二十五日迄ノ間ニ昭和十三年六、  
 七月分トシテ割當ラレタ五十三玉ヲ超エテ純綿絲英式二十番手四十五玉ヲ國內消費用綿織物ノ製造ニ使  
 ツタコトハ間違ヒアリマセヌ然シソレハ昭和十三年三月カラ同年七月迄ノ間ニ小杉分工場ハ富山縣綿

一、條ノ關係ニ於テハ、製造制限規則第一條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一  
 條トノ關係ニ於テハ、製造制限規則第一條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一  
 條トノ關係ニ於テハ、製造制限規則第一條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一  
 條トノ關係ニ於テハ、製造制限規則第一條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一

織物工業組合カラ合計百五玉ノ割合ノ綿絲ノ配給ヲ受ケテ居リマスノテ其ノ範圍内テアル計九十三玉ヲ使用シテ綿織物ヲ製造シテモ別ニ差支ヘナイモノト私ハ思フテ居リマシタト供述シ居レリ記録ニ基キ昭和十三年三月分ヨリ八月分迄ノ割當決定數量ヲ觀ルニ三月分十六玉四月分二十五玉五月分十六玉六月分十三玉七月分四十五玉八月分二十五玉合計百二十五玉ナリ而シテ現實ニ使用シタル綿絲ハ九十三玉ノミナリ即チ割當決定數量百二十五玉ニ對シ猶ホ且ツ三十有二玉ノ餘裕アリ割當數量ノ範圍内ノ使用ニシテ超過使用ニ非ストス原審ハ此ノ點ニ於テ審理ヲ盡ササル違法ヲ包藏スルモノニシテ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云ヒ辯護人國本善造上告趣意書第二點原審判決第一事實ハ割當數量七十三玉ヲ認定シタリト雖モ該割當數量ニ昭和十三年三月分十六玉同年四月分二十五玉同年五月分十六玉ノ割當數量ヲ加算シ之ニ對比シテ違反事實ノ有無ヲ判斷スヘキモノナリトス然ルニ之ヲ加算セサルハ昭和十三年三月一日商工省令第六號綿絲配給統制規則ノ解釋ヲ誤リタル違法アリ綿絲配給統制規則ハ昭和十三年三月一日公布セラレ即日施行セラレタルモノナリトス而シテ該施行當時工業者ノ手持セル綿絲ハ割當票ニ關係ナクシテ自由ニ其ノ使用ヲ許シタルモノナルコトハ同法附則ノ認ムル所ナリトス即チ同附則ニ依レハ一地方長官又ハ第一條第一項ノ團體ハ本則施行ノ際當時必要ト認メラルル保有數量ヲ超ヘ綿絲ヲ保有スル工業者ニ對シテハ第二條第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ者ノ割當數量以下ノ數量ニ相當スル割當票ヲ交付スルコトヲ得トアリテ該規則施行當時手持セル綿絲ニ對シテハ其ノ

數量ヲ地方長官又ハ商工大臣指定團體ニ届出テシメ地方長官又ハ商工大臣指定團體ハ將來ノ割當票ヲ交付スルニ當リ多數ノ所持者ニ對シテハ當時割當數量ヲ減少シ以テ其ノ調節ヲ計ル趣旨ナルコト明ラカナリ果シテ然ラハ規則施行當時ノ保有數量ニ對シテハ割當票ニ關係ナクシテ其ノ自由使用ヲ許シタルコト一點疑ノ餘地ヲ存セス本件ニ於テ被告人カ綿絲配給統制規則ノ施行サレタル昭和十三年三月一日以後綿絲ヲ入手シタルハ昭和十三年六月三日泊紡績株式會社ヲ經由シテ本社ヨリ受取リタル二十番手ノ單絲二百玉ヲ以テ嚙矢トスルコトハ原審判決證據說明ニ於テ明カナリ故ニ該入手以前ニ使用シタル綿絲ハ何レモ昭和十三年三月一日以前ノ手持綿絲ニシテ割當票ニ關係ナク自由ニ使用シ得ヘキ綿絲ナルコト明カナリ然ルニ原審判決ハ昭和十三年三月分割當數量十六玉四月分割當數量二十五玉五月分割當數量十六玉計五十二玉ヲ以テ綿絲配給統制規則以前ヨリ手持セル綿絲中ノ右三月四月五月ニ使用シタルモノニ對比シタルハ同規則附則ノ解釋ヲ誤リタルモノナリトス果シテ然ラハ右三月四月分五月分ノ割當數量ハ規則施行後初メテ被告人カ昭和十三年六月三日入手シタル右二十番手單絲二百玉ノ内ノ使用數ニ對比シテ超過スルヤ否ヤヲ決セラルヘキモノト解釋スルヲ相當トス綿絲配給統制規則ノ所謂割當タル數量トハ或特定月ノ使用限度ヲ示スモノニアラスシテ割當票ノ交付ニヨリ其ノ購入數量ヲ制限シ割當票ニ依ラスシテ購入シタル綿絲ノ使用ヲ禁止シタル趣旨ナルコトハ同規則第二條第三條第四條第五條ノ規定ニ依リテ明カナリ故ニ同規則ノ豫定スル所ハ或特定月ノ到來前其ノ特定月ノ

總製品質ステイプルアイボイ等通用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係  
總製品質ステイプルアイボイ等通用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係  
總製品質ステイプルアイボイ等通用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係  
總製品質ステイプルアイボイ等通用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係

割當票ヲ豫カシメ交付シ其ノ票ニ依リ豫カシメ購入セシメ其ノ特定月ノ到來後其ノ月中ニ割當票數量ノ綿絲ヲ使用セシムル規則ノ精神ナルモ時ニ割當票ノ交付カ遅延スル場合アリ又割當票ニ依リ購入シタル綿絲カ或特定月中ニ使用シ盡サレナルコトモアリ故ニ一旦割當票ニ依リ購入シタル綿絲ハ必スシモ其ノ特定月ニ於テ使用スルヲ要セス翌月若クハ其ノ後ニ持越使用スルモ敢テ差支ヘナク又同規則ハ割當票ノ失效ニ付テ何等規定スル所ナキヲ以テ見レハ要ハ割當票ニ依ラスシテ購入シタル綿絲ノ使用ヲ禁止スル法ノ精神ナルコト明カナリ又今日實際ノ取扱ハ割當票ノ交付ハ迅速ニ進捗セス或特定月ノ經過後漸ク其ノ特定月ノ割當票カ交付セララルル現狀ナリ本件ニアリテモ昭和十三年三月分割當票ハ四月十四日ニ交付セラレ又同年四月分割當票ハ其ノ月ノ中途四月十四日四月十六日ニ交付セラレ七月分ハ八月ノ中途七月十六日七月二十七日ニ交付セラレ八月分ハ九月初頃交付セラレ居ル事實ニシテ綿絲配給統制規則ノ所謂割當タル數量トハ或特定月ノ使用限度ヲ示スモノト解釋スルトキハ全ク不能ヲ責ムルモノトイフヘシ原審判決ハ割當タル數量ニ關シテハ之ヲ以テ或特定月ノ使用限度ト解シ昭和十三年三月ノ使用ニ對シテハ三月分ノ割當票ヲ對比シ同年四月ノ使用ニ對シテハ四月分ノ割當票ヲ對比シ同年五月分ノ使用ニ對シテハ五月分ノ割當票ヲ對比シ昭和十三年六月三日入手シタル綿絲二百玉ノ内ノ使用數ニ之ヲ對比セサリシハ全ク同規則ノ解釋ヲ誤リタルモノナリ本件ニ於テ被告人カ昭和十三年三月以來毎月割當票ヲ受領スルト同時ニ之ヲ大阪本社ニ送付シ其ノ後未タ一回モ綿絲ノ送付ヲ受

ケサル後昭和十三年六月三日頃初メテ二百玉ノ綿絲ノ送付ヲ受ケ割當票ニ依リ購入シタル綿絲ナリト信シ從來受取りタル三月ヨリ七月迄ノ割當票數量計百五玉ヲ超過セサル九十三玉ヲ使用シタル事實ニシテ同規則ノ正當ナル解釋トシテハ昭和十三年三月以來ノ割當數ヲ漸次繰越シ其ノ積算割當數ト同年六月三日入手セル二百玉中ノ使用數トヲ對比シ違反ノ有無ヲ決スヘキニ拘ラス其ノ解釋ヲ採ラサリシハ違法ナリトスト云フニ在リ

【要旨第二】

仍テ案スルニ昭和十三年三月一日ヨリ施行セラレタル同年商工省令第六號綿絲配給統制規則(以下配給規則ト略稱ス)第一條ニ依レハ綿織物ノ製造加工業者(工業者)ハ同條但書ノ場合ヲ除キ割當數量ヲ超エ綿絲ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス換言スレハ工業者ハ割當テラレタル數量ノ綿絲ヲ使用スル範圍ニ於テノミ國內消費用綿織物ノ製造ヲ爲シ得ルモノトス而シテ該規則ハ昭和十三年二月一日ヨリ施行セラレタル同十二年商工省令第三十五號綿製品ステールファイバール等混用規則(以下混用規則ト略稱ス)第二條第一項但書ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合又ハ昭和十三年六月二十九日ヨリ施行ノ同年商工省令第三十七號綿製品ノ製造制限ニ關スル件(以下製造制限令ト略稱ス)第一項但書ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニモ等シク適用セララルヘキモノナルコトハ如上三省令ノ規定ノ精神ニ徴シ寔ニ明白ナリ蓋シ混用規則第二條第一項但書ニ於ケル地方長官ノ許可ハ同條項本文所定ノ混用ノ強制ヲ全部又ハ一部特免スル裁量タルニ止マリ其ノ使用綿絲ノ數量ニ關スル制限免除ノ裁量

統製品ステールファイバール等混用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一條トノ關係  
綿絲ノ製造制限ニ關スル件第一項ニ所謂綿織物ノ製造ノ意義



スレハ割當表ニ依ラスシテ割當制實施以前ヨリ既ニ入手シ居リタル綿絲即チ所謂手持品モ亦割當票ニ依リテ入手シタルモノト同様數量ノ割當ニ依リ共ノ使用ノ制限ヲ受クル法意ナリト解スヘク他方所謂仕掛品ニ關シテハ其ノ完成ノ爲使用スル綿絲カ配給規則第一條ノ數量割當ノ制限ノ範圍外ナルコトヲ認ムヘキ規定ノ存在セサルヲ以テ之ニ同規則ノ適用アルヤ論ナキノミナラス彼ノ製造制限令附則第三項ニハ本令施行ノ際現ニ仕掛中ノモノニ付テハ本令ヲ適用セサル旨ノ規定存スルモ其ハ現ニ仕掛中ノモノハ同省令第一項ノ地方長官ノ許可ヲ要セスシテ之カ製造工程ヲ進メ得ヘキ旨ヲ明カニスル趣旨ニ出テタルモノニシテ仕掛中ノモノナルカ故ニ其ノ完成ノ爲ニハ數量ノ割當ヲ緩タスシテ任意數量ノ綿絲ノ使用ヲ許容セントスル趣旨ノモノニ非サルコト明白ナリ從テ同項ノ場合ニ於テモ亦配給規則ノ適用アルモノト解スルヲ妥當トスレハナリ而シテ記録ニ徵スルニ判示小杉分工場ニ對スル綿絲割當數量ハ昭和十三年三月分十六玉四月分二十五玉五月分十六玉六月分十三玉七月分四十五玉八月分二十五玉合計百二十五玉ナルコトヲ知ルニ足レリト雖右小杉分工場ニ對スル同年三月分ヨリ五月分ニ至ル割當數量合計五十二玉ニ過キサルニ拘ラス本件綿絲織物製織用トシテ同年五月末迄ニ同分工場其ノ他ニ於テ綿絲ノミニテモ此ノ割當數量ヲ超過スル數量ノ綿絲ヲ使用シタルコトモ亦原判決ノ援用スル證據ニ依リ之ヲ明認シ得ル所ナルカ故ニ右割當ノ五十二玉分ハ既ニ使用済ノモノナリ從テ其ノ以後使用シタル綿絲ニ付更ニ此ノ分ノ割當アルコトヲ主張シ得ヘカラサル筋合ナリト然ラハ原判決カ右五十二玉分ヲ割當

數量ノ計算ヨリ除外シ同年六月分以降八月分迄ノ割當數量ト其ノ間ニ於ケル使用數量ヲ對比シ超過數量ヲ算出シタルハ相當ナリ結局原判決ニハ所論ノ如キ審理不盡法則誤用等ノ違法ノ點存セサルヲ以テ論旨孰レモ理由ナシ

辯護人瀧本眞上告趣意書第二點公訴第二事實ハ「昭和十三年六月二十九日以後ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ國內用綿織物ハ製造スルコトヲ得サル事情ヲ知悉シ乍ラ富山縣知事ノ許可ヲ受ケスレテ同年八月三日頃ヨリ同月二十五日迄ノ間ニ右小杉分工場ニ於テ織機二臺ヲ以テ英式二十番手同十番手ノ純綿絲九十八玉ヲ使用シ國內用織物ナル滿鐵帆布ノ製造ヲ爲シタルモノナリ」ト主張セラレ第二審判決モ全部此ノ事實ヲ認メテ「富山縣知事ノ許可ヲ受ケスレテ昭和十三年八月三日頃ヨリ同月二十五日迄ノ間ニ引續キ右小杉分工場ニ於テ英式十番手ノ純綿絲五玉ヲ緯絲トシ英式二十番手ノ純綿絲九十三玉ヲ經絲トシテ仕掛ケテ輸出品及輸出品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノニ非サル國內用織物ナル滿鐵用帆布一反足ラス(約八十碼)ノ製造ヲ爲シタルモノ」トシテ有罪ノ判決ヲ爲サレタリ然レトモコハ法則ノ適用ヲ謬リタル違法アルモノト信スルヲ以テ以下其ノ理由ヲ陳述シ御院ノ御明鑑ニ訴ヘントス公訴第二事實ハ昭和十三年六月二十九日施行セラレタル綿製品製造制限規則ニ基キ地方長官ノ許可ヲ得スシテ純綿絲九十八玉ヲ使用シテ滿鐵用帆布ヲ製造シタル行爲カ同令違反ナリト爲スモノナレトモ原審ハ(イ)第一ニ本件使用行爲カ試作品ナル點ヲ看過シ(ロ)第二ニ製造行爲トシテハ未達ノ域

綿製品製造制限規則第一項  
一、本件使用行爲カ試作品ナル點ヲ看過シ(ロ)第二ニ製造行爲トシテハ未達ノ域



ヲ脱セス未タ製造ト云フ能ハサル點ヲ認リ解釋シ(ハ)第三ニ九十八玉ノ綿絲中織機ニ掛ケタルハ二  
 臺ニテ十玉ノミニシテ残り八十八玉ハ未タ織機ニ掛ケサル點ヲ看過シテ等シク製造行爲ト解釋シタル  
 モノニシテ法律上承服シ能ハサル認定ナリト信スルナリ(イ)第一審公判廷ニ於テ被告ハ陳述シテ曰  
 タ「昭和十三年七月頃ニハ内八臺ヲ毛ト麻ヲ織ル捺染用ラツピングダクロスヲ織リ残り二臺ト外ニ  
 五臺ノ織機カ休ンテ居リマシタノヲ私ハ當時長男ノ三上一夫ニ相談シマシタ處一夫ハデハ南滿洲鐵道  
 用ノ帆布ヲ試験ノ爲メニ織ツテ見タラ良イト云フコトテアリマシタカラ知事ノ許可ヲ受ケマセスニ小  
 杉分工場ヲ織機二臺ヲ以テ英式二十番手ノ純綿絲九十八玉ヲ使ツテ織リ掛ケタノテアリマス」ト供述  
 シ居レリ即チ本件九十八玉ノ綿絲ノ使用ハ試作品製造ノ爲メナリシコト明カナリ試作品ノ製造ハ適法  
 ナル手持品ノ使用行爲ナリ既ニ手持品ナルモノヲ認メテ(綿絲配給統制規則附則第三項)之ヲ絶對的  
 不融物視セサル以上之ヲ試作ノ爲メニ用フルコトハ可能ニシテ而モ適法ナル行爲ナリト信スルモノナ  
 リ試驗的ノ使用ハ即チ試驗用ニ供スルモノニシテ本質上綿絲ノ本格的ノ使用トハ甚シク異ナレリ凡テ試  
 驗的ノモノハ本格的ノモノト性質ヲ異ニスルコトハ吾人ノ常識及實驗則ノ肯定スル所ニシテ試驗的ニ  
 製造シタルハ假ノ行爲ニシテ勅令ニ所謂製造ニ該當セサルコトヲ信スルモノナリ(ロ)而シテ綿織物  
 ノ製造行爲トシテハ現ニ仕掛中ニシテ製造行爲トシテハ完成シタルモノニ非ス未タ未達ノ狀態ナリ故  
 ニ之ヲ處罰セムトスレハ特別ノ法條ヲ必要トス(刑法第六〇條)以下未タ織機ト云フ能ハサル理由ヲ

陳述シテ御院ノ御明斷ヲ仰カントス(イ)綿製品製造制限規則ハ「綿織物ヲ製造スルコトヲ得ス」ト  
 規定シ製造ナル行爲ニ因リテ綿織物ナル結果ニ到達セシムルコトヲ要件トセリ然ルニ本件ノ行爲ハ仕  
 掛中ニ屬シ織機二臺ノ内一臺ハ整經中ナリ他ハ織付中ニシテ現ニハタゴニ掛リ居リ未タ一反ノ三分ノ  
 二ヨリ織リ上ラサル程度ナリ即チ綿織物ノ製造ニ著手セルニ止マレル狀態ニシテ未タ完成シ居ラス之  
 又辯護人カ未達ナリト稱スル所以ナリ之ヲ完成品即チ綿織物ト云ハムカ爲メニハ先ツ全部ヲ織リ上ケ  
 缺ニテ切斷シ織機ヨリ下ロシ始メテ茲ニ織付ケカ完成ヲ見ルモノニシテ製造ト云ヒ得ルナリ綿織物製  
 造制限規則附則第三項ニ「本令施行ノ際現ニ仕掛中ノモノニ付テハ本令ヲ適用セス」ト規定シ「仕掛  
 中」ナル字義ノ解釋ヲ昨年六月二十九日商工省通牒一三號ヲ以テ「附則第三項ノ仕掛中ノモノハ左ニ  
 依リ取扱フコト綿織物ニ在リテハ整經以後ノ工程ニ在ルモノ」ト認メ居レリ本件ハ正ニ整經以後ノ工  
 程ニ在ルモノニシテ正シク整經中ニ屬ス整經中ノモノハ綿織物製造工程中ニ在ルモノニシテ綿織物ヲ  
 製造セリトハ云フコト能ハサルナリ未タ其ノ域ニハ達セス即チ綿織物製造行爲トシテハ未達ノ狀態ニ  
 テ放置セラレ在ル現狀ナリトス(ろ)現ニ仕掛中ノモノヲ織付ケ中ノモノヲ綿織物ト云フコト能ハサル  
 ハ殆ント多言ヲ要セサル所ナリト信ス一、商工省通牒綿織物綿莫大小ノ意義ニ關スル件ハ「六月二十  
 九日附省令第三十九號ノ綿織物綿莫大小ハ生地物及晒捺染ヲ施シタルモノニシテ裁斷裁縫ヲ加ヘサル  
 一切ノモノヲ云フ」ト云ヒテ生地物ト稱シ製造中ノモノヲ加ヘス二、商工省通牒各種織物ノ織機物種

綿製品製造制限規則第二條第一項但書ト綿織物製造制限規則第一條第一項但書ト  
 綿製品製造制限規則第二條第一項但書ト綿織物製造制限規則第一條第一項但書ト  
 綿製品製造制限規則第二條第一項但書ト綿織物製造制限規則第一條第一項但書ト

類ニ關スル件ニ於テモ「綿織物ト稱スルハ綿絲ノミヲ以テ製織シタル純綿織物ヲ謂フ」ト規定シテ續  
 リ付ケ中ノモノヲ包含セシメス三、兵庫縣警察部經濟保安課內兵庫縣商工保安聯合會ノ綿製品製造制  
 限規則ノ解説中ニ於テハ、「綿織物トハ綿絲ノミヲ以テ製織シタルモノノ外交織物ニシテ總經緯絲  
 類中ノ中綿絲ノ數カ最多キ織物ヲ云フ」ト爲シ又、「綿織物トハ織物ノ形體ヲ爲シテ居ルモノヲ  
 云ヒ短尺物廣幅物小幅物何レヲモ包含シテ居ルノテアツテ唯幅五吋未滿ノモノ細幅織物ハ此處ニ云フ  
 綿織物ノ中ニ包含セシメテ居ナイ」ト爲シ更ニ、「製造スルコトヲ得スナル規定ノ意味如何ト云フ  
 ニ製造ナル字句ハ通常非常ナ廣範圍ニ使用サレル場合ト適確ニ製造ナル字句ニ當テ嵌マル場合ノミヲ  
 指ス場合ト二様アル様テアルカ此處ニ云フ製造トハ極メテ狹義ニ用キラレテキルノテアル即チ綿絲ニ  
 付テハ紡績ヲ綿織物ニ付テハ製織ヲ綿莫大小ニ付テハ編立ヲ意味シテ居ルノテアツテ其ノ他ノ製造ニ  
 關スル準備工程或ハ仕上工程ノミヲ行フ場合ハ製造トハ解シナイノテアル」ト説明セリ辯護人ハ本件  
 ハ勅令ニ所謂「綿織物ヲ製造セリ」トハ云フコト能ハサル案件ナリト確信スルモノナリ(ハ)原判決  
 ハ九十八玉ヲ全部國內用織物ノ製造ニ使用セリト認定セラレタルモ織機二臺中ニ掛リタルモノハ僅カ  
 ニ其ノ内十五ノミニシテ他ノ八十八玉ハ整經中ニ屬シ織機ニスラ掛リ居ラス之ヲ目シテ織物ヲ製造セ  
 リトハ如何ニシテモ云ヒ難キ所ナリト信ス縣知事ノ許可ハ織物完成迄ニ取得スレハ可ナリ此ノ八十八  
 玉迄モ織物ノ製造ナリト認定シタルハ甚シク不當ニシテ辯護人ハ切ニ御院ノ適正ナル御判斷ヲ仰ク次

第ナリトス以上論スルカ如ク公訴第二事實ハ法律上罪トナラサル行爲ニシテ原判決ハ破毀セラルヘキ  
 モノナリト信スト云ヒ辯護人國本善造上告趣意書第三點原判決第二事實ハ富山縣知事ノ許可ヲ受ケ  
 スシテ昭和十三年八月三日頃ヨリ同月二十五日迄ノ間ニ引續キ右小杉分工場ニ於テ英式十番手ノ純綿  
 絲五玉ヲ緯絲トシ英式二十番手ノ純綿絲九十三玉ヲ經絲トシテ仕掛ケ國內用織物ナル滿鐵用幌布一反  
 足ラスノ製造ヲ爲シタル事實ヲ認定セリ而シテ右事實認定ノ基本タル採用證據ニ依レハ織機一臺ニ四  
 反分宛二臺ヲ仕掛ケ織機一臺ニ付約半反宛織上ケタル事實ナリトス昭和十三年六月二十九日商工省令  
 第三十七號製綿品ノ製造制限ニ關スル省令ノ所謂綿織物ノ製造トハ綿織物製造ノ既述ヲ謂スル趣旨ニ  
 シテ未遂ヲ謂セサルコトハ同省令ニ未遂ヲ謂スル旨ノ規定ナキコト竝ニ刑法第四十四條ノ規定ニ徴シ  
 明カナリ織物ノ製造トハ社會通念上其ノ織物カ商品トシテ取引ノ目的ニ供セラルルノ程度ニ完成セラ  
 ルルコトヲ要ス製織工程ニ於ケル一箇々ヲ以テ織物ノ製造ト稱シ得サルハ何人モ肯定スル所ナルハ  
 シ古來織物ヲ反物ト稱スルハ一反ヲ以テ織物ノ取引單位トナスカ爲メナリ故ニ一反ニ違セス而モ織機  
 ニ仕掛中ノモノヲ以テ織物ト稱シ得サルハ勿論織物製造ノ完成ト稱シ得サルコト寔ニ見易キ道理ナリ  
 果シテ然ラハ原判決第二事實ハ織物製造ノ未遂罪ニシテ法ノ不問ニ付スル處ナルニ係ハラヌ之ヲ謂シ  
 タルハ違法ナリトスト云フニ在レトモ

原判示第二事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ所論幌布カ所謂試作品ナリトコトハ原判決ノ認定セサル所

綿製品ステイブルアイバニ等混用規則第二條第一項但書ト綿絲配給統制規則第一  
 條トノ關係ニ關シテ製造制限ニ關スル件第一項但書ト綿絲配給統制規則第一  
 條トノ關係ニ關シテ製造制限ニ關スル件第一項但書ト綿絲配給統制規則第一  
 條トノ關係ニ關シテ製造制限ニ關スル件第一項但書ト綿絲配給統制規則第一

ニ係リ又記録ヲ調査スルモ其ノ事實ヲ確認スルニ足ラサルノミナラス製造制限令第一項ハ其ノ製造ノ目的如何ヲ問ハス一般のニ製造ノ禁止ヲ命スルモノナルカ故ニ所論靴布カ假ニ試作ノ爲ニ製造セラレタリトスルモ尙右省令ニ違反スルヤ勿論ナリ又同省令ニ所謂綿織物ノ製造タルニハ其ノ製織ノ作業ニ著手セル事實アルヲ以テ足り必スシモ製織工程完了ヲ俟ツヲ要セサルモノト解スヘク從テ整理後緯絲ヲ使用シ織出ノ工程ニ達シタル場合例之織成分數尺ニ達シタル場合ハ之ヲ目シテ製造ト謂フヲ妨ケサルモノトス蓋シ右省令ニ依リ綿織物ノ製造ヲ禁止スルハ畢竟綿製品ノ部門ニ於テ棉花ノ輸入ヲ防止セン爲不念ノ消費ヲ防遏シ不念ノ生産ヲ抑制シ因テ以テ時局ニ適應スル需給關係ノ調整ヲ圖ラントスル主旨ニ出ツ從テ製織工程ノ完成ニ到ル迄ハ其ノ製造作業ノ繼續ヲ許スヘシトスル如キハ右省令ノ精神ニ背反スレハナリ而シテ本件ニ於テ被告人カ當該官廳ノ許可ヲ受クルコトナクシテ純綿絲九十三玉ヲ經絲トシテ仕掛ケ純綿絲五玉ヲ緯絲ニ使用シテ判示靴布一反未滿(約八十碼)ノ製造ヲ爲シタルコト原判示ノ如クナル以上右所爲ハ所謂綿織物ヲ製造シ右省令ニ違反シタルモノニ該當シ其ノ使用綿絲カ手持品タルト否トノ如キハ毫モ右判定ニ消長ヲ及ホスコトナキハ如上説明竝ニ既ニ濫本辯護人上告論旨第一點ニ對シ配給規則ト手持品トノ關係ニ付キ説明セル趣旨ニ徴シテ之ヲ了解スヘシ然ラハ則原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事山井浩關與

○常習累犯竊盜被告事件 (昭和十四年(九)第四二八號 棄却)  
(同年七月十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 青山源太郎 辯護人 長瀬達郎  
 【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條所定ノ罪ト累犯加重

○判決要旨

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條ニ該當スル犯人ニシテ其ノ罪刑法累犯ノ條件ヲ具備スルニ於テハ之ニ基ク刑ノ加重ヲ爲スヘキモノトス

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條定ノ罪ト累犯加重

【參照】

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第二條 常習トシテ左ノ各條ノ方法ニ依リ  
 刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ  
 其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニ對シ竊盜ヲ以テ論スベキトキハ三年以上、強盜ヲ以テ論  
 スベキトキハ七年以上ノ有期懲役ニ處ス

- 一 兇器ヲ携帯シテ犯シタルトキ
- 二 二人以上現場ニ於テ共同シテ犯シタルトキ
- 三 門戶、鑰匙等ヲ越越竊取シ又ハ強盜ヲ開キ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造  
 物若ハ船隻ニ侵入シテ犯シタルトキ
- 四 夜間人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船隻ニ侵入シテ犯シタルトキ

同法第三條 常習トシテ前條ニ掲ケタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者  
 ニシテ其ノ行為前十年内ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以  
 上六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ  
 科スベキトキハ前條ノ例ニ依ル

刑法第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ通用ス但共法  
 令ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

同法第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨ  
 リ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨ  
 リ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ(一)昭和三年五月二日東京區裁判所ニ於テ竊盜罪ニヨリ懲役三年(二)昭和六年六月二十九日東京地方裁  
 判所ニ於テ常習罪竊盜罪ニヨリ懲役三年六月(三)昭和十年十二月十六日東京控訴院ニ於テ同罪ニヨリ懲役三年ニ  
 處セラレ當時右各刑ノ執行ヲ受ケ最後ノ(三)ノ刑ニ付テハ昭和十四年一月四日其ノ執行ヲ終リタルモノナルトコロ  
 更ニ常習トシテ

- 一 昭和十四年一月十三日午後二時頃東京市豊島區池袋二丁目二百三番地山根みね子方ニ於テ家人不在中同人所有  
 ノ衣類三點(價格合計金二十圓相當)ヲ
- 二 同月十六日午前十一時四十分頃同市同區長崎町四丁目十九番地三本木八百藏方ニ於テ家人不在中同人所有ノ衣  
 類寫眞機製圖用機械等合計十三點(價格合計金百二十六圓二十錢相當)ヲ
- 三 同月二十二日午後二時三十分頃同市淀橋區下落合三丁目二百七番地松村菊實方ニ於テ家人不在中同人所有ノ衣  
 類九點(價格合計八十九圓相當)ヲ

竊取シタルモノリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條第二條刑法第二百三十五條ニ該當スルトコ  
 盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條所定ノ罪ト屬知重

前示(二)及(三)ノ各前科アルヲ以テ刑法第五十六條第五十七條第五十九條ニ則リ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ累犯加重ヲ爲シタル刑期ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人長瀬達郎上告趣意書第一點原判決法律適用ノ部ヲ觀ルニ「被告人ノ判示所爲ハ盜犯等ノ防止處分ニ關スル法律第三條第二條刑法第二百三十五條ニ該當スルトコロ判示(二)及(三)ノ各前科アルヲ以テ刑法第五十六條第五十七條第五十九條ニ則リ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ累犯加重ヲ爲シタル刑期ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘキモノトス」ト判示シタリ即チ原判決ハ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條第二條ノ外累犯加重トシテ刑法第五十六條第五十七條第五十九條ヲ適用處斷シタルモノナリ然レトモ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條ニハ「常習トシテ前條ニ掲ケタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ其ノ行爲前十年内ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以上六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科スヘキトキハ前條ノ例ニ依ル」ト規定シアリテ被告人ハ本件犯行前十年以内ニ原判決冒頭記載ノ如キ前科アルヲ以テ右法條ノ規定ニ依リ第二條ノ例ニ依リ刑ヲ科シタルモノナルヲ以テ此ノ外更ニ累犯

加重ヲ爲スヘキモノニアラスト信ス然ルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ盜犯等防止及處分ニ關スル法律第三條ニ依リ第二條ヲ適用シナカラ更ニ刑法ノ累犯加重ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ

仍テ審按スルニ常習トシテ刑法第二百三十五條第二百三十六條第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ其ノ行爲前十年内ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以上六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科スベキトキハ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第二條ノ例ニ依ルベキモノナルコトハ同法第三條ノ明定スル所ナリ而シテ右第二條ノ法意ハ該條所定ノ犯人ニ對シ竊盜ヲ以テ論スベキトキハ三年以上ノ有期懲役ニ強盜ヲ以テ論スベキトキハ七年以上ノ有期懲役ニ處スト云フニ止マリ當該犯罪ガ刑法所定ノ累犯ニ該當スルトキト雖モ累犯ニ基ク刑ノ加重ヲ爲サズト云フガ如キ趣旨ヲ包含スルモノニ非ザルコト疑ヲ容レズ蓋同條ニハ斯カル趣旨ヲ示ス文詞ハ絶テ之ヲ見ザルノミナラズ抑同條ハ當該犯罪ガ刑法所定ノ累犯ニ該當スルヤ否ヤト云フガ如キコトハ全ク眼中ニ眞クコトナクシテ設ケラレタル規定ニシテ從テ如上累犯處分ノ特例ヲ定メタルモノト解スベカラザルコト多言ヲ俟タザル所ナレバナリ趣旨右第三條ノ趣旨亦常習トシテ刑法第二百三十五條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ所定ノ前科ヲ有スルトキハ二年以上ノ有期懲役ヲ以テ其ノ法定刑トシ常習トシテ刑法第二百三十六條第二百三十八條若ハ

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第三條所定ノ罪ト累犯加重

第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ同上前科ヲ有スルトキハ七年以上ノ有期懲役ヲ以テ其ノ法定刑トスト云フニ止マリ所論ノ如ク刑法累犯ニ依ル刑ノ加重ヲ排除シタル趣旨ニ非ザルコト明カナリ從テ如上犯人ニシテ刑法累犯ニ該當スルニ於テハ右各法定刑ニ刑法所定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ處斷スベキハ當然ノコトニ屬ス若シ夫レ右第三條ヲ解スルニ所論ノ如キ見解ヲ採ランカ前掲犯罪ヲ犯シ常習ト認メラザル者刑法所定ノ累犯ニ該當スルトキハ(殊ニ前科ノ回數三回ニ及バザルトキ前科刑懲役六月以下ナルトキニ於テモ)則チ當該犯罪ニ對スル法定刑ヲ加重セラレ二十年ニ至ルマデノ範圍内ニ於テ處斷セラルルニ拘ラズ常習トシテ前掲犯罪ヲ犯シタル者ハ三回以上懲役六月以上ノ刑ニ處セラレ居レルトキト雖モ刑法累犯ニ依ル刑ノ加重ヲ免ルルノ結果之ニ對シ十五年ヲ超ユル刑ヲ量定スルコトヲ得ザルコトトナルベク斯ノ如キハ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ノ精神ニ馳背スルコト亦遠シト謂フクベ此ノ點ヨリ見ルモ所論ハ到底採用シ得ベキ所ニ非ズ然レバ右説明スル所ト同一見解ニ出デタル原判決ノ擬律ハ至當ニシテ何等違法ノ點アルコト莫シ論旨理由無シ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決ス

檢事横田麟二關與

○狩獵法違反及狩獵法違反教唆被告事件 (昭和十四年(九)第四百七八號 昭和十四年七月十九日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 谷口末吉 辯護人 (黒川新一)

【第一審】 大津區裁判所 【第二審】 大津地方裁判所

○判示事項

甲種狩獵免狀ヲ有スル者ノ無免許狩獵行為教唆

○判決要旨

狩獵免許ヲ受ケタル者無免許者ヲ教唆シ狩獵鳥獸ノ捕獲行為ヲ爲サシメタルトキハ其ノ教唆罪ヲ構成スルモノトス

【參照】 狩獵法第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受ケルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル法  
甲種狩獵免狀ヲ有スル者ノ無免許狩獵行為教唆

器、新、續、編、製、鋼、又ハ良ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ鋼、機、其ノ他ノ開、除、ア  
ル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニアラス

同法第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免許ヲ下付ス

甲種狩獵免許ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免許ハ銃器  
ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免許ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ  
九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

主務大臣ハ特種ノ狩獵鳥獸ノ保護審議ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間内ニ於  
テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非ナレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第六十一條 人ヲ殺害シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ各罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納ス  
ルコト能ハサルトキハ各金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲  
シタリ

被告人山本松之助ハ甲種狩獵免許ヲ有スルモノニシテ被告人谷口末吉ハ狩獵免許ヲ受有セサルモノナルトコロ

(一) 被告人山本松之助ハ昭和十四年一月八日頃ヨリ同月二十二日頃迄ニ至ル間前後五回ニ互リ滋賀縣高島郡本庄村  
大字南船木九十九番屋敷ナル被告人谷口末吉方ニ於テ同被告人ニ對シ同人力狩獵免許ヲ有セサルコトヲ知悉シナカ

ラ流竊ヲ使用シテ鴨ヲ捕獲スヘキ旨依頼シテ教唆シ因テ同被告人ヲシテ後記(二)ノ如ク無免許狩獵行為ヲ爲サシ

(二) 被告人谷口末吉ハ右教唆ニ基キ犯意ヲ繼續シテ同年一月八日頃ヨリ同月二十二日頃迄ニ至ル間前後五回ニ互リ

同縣同郡本庄村大字四津川内湖外二箇所ニ於テ流竊ヲ使用シテ本鴨八羽子鴨四羽ヲ捕獲シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人谷口末吉ノ判示所爲ハ狩獵法第三條第二十一條第一項第一號刑法第五十五條ニ被告人山本松之助  
ノ判示所爲ハ狩獵法第三條第二十一條第一項第一號刑法第六十一條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金  
額範圍内ニ於テ被告人等ヲ夫々主文ノ如ク處斷スヘク被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各刑法第  
十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○ 理 由

各被告人辯護人黒川新作、木村得一上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナ  
ル事由アリ破毀ヲ免レサルモノト思料ス即チ原判決ハ甲種狩獵免許ヲ有スル上告人山本松之助ト狩獵免許ヲ有セサル  
上告人谷口末吉トノ相關連セル狩獵行為ニ付次ノ如ク犯罪事實ヲ認定シタリ被告人山本松之助ハ甲種狩獵免許ヲ有ス  
ルモノニシテ被告人谷口末吉ハ狩獵免許ヲ有セサルモノナルトコロ(一)被告人山本松之助ハ昭和十四年一月八日頃  
ヨリ同月二十二日頃迄ニ至ル間前後五回ニ互リ滋賀縣高島郡本庄村大字南船木九十九番屋敷ナル被告人谷口末吉方ニ

甲種狩獵免許ヲ有スル者ノ無免許狩獵行為教唆

於テ同被告人ニ對シ同人カ狩獵免許ヲ有セサルコトヲ知悉シ乍ラ流竊ヲ使用シテ鴨ヲ捕獲スヘキ旨依頼シテ對峙シ因テ同被告人ヲシテ後記(二)ノ如ク無免許狩獵行爲ヲ爲サシメ(二)被告人谷口末吉ハ右教唆ニ基キ犯意ヲ繼續シテ同年一月八日頃ヨリ同月二十二日頃迄ニ至ル間前後五回ニ互リ同縣同郡本庄村大字四津川内湖外二箇所ニ於テ流竊ヲ使用シテ本鴨八羽子鴨四羽ヲ捕獲シタルモノナリ然レトモ右犯罪事實ノ認定ハ原判決カ上告人兩名ニ對スル共犯關係ヲ認定スルニ急ナル餘リ狩獵免許ヲ有スル者カ狩獵ヲ爲スニ當リ補助者ヲ使用シ得ルヤ否ノ點ヲ閉却シタル重大ナル事實ノ誤認アルモノト謂フヘキナリ即チ狩獵ニ關シテハ(イ)場所ニ對スル制限(法第十一條第十六條)(ロ)時ニ對スル制限(第五條第二項第十六條)(ハ)捕獲鳥獸ニ對スル制限(第一條)(ニ)狩獵方法ニ對スル制限(第五條第一項第十五條)アリ而モ狩獵方法ニ對スル制限トシテハ甲種狩獵免狀ヲ有スルモノハ銃器以外ノ方法ヲ以テ爲ス狩獵即チ網、罾、罟又ハ罾ヲ使用シテ狩獵スルコトヲ得ルモノナリ而シテ上告人山本松之助ハ甲種狩獵免狀受有者ナルヲ以テ本件ノ竊獲ヲ以テ狩獵スルコトハ許容セラルル所ナリ而モ網即チ罾網ノ如キ又復流竊網ノ如キ狩獵方法ニ依ル場合ハ狩獵免狀受有者一人ノ能ク爲シ能ハサル場合多ク從テ之カ補助者ヲ必要トスルヤ言フ俟タサル所ナリ即チ獵具ノ運搬、取付ノ如キ或ハ山腹ニ網ヲ張り下方ヨリ兎ヲ追出シ捕獲スル場合ニ所謂補助者トシテ勢子ヲ必要トスルカ如キ何レモ一定ノ範圍ニ於テ補助者ヲ必要トシ使用スルコトハ甲種狩獵免許者ニ對シテハ慣習上當然認シ來リタル所ナリ而シテ本件ノ場合ヲ見ルニ上告人山本松之助ハ甲種狩獵免許者有シ居リ網、罾網等ノ方法ニ依リ所謂補助者ヲ必要トスルモノニシテ上告人谷口末吉ハ狩獵免狀ヲ有セズ單ナル補助者トシテ上告人山本松之助ノ指揮監督ノ下ニ其ノ雇人トシテ補助行爲ヲ爲シタルニ過キサルモノナルコトハ原案公判調書ノ山本松之助ノ供述中「其ノ雇末々述ヘヨ」答「私ハ本年一月八日頃ノ朝谷口方ニ行キ同人ニ流竊ヲヤラウト思フカラ手傳ニ來テ吳レト頼シテ置キマスト同日午後同人ハ私方ニ來テ吳レタノテ二人テ藤ノ蔓ニ竊ヲ附ケテ竊網ヲ作りマシタ云々」問「谷口ニ對シテハ手間賃ヲ

拂フコトニシテアツタノカ」答「私ハ谷口ヲ頼ミニ行ツタ際一回ニ一圓五十錢出スト申シテ置キマシタ云々」問「右流竊ニヨリ全部テ何程ノ獲物カアツタカ」答「右申上ケタ五回テ本鴨八羽子鴨四羽ヲ捕リマシタ」問「價格何程ノモノカ」答「十五、六圓位ノモノト思ヒマス右鴨ヲ全部私ハ谷口ヨリ受取りマシタカ心易イ人ニヤツタリ又自宅テ食ヘタリシテ仕舞ヒ一羽モ賣リマセテシタ」問「谷口ニハ手間賃ヲ拂ツタカ」答「五分分七圓五十錢ヲ支拂ヒマシタ」云々トアリ又原案公判調書ノ谷口末吉ノ供述中間「山本松之助ハ狩獵免狀ヲ受ケテ居ルカ」答「山本ハ甲種狩獵免狀ヲ受ケテ居リマス又甲種ト言フノハ鐵砲以外ノ方法ニヨル狩獵免狀テアリマス」問「全部テ何程獲物カアツタカ」答「本鴨八羽子鴨四羽ヲ取りマシタ値段ニスレハ全部テ十五、六圓位ノモノト思ヒマス」問「右鴨ハ全部山本ニ渡シタカ」答「左様テス全部山本ニ渡シマシタ」問「被告人ハ山本ヨリ手間賃ヲ貰フタカ」答「一回ニ一圓五十錢五回テ七圓五十錢貰ヒマシタ山本ハ初メ手間賃ヲ出スト言フテ居リマシタカ其ノ額ヲ決メマセテシタ所一回一圓五十錢ノ割テ勘定シテ呉レタノテス」ト供述シ居リ第一審公判ニ於テモ同趣旨ノ供述ヲ爲シ居リ又司法警察官ノ谷口末吉ニ對スル聽取書中七ニ於テ山本松之助ト言フ甲種狩獵免許ヲ持ツテ居ル人ニ雇ハレテ本度地先ノ琵琶内湖及外ノ琵琶湖ノ葦水面ニ流竊ヲ張り捕獲シテ居ルノテアリマス云々又檢事ノ上告人谷口末吉ニ對スル聽取書中「新種ナ風ニシテ一月二十六日迄ノ間私一人テ山本ニ頼マレテ竊網ヲ張りニ五回行キマシタカ獲物ハ本鴨八羽子鴨四羽アリマシタ」云々又司法警察官ノ上告人山本松之助ニ對スル聽取書中「流竊ヲ流スニ付テ私ハ何分老齡ノ事故一々流竊ヲ流スノニ私一人テスルコトハ出來ナイノテ本庄村南船木ノ谷口末吉ヲ備ヒ鴨ノ捕獲ノ手助ケヲサセテ居リマシタ云々」トアリ上告人山本松之助ヨリ上告人谷口末吉ニ對シ手傳ヲ依頼シタルコト一回ニ一圓五十錢宛ノ手間賃ヲ支拂ヒ居ルコト捕獲シタル鴨ハ全部谷口末吉ヨリ山本松之助ニ交付シ居ルコト獵ハ山本松之助方ニ於テ作り同人ノ所有ナル事實等ニ徴スルトキハ本件ハ甲種狩獵免狀ヲ有スル山本松之助カ狩獵免狀ヲ有セサル谷口末吉ヲ補助者トシテ雇入レ自己ノ指揮監督ノ

甲種狩獵免狀ヲ有スル者ノ無免許狩獵行爲教唆



下ニ使用者トシテ働カセタル事實ヲ窺知スルニ充分ナリ然ルニ原判決ハ狩獵法上補助者ヲ許容セラルル限度並慣習上許容セラルル限界等ヲ閉却シ單ニ刑法上ノ共犯關係ノミヲ以テ律セムトシタルモノニシテ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ破毀ヲ免レサルモノト思料スト言フニ在レトモ

各被告人ニ對スル原判示事實ハ原判決摘録ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ認定シ得ヘク記錄ニ載スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス而シテ甲種狩獵免狀ヲ有スル被告人山本松之助カ狩獵免狀ヲ有セサル被告人谷口末吉ヲ補助者トシテ雇入レ自己ノ指揮監督下ニ之ヲ補助者トシテ働カセタルモノナリトノ所論ハ前示認定ニ副ハサル事實ノ主張ナリトス加之國家カ狩獵法ヲ制定シ本來捕獲自由タルヘキ鳥獸ニ對シ狩獵鳥獸捕獲ノ時期場所方法等ニ制限ヲ附シ免許制ヲ採用シタル所以ノモノハ鳥獸ノ蕃殖保護並一般公衆ノ保安ヲ目的トスルト共ニ免許稅ヲ徵收セムトスルノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ免許者本人以外ノ者ニ免許ヲ受ケタルト同様ノ效果ヲ享受セシムルカ如キ方法ハ嚴ニ之ヲ禁セサルヘカラサルナリ狩獵法第十九條第一項カ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帶スヘシト規定シ項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムトスルトキハ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帶スヘシト規定シ同法第二十二條第五號カ狩獵免狀又ハ第十二條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者ヲ處罰スルノ趣旨モ一ニ此ノ理ニ外ナラス若モ所論ノ如ク漫リニ捕獲行為ニ補助者助手等ノ類ヲ使用スルモ可ナリトセハ上叙ノ精神ヲ汲却スルノ結果ヲ招來シ到底許サルヘキ筋合ノモノニ非サルナリ若夫レ所論ノ如ク斯ル慣習存在シ該慣習ニ準據シタリトスルモ并ハ全ク法ノ認容セサルトコロニ係リ違法タルヲ免レス論旨傍理由ナシ

第二點原判決ハ狩獵法ヲ誤解シ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリ破毀ヲ免レサルモノト思料ス即チ原判決ハ甲種狩獵免狀受有者タル上告人山本松之助カ狩獵免狀ヲ有セサル上告人谷口末吉ヲ雇入レ狩獵

ヲ共ニシ一回ニ一圓五十錢宛ノ手間賃ヲ支拂ヒ獲物ハ全部雇主タル上告人山本松之助カ受取リ且狩獵ニ使用シタル獵具タル網繩ハ同人ノ所有ナル事實ニ對シ上告人山本松之助カ上告人谷口末吉ヲ教唆シ谷口末吉ヲシテ密獵ヲ爲サシメタルモノト認メ共犯ノ事實ヲ認定シタリ然レトモ斯ノ如キハ狩獵者ニ補助者(手傳フ人)ヲ絕對ニ許容セス且慣習上許容セラレ來リタル程度ノ補助行為モ尙之ヲ排斥セムトスルモノニシテ刑法所定ノ共犯關係ヲ認定スルニ急ナル爲特別法規タル狩獵法ノ特殊性ヲ誤解シタル嫌アルモノナリ即チ甲種狩獵免狀ヲ有スル上告人山本松之助ハ網繩等ノ方法ニ依ル狩獵ヲ爲シ得ルモノニシテ而モ此等ノ方法ニ依リ狩獵ヲ爲スニハ獵具ノ運搬設置並使用ニ付或程度ノ補助者ヲ必要トスルモノナリ若夫レ狩獵ヲ爲スニ補助者ヲ絕對ニ使用シ得サルモノトセハ銃器ニ依ル狩獵以外ノ所謂甲種狩獵免狀受有者ニ許サレタル獵法ニ依ル狩獵ノ大部分ハ其ノ目的ヲ達スルコト甚タ困難トナルノミナラス近時團體又ハ個人ニ於テハ狩獵免狀受有者指導ノ下ニ野兎狩ヲ爲シ其ノ兎皮ヲ防禦用トシテ獻納シ或ハ心身鍛鍊ニ資セムトスルモノ漸次増加ノ傾向アル際之ヲモ禁止セサルヘカラサルニ至リ一考ヲ要スヘキモノト思料ス而シテ假ニ原判決認定ノ如ク狩獵行為ヲ爲スニ付絕對ニ補助者ノ使用ヲ認メス且上告人山本松之助カ上告人谷口末吉ヲ教唆シ同人ヲシテ無免許狩獵ヲ爲サシメタリトスルモ此ノ場合谷口末吉カ狩獵法違反トシテ責任ヲ負擔スルハ格別ナルモ教唆シタル山本松之助ハ狩獵免狀ヲ有シ居リ單獨ニテ狩獵行為ヲ爲スコトヲ許サレ居ルノミナラス本件ノ場合ハ刑法第六十五條ノ身分

ニ因リ構成スヘキ犯罪行為ニ加工シタルモノニ非サル以上上告人山本松之助ニ對シ共犯ノ罪責ヲ認ムルハ不當ナリト謂ハサルヘカラス殊ニ原判決認定ノ如ク上告人谷口末吉ノ行為ヲ補助者ノ行為ト認メスシテ獨立シタル無免許狩獵行為ト認定スル以上尙更上告人山本松之助ハ罪責ナキ結論ニ到達スルモノト謂フヘキナリト云フニ在レトモ

【要旨】

狩獵免許ヲ受ケタル者ニ非サレハ狩獵鳥獸ノ捕獲行為ヲ爲シ得サルコトハ論旨第一點ニ説述セルトコロノ如シ而シテ被告人山本松之助ノ狩獵免狀ハ同人自ラ狩獵鳥獸ヲ捕獲シ得ルノ免許ニシテ他人ヲシテ之ヲ捕獲セシムルノ權限ヲ包含セス從テ被告人山本松之助ニ於テ狩獵鳥獸ヲ捕獲スルコトハ固ヨリ其ノ自由ニ屬スト雖他人ヲ教唆シテ他人ニ捕獲セシムルニ至リテハ免許權ノ範圍ヲ逸脱セル違法ノモトト斷セサルヲ得ス原判決カ之ヲ教唆者トシテ判示法條ニ間擬處斷シタルコト正當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事正木亮關與

○船舶安全法違反瀆職被告事件 (昭和十四年(九)第四五二號 棄却)

【上告人】 被告人 占部 五郎 辯護人 山田 梅藏  
外一名 小西 喜雄  
【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

船舶安全法第二十三條ノ検査ノ意義ト瀆職

○判決要旨

- 一 船舶安全法第二十三條ニ所謂検査ハ船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ト船級保有中ノ検査トノ兩者ヲ包含スルモノトス(要旨第一)
- 二 船舶安全法第二十三條ニ検査ニ關シトアルハ検査ノ職務ニ關ス

船舶安全法第二十三條ノ検査ノ意義ト瀆職

ル意味ナリ【要旨第二】

三 船舶安全法第二十三條ノ検査ニ關シ演職ノ行爲アリタルトキハ其ノ行爲力直接ニ船舶人命財産等ニ危険ヲ及ホス虞ナシトスルモ之ヲ處罰スルノ法意ナリトス【要旨第三】

【參照】 船舶安全法第二條 船舶ハ左ニ掲ケル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 船體
- 二 機関
- 三 帆裝
- 四 排水設備
- 五 操舵、繫船及揚揚ノ設備
- 六 救命及消防ノ設備
- 七 居住設備
- 八 衛生設備
- 九 航海用具
- 十 危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
- 十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備
- 十二 電氣設備

十三 前各條ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項  
前項ノ規定ハ左ニ掲ケル船舶ニハ之ヲ通用セス

一 總噸數五噸未満ノ船舶

二 構體ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

同法第八條 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲ケル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

同法第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲ケル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲ケル事項又ハ滿載吃水線ノ検査ニ關シ船級協會ニシ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

同法施行規則第十四條 汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分テ

- 一 夏期滿載吃水線
- 二 冬期滿載吃水線
- 三 冬期北大西洋滿載吃水線
- 四 熱帶滿載吃水線

船舶安全法第二十三條ノ検査ノ意圖ト讀解

- 五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線
- 帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ
- 一 海水滿載吃水線
- 二 冬期北大西洋滿載吃水線
- 三 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線
- 滿載吃水線ノ位置ノ決定並ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル
- 同規則第四百十九條 船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グ
- ル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ通信大臣ニ提出スベシ
- 一 主タル事務所並ニ出張所ノ名稱及所在地
- 二 役員ノ氏名
- 三 検査員ノ氏名及履歷
- 四 定款又ハ寄附行爲
- 五 船級登録及検査ニ關スル規定
- 六 手数料及旅費ニ關スル規定
- 同規則第五百十條 通信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)検査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ通信大臣ノ認可ヲ受ケタマヒ
- 前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルキハ船級協會ハ通信大臣ニ

其ノ旨ヲ届出ズベシ

同規則第五百十二條 通信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ヲ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人喜代三郎ヲ懲役三月同五郎ヲ罰金五百圓ニ處ス被告人喜代三郎ニ對シ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人五郎ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人喜代三郎ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

(中略)

第二 被告人喜代三郎ハ大正九年十二月選信省技師ニ任セラレ爾來大阪仙臺名古屋東京等ノ選信局海事部ニ歷任昭和十年八月退職ト共ニ財團法人帝國海事協會技師トナリ同協會大阪出張所ニ勤務シ同協會ハ日本ノ船級協會トシテ選信大臣ノ認可ヲ受ケ船舶安全法第八條ニ依リ船舶ノ構造(船體機關帆走)設備(排水操舵繫船揚錨特殊貨物積卸作業及電氣)滿載吃水線ノ検査等ニ從事シ居リタル爲被告人ハ船級協會ノ検査員トシテ協會ノ爲スヘキ検査ニ關スル事務ヲモ管掌シ船級協會ニ對シ船級登録ノ申請アリタル場合上司ノ命ニ依リ検査員トシテ現場ニ出張シ右諸検査ニ從事スヘキ職務ヲ有シ居タルモノナルトコロ合資會社占部造船鐵工所ニ於テ船級協會ノ船級登録ヲ受クル爲帝國海事協會ニ之カ申請ヲ爲シタル上昭和十一年七月頃鋼製單暗車第三十三號貨物汽船總噸數約七百噸一輪同年八月頃同第三十六號貨物汽船總噸數一千二百五十噸一輪ノ新造ニ著手シ前者ハ同年十一月頃後者ハ翌年三月頃竣工シ被告人船舶安全法第二十三條ノ検査ノ意義ト相反

ハ右各工事ノ施行中船級協會ノ検査員トシテ現場ニ出張シ船舶安全法第八條所定ノ各種検査ヲ爲シ各船舶ハ其ノ竣工ト同時ニ船級協會ノ船級登録ヲ受クルニ至リタルモノナルトコロ同造船鐵工所カ第三十三號貨物汽船ノ船級登録申請ヲ爲スニ當リ帝國海事協會本部ノ承認アルヘキコトヲ豫期シ其ノ承認前同協會ニ提出シタル設計書ニ基キ船尾材ヲ鑄造シタルニ拘ラス同協會本部ヨリ右設計中船尾材ノ重量配計孔ノ部分ニ付訂正ヲ命セラレタル結果船尾材材改請ノ餘儀ナキニ至リ改鑄ヲ爲スニ於テハ多額ノ失費アルノミナラス竣工遅延ノ爲約定期日ニ請負代金ノ分割支拂ヲ受クルコト能ハサル等不測ノ損害ヲ被ルニ至ルヘキ窮境ニ陥ルヤ占部五郎ハ被告人ニ之ヲ訴ヘ教示ヲ懇願シ被告人ハ船尾材ハ其ノ儘トシ從前ノ設計ニ補強工作ヲ加ヘタル應急案ヲ考案教示シ該方法ニ依ル設計カ海事協會本部ノ承認ヲ得タル結果同造船鐵工所ヲシテ右被害ヲ免レシメ同造船鐵工所ニ被上検査ノ爲出張シタル際應々船舶ノ設計等ニ關シ同所技師ニ助言教示ヲ爲シ昭和十二年三、四月頃同造船鐵工所ニ於テ買受ケタル暹羅汽船ノ廢船ヲ廻航セシムル爲船籍復活ノ必要アリタル際海事代理人ヲ紹介シテ其ノ便宜ヲ計リ其ノ頃同造船鐵工所カソビエツトロシアヨリ汽船新造注文ノ引合ヲ受ケケテ之ヲ請負ハントシタル際其ノ不利益ナル事情ヲ指摘シ之ヲ拒絕セシムル等屢々好意ヲ示シ同造船鐵工所ノ責任者ナル占部五郎占部永藏等ヲシテ痛ク感激セシメ居タルカ同人等ニ於テ共謀ノ上被告人カ被上船級協會ノ検査員ノ職務ニ基キ爲ニ検査ニ付有利寬大便宜ナル取扱ヲ受ケタル報酬及將來ニ於テモ同様ノ處置ヲ受ケ度キ請託ノ趣旨ト共ニ右盡力助言好意ニ對スル謝禮ノ意味ヲ含メテ交付スルモノナルコトヲ知悉シナカラ昭和十一年七月二十日頃ヨリ翌年七月下旬迄ノ間三回ニ亙リ大阪市西區川口町十八番地ノ帝國海事協會大阪出張所及被告人ノ肩書居宅ニ於テ大丸百貨店發行ノ額面金百圓ノ商品券四枚同金五十圓ノ商品券一枚ヲ收受シ以テ船級協會ノ職員トシテ爲シタル被上検査ニ關シ收賄シ

第三 被告人五郎ハ前記合資會社占部造船鐵工所ノ代表社員ナルトコロ同會社ノ無限責任社員ナル原審相被告人占部

永藏ト共謀ノ上

(中略)

二 同造船鐵工所ニ於テ船級登録ヲ受ケタル爲帝國海事協會本部ニ其ノ申請ヲ爲シタル上昭和十一年七月頃ヨリ製單暗車第三十三號貨物汽船一艘(總噸數七百噸)同年八月頃ヨリ同上第三十六號貨物汽船一艘(總噸數千二百五十噸)ノ新造工事ニ著手シ右船舶ハ第二記載ノ日時ニ竣工シ船級協會ノ船級登録ヲ受ケタルカ該工事施行中船級協會ノ検査員トシテ同記載ノ職務ニ基キ同記載ノ検査ヲ爲シタル梅田喜代三郎ニ對シ同記載ノ日時場所ニ於テ同記載ノ趣旨ノ下ニ同記載ノ商品券五枚額面合計金四百五十圓ヲ交付シ以テ船級協會職員ノ船級等ノ検査ニ關シ賄賂シタルモノナリ

各被告人ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人喜代三郎ノ判示所爲ハ船舶安全法第二十三條第一項前段刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑罰範圍内ニ於テ主文ノ刑ニ處シ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ依リ主文ノ如ク其ノ執行ヲ猶豫スヘク被告人五郎ノ判示第三ノ一ノ所爲ハ各刑法第九十八條第一項第六十條二ノ所爲ハ各船舶安全法第二十四條第一項刑法第六十條ニ該當スルトコロ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ依リ一罪ト爲シ重キ船舶安全法違反罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額内ニ於テ主文ノ刑ニ處シ刑法第十八條ニ從ヒ右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞務場留置期間ヲ主文ノ如ク定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

船舶安全法第二十三條ノ検査ノ査察ト賄賂

## ○理由

被告人梅田喜代三郎辯護人山田梅藏山本彦上告趣意書第二點ハ原審判決理由第二中ニ「被告人(喜代三郎)ハ右各工事ノ施行中船舶協會ノ検査員トシテ現場ニ出張シ船舶安全法第八條所定ノ各種検査ヲ爲シ各船舶(第三十三號及第三十六號船)ハ其ノ竣工ト同時ニ船級協會ノ船級登録ヲ受クルモノナルトコロト事實ヲ認定サレ右各種検査ハ右認定記載ノ前段ニヨリ船舶安全法第八條ニ依リ船舶ノ構造(船體機關帆裝)設備(排水設備操舵繫船及揚錨ノ設備危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備荷役設備電氣設備)滿載吃水線ノ検査ヲ指稱セルコト明ナリ而シテ船舶安全法第二十三條前段ニヨリ右ニ列舉シタル検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處スルコトヲ規定サレタリ右列舉シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スルコトヲ規定サレタリ右列舉ノ検査カ非常ニ重要視サレ嚴罰ヲ以テ臨マレタルハ其ノ検査ヲ目シテ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做サレタルニヨルモノナリ船舶安全法第二十三條前段ニ處罰ノ目的トサレタル検査及検査員ノ範圍如何ト云フコトハ先ツ以テ明瞭ニスルヲ要スヘク辯護人ハ他項ニ於テモ述ヘシ如クコハ船舶安全法施行規則第八十四條ト船舶安全法第八條ヲ對照シテ決定スヘキモノナリト信ス即チ之ヲ詳細ニ分解スレハ第一船體機關及設備(帆裝排水設備操舵繫船及揚錨ノ設備危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積付設備荷役其ノ他ノ作業ノ設備電氣設備)ノ設計検査ナリ(船舶安全法第二條一號乃至五號十號乃至十二

號)而シテ之カ検査員ハ原審第一回公判ニ於テ裁判長ノ問ニ對シ喜代三郎カ答トシテ「設計カ出來ルトツレハ出張所ヲ素通りシテ協會本部ニ行キ本部カ認定シマス本部テハ之ヲヨイトカ直セトカ書ク出張所ヘ返シマス即チ承認スルカ否カハ本部ノ權限ヲ自分ハ何ウモ出來ス從テ助言指導スルコトハ私ノ職務ニ關係アリマセスト」ト述ヘ居ル如ク帝國海事協會本部ノ所定ノ船級協會検査員ニシテ協會出張所ニ配屬サレタル船級協會現場検査員ヲ包含セサルナリ第二ハ右船體機關及諸設備ニ使用スル材料ノ検査ニシテ之カ検査員ハ協會出張所ニ配屬サレシ船級協會技師ナリ第三ハ右船體機關及諸設備ノ設計(検査合格ノモノ)ニ適合スル右材料検査ニ合格シタル材料ヲ配シテ爲シタル工事カ適當ニ爲サレタルヤ否ヤノ検査ナリ之カ検査員ハ協會出張所ノ船級協會技師ナリ然レ共右第二ノ材料検査員及第三ノ工事検査員ノ爲ス検査ハ各共ノ検査ノ全部ヲ爲スモノニ非スシテ検査ノ先行行爲トモ云フヘキ一部ノ行爲ヲ爲スニ止マル即チ此ノ検査員ハ検査ノ容體ヲ審檢シ其ノ検査報告書ナルモノヲ帝國海事協會本部ニ送り夫々ノ所定ノ船級協會検査員カ再應審査シ合格ヲ決定シテ茲ニ初テ一聯ノ検査ヲ終ルモノナリ第四ハ滿載吃水線ノ検査ナルカ是ハ協會出張所ノ検査員カ検査容體ニ付キ検査シ計算書ヲ作成シテ協會本部ニ送り本部ニ於テ所定ノ船級協會ノ検査員之ヲ審査シ尙共ノ上遞信省管船局ニ送り所定ノ検査ノ審理ヲ經テ初テ検査ヲ終了スルモノナレハ右ノ審査ニ當リタル者ノ總テカ検査員ニ包含セラルルモノナリト信ス船舶安全法第二十三條前段ハ右ニ述ヘタル第一乃至第四ノ検査行爲ヲ目的トシ其ノ

各ノ總テノ検査員ノ検査ニ關スル賄賂ノ收受ハ船舶人命財産等ニ大ナル危険ヲ及ホス最モ惡質ナル犯罪ナリトシ特ニ罰金刑ヲ科スルコトナク嚴重ナル體刑ヲ以テ之ニ臨ミタルモノナリト信スサレハ帝國海事協會兼船級協會ニ於テハ船舶安全法第二條第七號及十三號ニ規定スル船舶ノ居住設備衛生設備航海用具其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項ニ付キテモ同様ノ検査ヲ行フニ拘ラス之等ノ検査行爲ハ船舶安全法第二十三條前段ノ目的ニ包含サレヌ故ニ之等検査ニ關スル賄賂ノ收受ハ法律ニ規定ナク協會ノ自肅規定内部制裁ニ委任スルモ船舶人命財産ニ危険ヲ及ホスコト尠ナキニヨリ法ハ處罰ヲ以テ臨マサリシモノナリト信ス即チ船舶安全法第二十三條前段ハ船舶人命財産等ノ安全ヲ計ルコトヲ以テ目的トシ之ニ危害ヲ與フル行爲ノミヲ罰スルノ規定ナリト信ス被告人喜代三郎ト占部五郎等トノ金品ノ授受ニ付キ第一審及原審判決ニ於テ一方ニ検査ニ關係ナキ特別盡力ノ謝禮ナルコトヲ認メナカラ他方ニ於テ船級協會ノ検査員ノ職務ニ基キ爲ス検査ニ付有利寬大便宜ナル取扱ヲ受ケタル報酬及將來ニ於テモ同様ノ處置ヲ受ケ度キ請託ノ趣旨ヲ含メシメ只此ノ一點ニヨリ重キ刑罰ヲ科セラレタルモノナルカ右摘示ノ行爲因果シテ船舶人命財産ニ危害ヲ加フル惡質ノ行爲ニシテ船舶安全法第二十三條前段ノ目的ノ内ニ包含セラルルヤ否ヤ辯護人ハ其ノ然ラサルコトヲ確信スル次第ナリ占部五郎ハ豫審以來隨所ニ前示摘示ノ便宜寬大有利ノ検査ノ報酬若ハ請託ノ意味モ含ミタル旨ヲ陳述シ居リ其ノ都度不正検査ヲ希ヒシモノニアラサルコトヲ附言セリ而シテ豫審判事モ裁判所モ不正検査ヲ希ヒシモ

ノニ非スト云フ陳述ニ對シテハ之ニ疑ヲ懷キタル跡ナシココニ「寬大有利便宜ノ検査」ノ文字ノミヲ見ルトキハ或ハ不正検査ヲ含マルルニアラスヤトノ疑問ヲ懷ク餘地ナキニ非サルモ其ノ具體的事實ノ例トシテハ申請者希望ノ時ニ直ニ検査員ノ臨場ヲ求メ小サキコトニ愚圖々々云ハスト云フカ如キ程度ヲ出テサルコト本件記録上明白ニシテ斯クノ如キハ検査員ノ帝國海事協會職員トシテ要求サレ當然ノ義務トシテ検査ニ當リ心得フヘキトコロナリ何等船舶人命財産ニ危害ヲ及ホス憂ナシ前述ノ如ク居住設備衛生設備航海用具ニ關スル検査ノ如キモ之ニ賄賂ノ不正アルニ於テハ其ノ結果タルヤ重大ナリ然ルニモ拘ラス船舶安全法第二十三條前段ニ之ヲ殊更ニ協會ノ自肅ニ委ネタルヲ想ヘハ右ノ如キ検査ニ時間ノ便宜ヲ計ル程度ノコトヲ以テ船舶人命財産ノ安全ヲ甚シク害スルモノトナシ同法條ヲ適用スルハ擬律錯誤ノ違法アリト思料スト云フニアレトモ

【要旨第三】

船舶安全法第二十三條ハ船舶人命財産等ノ安全ヲ計ルコトノ爲ニ立法セラレタルコトハ大體ノ趣旨ナリトスルモ苟モ其ノ検査ニ關シ濫職ノ行爲アリタルトキハ假令其ノ行爲カ直接ニ船舶人命財産等ニ危険ヲ及ホス虞ナシトスルモ之ヲ處罰スルノ法意ナルヲ以テ原判決ノ處斷ハ相當ニシテ擬律錯誤ノ違法ナク論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ其ノ理由ニ於テ船級協會ノ検査員タル被告人喜代三郎ハ合資會社占部造船鐵工所ノ船級登録申請ニ係ル第三十三號汽船及第三十六號汽船ノ新造ニ當リ其ノ工事ノ施行中船級協會ノ検査員

トシテ現場ニ出張シ各種ノ検査ヲ爲シ各船ハ其ノ竣工ト同時ニ船級協會ノ船級登録ヲ受クルニ至リシカ前記兩船ニ對シ喜代三郎ノ行ヒシ検査ハ「船舶安全法第八條所定ノ各種検査」ニ該當スルヲ以テ前記検査ニ付占部造船鐵工所ノ無限責任社員タル占部五郎及占部永藏ヨリ額面合計四百五十圓ノ商品券ヲ收受シタルハ船舶安全法第二十三條第一項前段ノ規定ニ違反スル收賄罪ナリト判定シタリ然レトモ船級協會ノ船級業務ハ船舶安全法施行規則第四百九條第五號所定ノ「船級登録」事務ト已ニ登録ヲナシタル船舶ニ對スル「検査」事務トニ區分セラルル而シテ船舶カ船級ノ登録ヲ受クル爲ニハ船級協會ノ検査員ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス然レトモ船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ト已ニ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニ對スル検査トハ其ノ性質ヲ異ニス即チ前者ハ船級協會ニ於テ申込ニ係ル船舶ニ對スル船級登録ノ適否ヲ決スル爲ノ資料タルニ止マリ此ノ場合ノ検査ハ直ニ申込人ニ其ノ效力ヲ及ホスモノニアラス單ナル船級協會ノ業務上ノ内部關係ニ過キサルモ後者ハ爾後同規則第五百十二條ノ規定ニ基キ逓信大臣ヨリ其ノ検査ヲ適當ナラストシ其ノ改訂又ハ必要ナル命令ヲ受クルコトアルモ此ノ場合ノ検査ハ恰モ管海官廳ノ行フ検査ト同シク其ノ検査終了ト同時ニ受檢者ニ對シ検査效力ヲ有スル業務上ノ對外關係タリ船舶安全法第八條ハ「主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非サルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號第十號乃至第十二號ニ掲クル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合

格シタルモノト看做ス」ト規定ス即チ此ノ規定ニハ船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ト已ニ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニ對スル検査トヲ包含ス從テ原判決ノ理由ニ於テ被告人喜代三郎カ第三十三號汽船及第三十六號汽船ニ對シ行ヒシ検査ハ「船舶安全法第八條所定ノ各種検査」ニ該當スト判定セラレシハ正當ナルモ該検査カ船舶安全法第二十三條所定ノ検査ニ該當スルヤ否ヤハ別個ノ問題ナリ帝國海事協會ニ於テ船級ノ登録申込ヲ受ケレハ船級協會ノ検査員ヲシテ之カ検査ヲ行ハシメ其ノ検査ノ結果同協會本部(船級管理委員會)ニ於テ登録ニ適スト認ムレハ之カ船級ヲ登録シ又登録不適當ト認ムレハ其ノ船級ノ登録ヲ拒否ス如斯船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ハ前述ノ如ク全ク船級協會ノ内部關係事務ナルノミナラス船舶安全法第八條ノ文理解釋上ヨリスルモ管海官廳ノ行フ検査ト同一ニ看做サルル検査ハ船級ノ登録ヲ爲シタル後其ノ船級ノ保有期間内ニ於ケル検査ナルコト明ナリ從テ船舶安全法第二十三條第一項前段規定ノ「船級協會ノ職員第八條ニ掲クル船舶ニ付云々」中「第八條ニ掲クル船舶」トハ「船級ノ登録ヲ受ケ且其ノ船級ヲ保有中ノ船舶」ノ意ト解スヘキモノナリ從テ被告人喜代三郎ノ本件第三十三號汽船及第三十六號汽船ニ對スル検査ハ第二十三條第一項前段所定ノ検査ニ該當セス尤モ船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ニ付テハ検査員ハ全ク無責任ナリト謂フニハ非ス其ノ検査ニ付不都合ノ點アラハ當該検査員ハ帝國海事協會ヨリ其ノ制定ニ係ル自肅規定ニ基キ處分セラレ更ニ進ンテハ船舶安全法第五十條ノ規定ニ基キ逓信大臣ヨリ當該検査員ノ選任認可ヲ取消サルルコトアルヘキモ只船舶



安全法第二十三條第一項前段ノ對照トナルモノニ非スト云フノミ從テ原判決ハ船舶安全法第八條ト第  
二十三條第一項前段トノ解釋ヲ誤リ擬律錯誤ノ違法アルモノト思料スト云フニアレトモ

【要旨第一】

問ト規定シタルモノニシテ同法第二十三條ニ所謂検査ハ汎ク船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ト船級登録  
ヲ受ケ且ツ其ノ船級ヲ保有中ノ船舶ノ検査トニ關シ清職ヲ罰スル法意ナリトス船舶安全法施行規則第  
百五十條ノ検査員ノ選任認可ヲ取消サルコトアルヘキノ規定ハ行政處分ニ過キサルヲ以テ其故ニ船  
舶安全法第八條ヨリ船級ノ登録ヲ受クル爲ノ検査ヲ除外スト謂フヘキニアラス原判決ハ被告人カ船級  
協會ノ検査員トシテ協會ノ爲スヘキ検査ニ關スル事務ヲモ管掌シ船級協會ニ對シ船級登録ノ申請アリ  
タル場合上司ノ命ニヨリ検査員トシテ現場ニ出張シ検査ニ從事スヘキ職務ヲ有シ居リタルモノナル處  
共ノ職務ニ關シ清職アリタルモノトシテ船舶安全法第二十三條第一項前段ニ依リ處斷シタルハ相當ニ  
シテ論旨ハ理由ナシ

第五點ハ原判決理由第二ノ中ニ「被告人(喜代三郎)ハ右各工事(第三十三號船及第三十六號船)ノ施行中船級協會  
ノ検査員トシテ現場ニ出張シ船舶安全法第八條所定ノ各種検査ヲ爲シ各船舶ハ其ノ竣工ト同時ニ船級協會ノ船級登録  
ヲ受クルモノナルトコロ云々」トアリ右各種検査中ニハ滿載吃水線ノ検査ヲ包含スルコトハ船舶安全法第八條ヲ引用  
セラレタルニヨリ明白ナリ而シテ同理由第二段ニ於テ「同人等(占部五郎及占部永藏)ニ於テ共謀ノ上被告人(喜

代三郎)カ彼上船級協會ノ検査員ノ職務ニ基キ爲ス検査ニ付有利寬大便宜ナル取扱ヲ受ケタル報酬及將來ニ於テモ同  
様ノ處置ヲ受ケ度キ請託ノ趣旨ト共ニ右盡力助言好意ニ對スル謝禮ノ意味ヲ含メテ交付スルモノナルコトヲ知悉シテ  
カラ「收附シタル旨摘録サレタリ右ノ摘示事實ニ從ヘハ被告人等ノ間ノ金品ノ授受ハ滿載吃水線ニ付キテ爲シタル被  
告人喜代三郎ノ検査ニ關スル行為ニ付キ有利寬大便宜ナル取扱ヲ爲シタル報酬及將來ニ於テモ同様ノ處置ヲ受ケ度キ  
請託ノ趣旨ヲ包含シタルモノナルコトヲ斷セラレタルモノノ如シ果シテ然リトスレハ之ハ滿載吃水線検査ノ何モノナ  
ルカラ審究セサルニ基ク重大ナル事實誤認並ニ法律解釋ヲ誤リタル違法ヲ包藏スルモノナリト信ス滿載吃水線ノ検査  
ニ付テハ第一審第二回公判調書(問裁判長喜代三郎)ニ問船級登録ヲ受ケルモノハ滿載吃水線ノ検査モ受ケテハナ  
ラヌノカ答左様船級登録ヲ受ケル船舶ハ滿載吃水線検査ヲ受ケルコトニナツテ居リマス問其ノ検査ヲシテ場合ハ検査  
報告書ヲ作成スルノカ答左様テアリマス問其ノ検査報告書ハ帝國海事協會本部ニ送付スルノカ答左様テアリマス(中  
略)尤モ滿載吃水線検査報告書ハ計算書ヲ以テスルノテアリマス問滿載吃水線検査ノ方ハ什ウ云フ風ニナルノカ答夫  
レハ帝國海事協會本部ノ技術官カ右滿載吃水線ノ計算書ヲ調査シ其ノ調査書ヲ選信省ニ送付シ同省管船局ニ於テ決定  
スルノテアリマス問左様スルト滿載吃水線ハ最後ニ選信省カ決定スルノカ答左様テアリマス問船舶安全法第八條ニヨ  
ルト船級協會ニ於テモ検査ヲ爲スヘキ旨ノ規定カアル様ニ思ハレルカ什ウカ答其ノ規定ハアリマス夫レハ選信省カ滿  
載吃水線ヲ決定スル前ニ船級協會ニ於テ検査ノ方法ニヨリ選信省カ決定スル爲ノ計算方法ノ根據ヲ示スノテアリマス  
問選信省テ決定スレハ證書ヲ交付サレルノカ答別ニ證書ヲ交付スル譯テハナク滿載吃水線ハ幾ラニナツタト云フ通知  
カ帝國海事協會大阪出張所ニ來ルノテアリマス問例ヲ示シテ云ハハ什ウ云フ風ニ通知シテ來ルノカ答假令ハ上甲板ノ  
上側面ヨリ下五百耗ノ所カ海水吃水線ナリト云フ風ニ通知シテ來ルノテアリマス此ノ吃水線ハ期節ニヨリ又海洋ニヨ  
リ或ハ海水ト淡水トニヨリ色々ノ場合ニ於テ差異カアルモノテアリマスカラ夫々ノ吃水線ヲ一々明示シテ來ル場合モ

アリ然ラサル場合モアリマス間滿載吃水線ト云フノハ船舶ノ何ノ部分ヲ云フノカ答上甲板ノ上側面ノ下ニ白イ圓ヲ描キ其ノ中央ニ横線カ引イテアリマスカ其ノ横線カ滿載吃水線ナリマス間選信省カラ大政出張所ニ對シ滿載吃水線ヲ通知シテ來タ場合ハ申込者ニ傳達シテ遺ルノカ答左様ナリマス(中略)問尙被答人ハ右兩船ニ付滿載吃水線ヲ査定スルニ付テノ船級協會ノ爲スヘキ算定モ致シタカ答其ノ算定モ致シ其ノ検査報告書ヲ作成シ之ヲ帝國海事協會本部ニ送付シマシタノ如キ記載アリ而シテ船舶安全法第八條ニ云フトコロノ滿載吃水線ノ検査ハ船舶安全法施行規則第十四條ニ示ス如ク季節及區域ニ應ジ(一)夏期滿載吃水線(二)冬期滿載吃水線(三)冬期北大西洋滿載吃水線(四)熱帶滿載吃水線(五)前各號ニ掲タル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線ヲ決定スルニ付船級協會ノ現場検査員ハ検査容器ノ諸條件ヲ遺漏ナク記録シ是ヲ基礎トシテ右各種ノ滿載吃水線ヲ計算檢出シ之ヲ帝國海事協會本部ニ送り本部ノ検査員之ヲ検査シ更ニ選信省管船局ニ送り其ノ審査ヲ求メ茲ニ於テ最後ノ斷案ヲ下シ其ノ検査ノ合格ヲ決定スルモノナリ是等ノ全行程ニ於テ審査ニ當ル者ハ總テ滿載吃水線ノ検査員ト稱スヘク現場検査員ハ検査決定ノ先行行為ヲナスニ止マルモノナリ此ノ先行行為ニ付テ見ルニ検査容器ハ既ニ成立シタル船舶附隨ノ諸設備及船舶使用ノ目的等ヲ必要ナル程度ニ於テ採用シ計算ノ基礎ヲ作り引續キ計算出ツ爲スニ付テ此ノ行為ニ付テハ船級協會申請者ニ對シ如何ナル方法ヲ以テモ有利寬大便宜ノ取扱處置計算ヲ爲スノ餘地ナキモノナリ即チ此ノ點ニ於テハ原審ハ不能ナル事實ヲ可能ナル如ク認定シタル重大ナル誤アルモノナリト思料ス只茲ニ滿載吃水線ニ關スル現場検査員ニ就キ犯罪行為ヲ想定シ得ルハ前記ノ如キ滿載吃水線算出ノ基礎條件ヲ摘錄スルニ當リ故意ニ不實不正ノ認定ヲ爲ス場合はレナリ此ノ不實不正ノ基礎條件ニ從ヒ滿載吃水線ヲ決定セシカレハ誠ニ由キキコトニシテ船舶安全法第一條船舶ノ堪航性ヲ害シ船舶人命財產ノ安全ヲ保シ難キヤ言フ俟タズ即チ船舶安全法第二十三條第一項前段カ嚴罰ヲ以テ處斷セントスルハ船級協會現場検査員ニ關スル限リ右ノ不正不法ヲ目的トスル報復請託以外ニ犯罪之無キナリ然ラハ原審ハ被告ノ喜

代三郎ニ就キ右ノ如キ犯罪事實アリト爲シタリヤ否ヤヲ見ルニ一件記録中一字ノ是ニ及フモノナキハ明ナリ此ノ點ニ付罪ヲ問ハントセハ其ノ事實認定ヲ要スルコト勿論ナリ原審カ喜代三郎ノ現場検査員ノ検査行為ニ付審求ヲ爲サス滿載吃水線検査ノ實情ヲ極メス漫然前述ノ如キ認定ヲ爲シ罪ヲ斷シタルハ船舶安全法ノ解釋ヲ誤リシ違法アリト思料スト云フニアレトモ

行政事務ハ複雑多端ニシテ寬大便宜ノ取扱ヲ爲ス餘地頗ル多キヲ以テ法規ノ表面上ニ見何等自由裁量ノ餘地ナキカ如キモ其ノ實當該係官ノ所謂手心ニ依リ左右セラルルコトハ普通ナリトス記録ヲ精査スルモ原判決ノ事實ノ認定ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難ク原判決ニハ所論違法ノ點ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第八點ハ原審判決理由中ノ指示事實ニコレハ船級協會ノ検査員トシテ職務ニ基キ爲ス検査ニ付有利寬大便宜ナル取扱ヲ受ケタル報復及將來ニ於テモ同様ノ處置ヲ受ケ度キ請託ノ趣旨ヲ以テ被告人占部梅田間ニ贈收賄ヲ爲シタルコトヲ認定サレアリ然レトモ「検査ニ付有利寬大便宜ナル取扱」トハ如何ナル事實ヲ指スヤ不明ナリ之ヲ以テ船舶安全法ニ違背スル不正事實ヲ指スモノトナスヤ即チ検査ニ關シ不法ニ有利寬大便宜ヲ計リ船舶人命財產ニ大ナル危險ヲ與フル事實ヲ對象トスルモノナルヤ或ハ然ラスシテ船舶安全法ニ違背セス其ノ處期スル處ノ船舶人命財產ノ安全ヲ計ル目的ニ適合スル行為ニシテ法律ノ許ス範圍ノ有利ナル検査寬大ナル検査便宜ナル検査ヲ對象トナスモノナリヤ其ノ何レナリヤ全ク不明ナリ若シ前者ナリトセハ他項ニ於テ述フル如ク其ノ具體的ノ事實ヲ認定シテ然ル後ニ罪ヲ斷スヘク本件記録ニハ其ノ歸ナシ若シ後者ナリトセハ如何船級協會ノ検査員ニシテ同時ニ帝國海事協會技師且紳士ナル喜代三郎ハ船舶安全法同法施行規則及協會ノ服務規程等ニヨリテ船級検査員トシテ現實ニ右ニ述ヘタル後者ノ態度ヲ以テ検査ニ臨ムヘキ法律上ノ義務ヲ課セラレ道徳上ノ義務ニ服スルモノナリ法律上道徳上ノ義務ニ屬スル而モ些々タル行為ヲ求ム

ルニ賄賂ヲ以テスルコトハ常識ノ許ササルトコロニシテ同様ニ斯ノ如キ義務ヲ履行スルコトニ對シテ賄賂ヲ期待スルコトモ常識ノ許ササルトコロナリ即チ判決指示ノ検査ニ關スル有利寬大便宜カ後者ノ意義ヲ有シ之以上ニ出テサルモノナリトセハ犯罪ハ成立シ得ス不能ニ歸スルモノナリ即チ船舶安全法第二十三條前段ノ検査ニ關スル賄賂ハ右ノ如キ事實ニ就キテハ成立シ得サルモノニシテ若シ此ノ後者ヲ捉ヘテ罪ヲ斷シタルモノトセハ原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リシ違法アリト云フヘシ況ヤ原審認定カ前者後者何レノ意義ヲ有スルモノナリヤ明ニセサルハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト思料スト云フニアレトモ

原判決認定ノ有利寬大便宜トハ必シモ船舶人命財産ニ危險ノ虞アル行為ナリト認定シタルモノニアラス假令其ノ處ナキ行為ナリト雖モ職務ニ關シテ濫職アリタルトキハ船舶安全法第二十三條ニ該當スルモノニシテ固ヨリ犯罪ノ成立ハ不能ニアラス從テ何等法律ノ解釋ニ誤アルモノニアラス記録ヲ精査スルモ原判決ノ事實認定ニハ重大ナル誤認アルヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ

被告人占部五郎辯護人小西喜雄上告趣意書第三點ハ刑法濫職罪ニ於ケル賄賂ノ對象トシテノ「職務ニ關シ」ニ就テ其ノ如何ニ廣範圍ニ如何ニ嚴重ニ解釋セラレ居ルカニ付テノ御院判例ノ指示ニ付テハ第一點ニ於テ之ヲ列舉シタリ然ルニ船舶安全法ニ所謂「検査ニ關シ」テハ之ヲ極メテ狹義ニ解釋スヘキモノナルコトハ「職務ニ關シ」ト云フカ如キ刑法濫職罪ニ關スル規定ニ使用セラレタル字句ヲ用ヒテラシ立法ノ理由ヲ推察シ得可ク同法第八條ニ依リ船舶カ船級協會ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ受クルトキハ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做サルル效果ヲ發生スルモノナルカ故ニ其ノ法律

上要求スル嚴正公平ナル範圍モ亦「検査ニ關シ」ト規定シ廣ク「職務ニ關シ」ト規定シ居ラス且又其ノ検査モ同法第二十三條第二條等ニ於テ具體的事項ヲ限定シ之カ限界ヲ明確ニ示シタリ原審判決第三ノ二ニ於テハ船級協會職員ノ船級等ノ検査ニ關シ贈賄シタルモノナリト判示セラレタルモ船舶安全法ニ所謂検査事項ハ明確ニ其ノ事項範圍ヲ限定明示シ居レルヲ以テ漠然「船級等ノ検査」ト云フカ如キ判示方法ニ依ラス明確ニ検査ニ關スル事項ヲ記載スヘキモノナリト信ス原審判決ハ此ノ點具體的明示事項ヲ脱漏シタル遺憾アリト信スト云フニ在レトモ

### 【要旨第二】

船舶安全法第二十三條ノ検査ニ關シタルハ検査ノ職務ニ關スル意味ニシテ原判決ハ其ノ検査ノ職務ヲ判示シアルヲ以テ何等所論違法ノ點ナク論旨ハ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 検事山井浩關與

○公文書偽造行使詐欺被告事件(昭和十四年(レ)第五〇一號 棄却)

【上告人】 被告人 外島 澄 辯護人 齋 生 昇

【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

私法上ノ契約ト公文書

○判決要旨

公務所又ハ公務員カ其ノ職務權限内ニ於テ作成シタル文書ハ私法上ノ契約ニ關スル場合ニ於テモ公文書ナリトス

【參照】 刑法第百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス(其ノ他ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 昭和十三年四月初頃其ノ妻ノ父袖島甚吉ヲ介シ廣島縣沼隈郡新町大字新四百番地スバイク伸機製造廠賣原井兄弟合資會社ノ實權者タル原井吉太郎ヨリ同會社ノ製造ニ係ルスバイクノ賣捌方幹旋ノ依頼ヲ受ケタルヲ寄貨トシ同人ヲ欺罔シテ右スバイクヲ騙取センコトヲ企圖シ大阪市電氣局ニ何等スバイク賣込ノ交渉ヲナシタルコトヲ案ヨリ同市電氣局ニ對シ之カ納入ヲ約シタルコト等毫モ存セサルニ拘ラス同月二十五日頃右袖島甚吉ト共ニ前記會社ノ事務所ニ赴キ同所ニ於テ右原井吉太郎ニ對シ大阪市電氣局ト折衝ノ結果スバイク三分三時半ノモノヲ一本一錢五厘一毛三分三時ノモノヲ一本一錢三厘一毛ノ値段ニテ同電氣局ニ納入シ得ルコトトナリタル旨申向ケ次テ同月末頃袖島甚吉ヲ介シ右原井ニ對シ同月中右電氣局ニスバイク十萬本ヲ納入スルコトトナリタル旨付至急送品スヘキ旨申入レ因テ原井吉太郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月三十日頃前記會社ノ製造ニ係ルスバイク一噸千五百本入ノモノ三十五噸(價格金七百十九圓餘相當)ヲ大阪市港區富島町尾崎汽船荷受所揚ニテ被告人宛發送セシメ同年五月三日頃同荷受所ニ於テ之ヲ受取り同年四月三十日頃同市南區久右衛門町七番地エンタツ旅館ニ於テ行使ノ目的ノ下ニ其ノ前日頃情ヲ知ラサル同市北區桶上町三番地タイブライター印書業道家某ヲシテタイブライターニテ印

私法上ノ契約ト公文書

書セシメタル納入契約書ト題スル書面ニ豫メ同市内ノ其印判屋ヲシテ送ラシメ置キタル「大阪市電氣局庶務部用度係」ト刻シタル護謄印ヲ押捺シ其ノ下部ニ右同様豫テ同市内某印判屋ニテ送ラシメ置キタル「村井」ト刻シタル印章ヲ押捺シ以テ大阪市電氣局所屬係員名義ノ同市カ昭和十三年五月一日ヨリ七月三十一日迄ノ間被告人ヨリスバイクヲ前掲領段ヲ以テ一箇月最少限度百萬本可及の一箇月一千萬本購入スヘキ旨記載シタル被告人宛昭和十三年四月二十八日附ノ契約書一通(證第二號)ヲ偽造シ之ヲ同年五月一、二日頃袖島甚吉ヲ介シ前記會社ノ事務所ニ於テ原井吉太郎ニ該契約書カ眞正ニ成立シタルモノナリトシテ交付行使シ以テ同人ニ對シ被告人ト大阪市電氣局トノ間ニ右契約書記載ノ如ク同年五月以降一箇月最少限度百萬本ノスパイクヲ納入スヘキ旨ノ契約成立シタルモノノ如ク裝ヒ之ヲ誤信セシメ同年五月三日頃ヨリ同月十四日頃迄ノ間三回ニ互リスバイク合計百八十呎(價額合計金三千七百五十餘圓相當)ヲ前記尼崎汽船荷受所其ノ他大阪市内ノ刺濱店揚ニテ被告人宛發送セシメ其ノ都度右荷揚場所ニ於テ同月十九日頃迄ニ之ヲ受取り次テ同年五月二十日頃大阪市北區中之島三丁目新大阪ホテルニ於テ行使ノ目的ノ下ニ前同様タイプライターニテ印書セシメタル納入品受領書ト題スル書面ニ前記護謄印及印章ヲ夫々押捺シ以テ大阪電氣局所屬係員名義ノ同市カ五月十三日ニスパイク三分三吋二分五厘ノモノ十萬本同月十九日同品二十萬本ヲ各受領シ其ノ代金ハ六月十日廣島縣朝陽町藤倉銀行支店ニ送金スヘキ旨記載シタル被告人宛昭和十三年五月十九日附ノ納入品受領書一通(證第三號)ヲ偽造シ之ヲ其ノ頃袖島甚吉ヲ介シ前記會社事務所ニ於テ原井吉太郎ニ該受領書カ眞正ニ成立シタルモノナリトシテ交付行使シ以テ同人ニ對シ被告人宛ニ送付セラレタルスパイクカ現實ニ右電氣局ニ納入セラレ且引續キ同品ヲ被告人ニ宛テ送付スルモ同様右電氣局ニ納入セラレルニ相違ナキモノノ如ク裝ヒ之ヲ誤信セシメ同月二十三日頃ヨリ六月十三日頃迄ノ間七回ニ互リスバイク合計三百九呎(價額合計金七千八百八十餘圓相當)ヲ前記尼崎汽船荷受所其ノ他大阪市内ノ刺濱店揚ニテ被告人宛發送セシメ其ノ都度右荷揚場所ニ於テ同

月二十日頃迄ニ之ヲ受取り更ニ同年六月二十日頃右新大阪ホテルニ於テ行使ノ目的ノ下ニ前記遺棄某ヲシテ他ノ文書ト共ニタイプライターニテ印書セシメタル「大阪市電氣局庶務部」ナル名下ニ豫テ用意シ置キタル「村井」ト刻セル印章ヲ押捺シ以テ同市電氣局所屬係員名義ノ五月十日ヨリ六月八日迄ニ於ケル納品内譯及「契約品未納ノ分ハ速ニ納入セラレ度尙支拂未済ノ代金ハ本月ニ限り二十三日ヲ以テ締切リ二箇月分送金スヘキ」旨記載シタル五月六日分納入内譯表ト題スル六月十八日附被告人宛ノ文書一通(證第四號)ヲ偽造シ之ヲ其ノ頃右袖島甚吉ノ長男泰太ヲ介シ前記會社事務所ニ於テ原井吉太郎ニ該書面カ眞正ニ成立シタルモノナリトシテ交付行使シ以テ同人ニ對シ右電氣局ニ納入シタルスパイクノ代金カ近ク支拂ハルヘク尙引續キ速ニ納入スルコトヲ要スルモノノ如ク裝ヒ之ヲ誤信セシメ六月二十一日頃及同月二十九日頃ノ兩度ニスパイク合計六十九呎(價額合計金千六百四十餘圓相當)ヲ前記尼崎汽船荷受所其ノ他揚ニテ被告人宛發送セシメ其ノ都度右荷揚場所ニ於テ同月三十日頃迄ニ之ヲ受取り

第二 昭和十三年五月中袖島甚吉ヲ通シ前記原井兄弟合資會社ノ代表社員原井一郎ヨリ同會社ノ製造ニ係ル仲機ノ賣却方依頼ヲ受ケタルヲ奇貨トシテ同人ヲ欺罔シ右仲機ヲ騙取セントコトヲ企テ前同様何等大阪市電氣局トノ間ニ仲機ノ納入契約ヲナシタルコトナキニ拘ラス同年六月十日頃ヨリ同月二十七、八日頃迄ノ間屢右袖島甚吉及其ノ子泰太ヲ介シ前記會社事務所ニ於テ原井一郎ニ對シ右仲機モ一噸ニ付金二百二十七圓ノ價值ニテ大阪市電氣局ニ納入スルコトトナリタルヲ以テ之ヲ送付セラレ度キ旨申向ケ因テ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月二十八日頃仲機八噸餘(價額金千八百二十餘圓相當)ヲ前記尼崎汽船荷受場ニテ被告人宛發送セシメ同年七月六日同荷受所ニ於テ之ヲ受

取リ  
以テ各其ノ騙取ヲ遂ケタルモノニシテ右公文書偽造偽造公文書行使及詐欺ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲爲中公文書偽造ノ點ハ刑法第五百五十五條第一項第五十五條ニ偽造公文書行使ノ點ハ同法  
私法上ノ契約ト公文書

第五百五十八條第一項第五十五條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スル處右公文書偽造偽造公文書行使及詐欺ノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辨護人霧生井上告趣意書第一點原審判決ハ其ノ理由ノ第一ニ於テ被告人カ行使ノ目的ノ下ニ情ヲ知ラナル大阪市内ノタイブライター印書業道家某ヲシテタイブライターニテ印書セル納入契約書ト題スル書面ニ豫メ同市内ノ某印刷屋ヲシテ造ラシメ置キタル「大阪市電氣局庶務部用度係」ト刻シタル護談印ヲ押捺シ其ノ下部ニ右同様豫テ同市内某印刷屋ニ造ラシメ置キタル「村井」ト刻シタル印章ヲ押捺シ以テ大阪市電氣局所屬係員名義ノ同市カ被告人ヨリ一定量ノスバイクヲ購入スヘキ旨ヲ記載シタル被告人宛ノ契約書一通ヲ偽造シ且之ヲ行使シテ財物騙取ヲ遂ケタリトノ事實ヲ判示シ(猶同様ナル手段ニヨル他ノ騙取事實ヲ舉示セルモ性質同様ナルヲ以テ之ヲ省略ス)其ノ電氣局所屬係員名義ノ文書ノ偽造ヲ以テ直チニ之ヲ公文書偽造ニ擬律セリ然レトモ按フニ所謂官文書公文書ナルモノハ國家自治體或ハ之等ノ補助的機關タル者カ所謂治ヲ四民ノ上ニ執リ行フコトヲ本質トスル事項若クハ右ノ本質

ノ補助タル性質ヲ有スル事項ヲ記載シタルモノナラサルヘカラス然ルニ本件文書ノ内容ヲ爲スモノハ大阪市電氣局カ單ニ性質上民事的行爲ノ範圍内ニ於テ巷間一般ニ存在スル處ノ商品ヲ一私人ヨリ購入セムトスル意思アリトノ記載以外ニハ何物モ無シ刑法カ文書偽造ノ罪ニ於テ其ノ公文書ト私文書トヲ判然區別シ科刑ニモ輕重ヲ分ケテ規定セル理由ノ要因ニハ即チ其ノ法益ノ異ルコトヲ意識セル事實ノアルコトヲ思ハサルヘカラス然ラハ原審判決ハ先ツ果シテ本件偽造文書ヲ偽造公文書トシテ見ルヘキカ又ハ單ニ大阪市電氣局庶務部係員某ノ署名アルニ過キサル非公文書ナリヤ之ヲ明カニ究理確定セサルヘカラス然ルニ原審ハ事茲ニ出テスシテ即チ此ノ場合ニ於ケル大阪市電氣局云々ナル記載ハ單ニ私法的ナル一定物品ノ買入人ノ何人ナルカ又ハ其ノ屬先等ヲ示ス記載ニ過キサル處ノ隨テ其ノ偽造文書ノ記載ハ大阪市自治ノ一部ノ具體的顯現乃至ハ其ノ施行者トシテ大阪市電氣局云々ト謂フ記載ニハアラサルモノナルニモ拘ラス上述此ノ點ニ關スル明確ナル究理ヲ盡サス漫然之ヲ公文書偽造ト判斷シタルハ事實誤認ノ甚シキモノト謂フヲ得ヘク而モ猶本件偽造文書ハ單ニ被告人ノ財物ノ不當領得ノ行爲ノ手段タル事實トシテ行ハレタルモノニシテ其ノ行使ニ就キテモ其ノ結果ノ及ホス處ハ一ニ私人ニ對シ財的損害ヲ與ヘタリト謂フニ止マリ遂ニ統治行政及之ノ延長タル事項ニ對シテハ全ク其ノ禍害ヲ及ホスコト無カリシモノト判斷スルコト極メテ容易ナル次第ナレハ上述刑法ノ規定ノ精神ニ則リテ本件犯罪行爲ヲ以テ却テ公文書偽造及之カ行使ニ間擬シタルコトハ誠ニ當ラサルモ遠シト謂フヘク此ノ

點原審判決ハ審理不盡ニシテ且不當ニ法令ヲ適用シタル違法アルモノトスト云フニ在レトモ  
 原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ明白ニシテ記錄ニ徵スルモ原審ニ重大ナル事實ノ誤認アルコト  
 ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ發見セス而シテ刑法カ文書ニ公文書ト私文書トノ區別ヲ設ケ公  
 文書偽造罪ヲ以テ私文書偽造罪ニ比シ嚴罰スル所以ノモノハ公文書ハ公務員又ハ公務所ノ職務權限内  
 ニ於テ作成スヘキモノナルカ故ニ其ノ本來ノ性質上一應公正ト看做サレ從テ一般ニ對スル證據力及信  
 用力厚ク之カ偽造ニ對スル被害ノ程度モ亦大ナルヘキニ因ルモノトス而モ其ノ證據力及信用力ハ一ニ  
 繫ツテ文書ノ作成名義人タル形式の條件ノ上ニ存シ其ノ實質的内容ノ上ニ存セス故ニ苟モ文書ニシテ  
 其ノ作成名義カ公務所又ハ公務員ナル限り統治機關トシテ若ハ公法上ノ關係ニ於テ作成セラレタルモ  
 ノナルト又私法上ノ關係ニ於テ作成セラレタルモノナルトヲ問ハス等シク之ヲ公文書ナリト謂ハサル  
 ヲ得ス原判示認定事實ニ依レハ被告人ハ大阪市電氣局庶務部用度係ト對シタル謄印ヲ押捺シ其ノ下  
 部ニ村井ト刻シタル印章ヲ押捺シ以テ大阪市電氣局所屬係員名義ノ判示契約書ヲ作成偽造シタルモノ  
 ナリト謂フニ在ルヲ以テ之ヲ公文書偽造罪ナリト斷スルニ妨ケナク原審カ判示法條ヲ適用處斷シタル  
 コトニ審理不盡擬律錯誤等ノ違法アルヲ認メス所論ハ右ト異ナル見解ニ出テ採用ノ限ニ在ラス論旨理  
 由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事三田勝關與

○横領背任差押標示無效被告事件(昭和十四年(レ)第五一九號  
 同年七月二十八日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 齋藤長平 辯護人 松尾菊太郎

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

假差押ノ標示アル物件ト其ノ保管者ノ取出行爲

○判決要旨

假差押ノ標示アル物件ノ保管者力賣却處分スルノ意思ヲ以テ之ヲ  
 取出スニ於テハ横領罪竝ニ差押標示無効罪ヲ構成スルモノトス

【参照】 刑法第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其ノ他  
 假差押ノ標示アル物件ト其ノ保管者ノ取出行爲

ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
同法第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦以シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス(訴訟費用ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人原山ハ十數年前株式會社帝國商業銀行ニ入り昭和三年同行カ株式會社第三銀行ト改稱セラレタル後モ之ニ勤務シ昭和十二年五月一日ヨリ昭和十三年五月四日迄東京市下谷區上根岸町八番地同行下谷支店ノ預金係中當座元帳係ヲ勤メ當座預金契約者振出ノ支拂小切手ニ付預金ノ有無ヲ調査シ預金十分ナルトキハ當座元帳ニ其ノ金額ヲ記入シ該小切手ヲ出納係ニ廻付シ預金不足ノ場合ニハ其ノ旨支店長ニ報告シ支店長ヲシテ該小切手ヲ振込人ニ返戻シ不渡タラシムル等ノ任ニ當リ居リタルモノ被告人齋藤ハ豫テヨリ同市淺草區花川戸二丁目三番地ニ於テ下駄商ヲ營ミ昭和十二年六月二十五日ヨリ齋藤收弘ト稱シ右第三銀行下谷支店ト金額千圓ヲ極度額トスル當座預金契約ヲ締結シ被告人原山ノ擔當取引客ト爲リ居タルモノナルトコロ

第一 被告人原山ハ昭和十二年十月十一日頃被告人齋藤ノ振出ニ係ル右銀行宛小切手數通金額合計金六百三十九圓六十三錢ノ呈示ヲ受ケタルモ被告人齋藤ノ當座預金額ハ當時僅カニ金百二十四圓六十五錢ニ過キス從テ支拂資金ハ金

五百十四圓九十八錢ノ不足ヲ生シタルニヨリ被告人齋藤ヨリ之ヲ補填スル爲近藤守三振出同銀行宛金額五百圓ノ小切手一通ヲ同銀行ニ振込ミタルカ右近藤ノ當座預金モ亦約三百圓餘ノ不足アリテ到底前記小切手金額六百三十九圓六十三錢ノ支拂ヲ爲スコト能ハナリシヲ以テ被告人原山ハ其ノ旨支店長ニ報告シ該小切手ヲ不渡ト爲スヘキ任務アルニ拘ラス被告人齋藤ヨリ履酒食ノ要應ヲ受ケ居タル關係上之ヲ其ノ儘支拂ヲ爲スニ於テハ右不足額金三百圓餘ノ損害ヲ銀行ニ被ラシムヘキコトヲ知悉シナカラ右任務ニ背キ被告人齋藤ノ利益ヲ圖リ右銀行下谷支店內ニ於テ擅ニ自己保管ノ預金元帳中被告人齋藤ノ部ニ金五百二十圓ノ預金入アリタルモノノ如ク虚偽ノ記入ヲ爲シ前記小切手金六百三十九圓六十三錢ノ支拂ヲ爲シ右銀行ニ金三百餘圓ノ損害ヲ加ヘ

第二 被告人原山ハ右犯行ノ夜被告人齋藤ニ對シ右犯行ヲ告ケ不足金ノ補填ヲ求メタルカ被告人齋藤ハ其ノ支拂ヲ爲ササルノミナラス却テ資金タニアラハ大イニ儲カル旨ヲ以テ前同様ノ方法ニ依リ自己ノ爲金融ヲ爲シ與レ度キ旨ノ依頼ヲ爲シタルヲ以テ被告人原山ハ被告人齋藤ヲシテ右不足額ヲ補填セシメ併セテ同人ヨリ自己ノ遊興費ヲ得ントシテ該請託ヲ受諾シ茲ニ被告人兩名ハ前記第三銀行ノ損失ニ於テ被告人齋藤ニ金融ヲ得シムルコトヲ共謀スルニ至リ之ニ依リ被告人齋藤ハ支拂資金ナキニ拘ラス右下谷支店宛支拂小切手ヲ振出シ被告人原山ハ同年十月十二日頃ヨリ昭和十三年五月三日迄ノ間約百回ニ互リ被告人齋藤ノ利益ヲ圖リ自己ノ前記任務ニ背キテ前示下谷支店ニ於テ前同様ノ方法ニ依リ被告人齋藤振出第三銀行下谷支店宛小切手金額合計金一萬三千五百五十六圓八錢ヲ支拂ヒ以テ被告人兩名ニ於テ同銀行ニ同額ノ損失ヲ加ヘ

第三 被告人齋藤ハ株式會社第三銀行ヨリ同銀行ノ被告人齋藤ニ對スル前記不法行爲ニ因ル損害賠償請求權(請求金額一萬三千五百七十七圓三十錢)保全ノ爲東京民事地方裁判所昭和十三年(ヨ)第五七九號假差押命令ニ基キ東京區裁判所執達吏岩本靜夫ニ委任シテ東京市淺草區花川戸二丁目三番地所在店舗内及同町二丁目二番地ノ一所在倉庫

假差押ノ標示アリ物件ト共ノ保管者ノ取出行爲



内ノ被告人齋藤所有ニ係ル商品全部ニ付假差押ノ執行ヲ受ケ該物件ハ公示書貼布ノ方法ニ依リ假差押物件ナルコトヲ標示シ妻齋藤田鶴子ニ之カ保管ヲ命セラレ居リタルトコロ被告人齋藤ハ右妻田鶴子ト共謀ノ上昭和十三年七月一日頃ヨリ同月二十六日頃迄ノ間數回ニ互リ前記假差押ノ物件中店舗内所在ノ第十六號小物日光二百足第十八號小物日光百二十足倉庫内所在ノ第五號大物ロイセン七十足第七號ロイセン大物三百足第十六號ロイセン大形百五十足ヲ擅ニ賣却ノ目的ヲ以テ取出シ以テ一面前記假差押ノ標示ヲ無効ナラシムト共ニ之ヲ横領シ

タルモノニシテ以上被告人原山ノ背任行爲被告人齋藤ノ差押標示無効及横領ノ各行爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス法律ニ照スニ被告人齋藤ノ判示所爲中背任ノ點ハ刑法第六十五條第一項第六十條第二項第四十七條第五十五條ニ差押標示無効ノ點ハ同法第六十條第九十六條ニ横領ノ點ハ同法第六十五條第一項第六十條第二項第五十二條第一項ニ各該當スルトコロ右差押標示無効ト横領ノ所爲ハ孰レモ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸レ且夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ニ依リ結局重キ横領罪ノ刑ニ從ヒ之ト背任トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ該當シ背任罪ニ付テハ懲役刑ヲ選擇スルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ横領ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ被告人兩名ヲ就上刑範圍内ニ於テ各懲役一年ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人松尾菊太郎上告趣意書第三點原判決ハ理由不備ノ違法アリ蓋シ原判決理由中「第三被告人齋藤ハ株式会社第三銀行ヨリ同銀行ノ被告人齋藤ニ對スル前記不法行爲ニ因ル損害賠償請求權(略)保全

ノ爲東京民事地方裁判所昭和十三年(ヨ)第五七九號假差押命令ニ基キ東京區裁判所執達吏岩本静夫ニ委任シテ東京市淺草區花川戸二丁目三番地所在店舗内及同所二丁目二番地ノ一所在倉庫内ノ被告人齋藤所有ニ係ル商品全部ニ付假差押ノ執行ヲ受ケ該物件ハ公示書貼布ノ方法ニ依リ假差押物件ナルコトヲ標示シ妻齋藤田鶴子ニ之カ保管ヲ命セラレ居リタルトコロ被告人齋藤ハ右妻田鶴子ト共謀ノ上昭和十三年七月一日頃ヨリ同月二十六日頃迄ノ間數回ニ互リ前記假差押ノ物件中店舗内所在ノ第十六號小物日光二百足第十八號小物日光百二十足倉庫内所在ノ第五號大物ロイセン七十足第七號ロイセン大物三百足第十六號ロイセン大形百五十足ヲ擅ニ賣却ノ目的ヲ以テ取出シ以テ一面前記假差押ノ標示ヲ無効ナラシムト共ニ之ヲ横領シト判示セラレタリ然レトモ右判示ノミニテハ被告人カ判示假差押ノ標示ヲ無効ナラシメ且ツ判示假差押物件ヲ横領シタルモノトハ認ムルコト能ハス蓋シ本件假差押ハ「公示書貼布ノ方法ニ依リ假差押物件ナルコトヲ標示シ妻齋藤田鶴子ニ之カ保管ヲ爲サシメタルモノ」ナリ從テ被告人カ單ニ之ヲ取り出シタルノミニテ保管者田鶴子ノ支配ヲ脱セシメサル限リハ未タ假差押ノ標示ヲ無効ナラシメタルモノト言フヘカラス又被告人カ之ヲ取出シタルノミニテ之ヲ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲ササル限リハ未タ横領行爲アリタルモノト言フヲ得ス原判決カ「賣却ノ目的ヲ以テ取出シタル行爲即チ物件ノ場所的移動ノミヲ目シテ横領行爲ノ完了シタルモノナリト即斷シタルハ横領行爲ノ觀念ヲ誤解シタルノミナラス判決ニ理由ヲ附セサル違法アルニ歸シ破毀ヲ免レサルモノト思料スト

假差押ノ標示アリキ物件ト其ノ保管者ノ取出行爲

云フニ在レドモ

横領罪ガ不法領得ノ意思ノ發現アルニ因リテ直ニ成立シ、必シモ所期ノ目的ヲ達成シタルコトヲ要セザルハ夙ニ本院判例ノ趣旨トスル所ナリトス。然リ而シテ、假差押ノ執行トシテ公示書貼付ノ方法ニ依リ假差押物件ナルコトヲ標示セラレタル物件ノ如キニ付テハ、之ガ保管ヲ命ゼラレタル者ト雖モ損ニ之ヲ處分シ得ザルコト勿論ナレバ、保管者ニ於テ該物件ヲ賣却處分スルノ意思ヲ以テ之ヲ取出ストキハ、横領罪竝ニ差押標示無効罪ヲ構成スルモノナルコト疑ヲ容レズ。今原判決ノ確定セル事實ニ依レバ、被告人ハ其ノ所有ニ係ル商品全部ニ假差押ノ執行ヲ受ケ該物件ハ公示書貼布ノ方法ニ依リ假差押物件ナルコトヲ標示シ、妻齋藤田鶴子ニ之ガ保管ヲ命ゼラレ居タルヲ奇貨トシ、右田鶴子ト共謀ノ上前後數回ニ互リ前記假差押ノ物件中判示物件ヲ賣却ノ目的ヲ以テ損ニ取出シタリト云フニ在ルヲ以テ、該事實ハ横領罪ヲ構成スルト同時ニ差押標示無効罪ヲ構成スルモノト謂フベク、随ツテ原判決ガ之ヲ刑法第二百五十二條第一項竝ニ第九十六條ニ間擬シタルハ寔ニ相當ニシテ、原判決ニハ毫モ所論ノ如キ理由不備ノ違法存在セズ。論旨ハ理由ナシ。(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

検事村上常太郎關與

○私文書偽造印章署名偽造詐欺等被告事件

(昭和十四年(九)第五六三號 棄却)

【上告人】 被告人 山田清之助 辯護人

白本鏡之助  
赤井正  
秋山藤治  
佐元吉夫

【第一審】 京都地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

箱書ノ性質

○判決要旨

書畫ノ箱書トシテ其ノ内容タル書畫ノ題目及落款ヲ其ノ筆跡ニ擬

箱書ノ性質

シテ表現スルニ於テハ其ノ題目書畫ノ眞筆ニ係ル事實ヲ證明スルニ足ルヘキ文書ナリトス

【參照】 刑法第百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ  
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人清之助ヲ懲役一年六月ニ被告人章二ヲ懲役一年ニ處ス被告人兩名ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス(其ノ他ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人清之助同悅藏ハ共謀ノ上書畫ニ特技ヲ有スル被告人悅藏ニ於テ執筆作爲ノ任ニ當リ夫々行使ノ目的ヲ以テ

第一 (一) 昭和九年二月頃ヨリ昭和十三年一月末頃迄ノ間前後百四十數回ニ互リ堺市熊野町東四丁二十一番地ノ居室ニ於テ被告人悅藏ノ作成ニ係ル合計百四十數枚ノ書畫ニ落款トシテ擅ニ夫々池田桂仙、堂本印象、橋本關雪、

須磨對水、横山大觀、吉村鳳柳、木島櫻谷、深田直城、大橋翠石、竹内瀧鳳、伊藤小坡、山元春舉、山田介堂、三浦竹泉、上島風山、田近竹邨、西村五雲、北野恒富、富田溪仙、中村大三郎、橋本獨山等ノ雅號若シハ本名ヲ名義人ノ筆跡ニ擬シテ記入シ且其ノ各名下ニ同人等ノ眞印影ニ紛ハシキ印影ヲ描寫シ以テ同人等ノ署名及印章(證第一號乃至第三號「中略」ノ書畫ノ落款部分其ノ他)ヲ順次偽造シ

(二) 右期間内ニ前後百十數回ニ互リ前記居室ニ於テ右偽造ノ落款ヲ付シタル書畫ノ容器タル合計百十數個ノ箱ニ所謂箱書トシテ擅ニ夫々内容タル書畫ノ題目及落款名義人タル雅號若クハ本名ヲ前同様ニ記載シ且同人等ノ眞印影ニ紛ハシキ印影ヲ描寫シ以テ同人等名義ノ右記載題目ノ書畫カ同人等ノ眞筆ニ相違ナキ旨ヲ證明スル文書百十餘通竝同本大更ノ署名ヲ習書シ其ノ印影ヲ偽造シテ同人名義ノ該箱ノ内容タル上島風山名義ノ偽造ノ落款ヲ付シタル書軸カ同畫家ノ眞筆ニ相違ナキモノト認ムル旨ヲ記載シタル鑑定書二通(證第七號「中略」ノ箱書其ノ他)ヲ順次偽造シ

(中略)

被告人章二ハ

(一) 昭和十二年三月二十五日頃大阪市南區玉屋町四十五番地米田長之助方ニ於テ同人ニ對シ被告人山田清之助ヨリ入手セル畫家山元春舉名義ノ偽造ノ落款(署名及印影)ヲ付シタル雪汀群鹿圖ト題スル畫軸一幅及之カ容器タル箱ニ同畫家ノ偽造ノ署名印章ヲ使用シテ同人名義ノ箱書ヲ偽造シタルモノ一個(證第三十一號)ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノトシテ一括シテ提示行使シ該畫軸ハ堺市ニ於ケル知名ノ醫師タリシ河合某ノ未亡人ノ所藏品ニシテ山元春舉ノ眞筆ナル旨申許リ其ノ買取方ヲ獎メ因テ長之助ヲシテ其ノ旨誤信セシメ翌二十六日頃右同人宅ニ於テ該畫軸買受代金及賣買周旋手数料名義ノ下ニ同人ノ振出ニ係ル金額二百七十五圓ノ小切手一通(住友銀行大阪市南區大寶

箱書ノ性質

寺出張所宛ノモノヲ交付セシメ

(中略)

タルモノニシテ被告人清之助及悦藏ノ署名及印章(落款)ノ偽造箱書偽造ノ各所爲被告人章二ノ偽造ノ署名及印章(落款)ノ使用偽造箱書及賣渡證ノ行使及欺詐ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス  
法律ニ照スニ被告人清之助ノ判示所爲中署名及印章ノ偽造ノ點ハ各刑法第六十七條第一項第五十五條第六十條ニ私文書偽造ノ點ハ各同法第五十九條第一項第五十五條第六十條ニ夫々該當スル處以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ各同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ私文書偽造罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ施シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人清之助ヲ懲役一年六月ニ處シ被告人章二ノ判示事實中私文書偽造ノ點ハ同法第五十九條第一項ニ偽造私文書行使ノ點ハ各同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ偽造ノ署名及印章使用ノ點ハ各同法第六十七條第二項第一項ニ詐欺ノ點ハ各同法第二百四十六條第一項ニ該當スル處偽造ノ署名及印章ト偽造私文書トヲ一括行使シタル點ハ孰レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又偽造ノ署名及印章ノ使用偽造私文書ノ行使及詐欺ハ孰レモ犯意繼續ニ係リ偽造ノ署名及印章ノ使用偽造私文書ノ行使ハ孰レモ詐欺ノ手段ニシテ賣渡證ノ偽造ハ偽造賣渡證行使ノ手段ニ外ナラサルヲ以テ同法第五十四條第一項前段及後段第五十五條第十條ヲ適用シ結局最重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク尙被告人兩名ニ對シ同法第二十一條ニ依リ夫々原審ニ於ケル未決勾留日數九十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

### ○理 由

被告人山田清之助辯護人佐藤元吉同白鳥正造上告趣意書第一點原判決ハ罪ト爲ラサル事實ヲ有罪ト認定シ且法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルヲ以テ之ヲ破毀スヘキモノナリト信ス原判決ハ上告人カ山田悦藏、吉住甚吉、大津辰次郎、宮崎明義等ノ委囑ニ基キ又ハ共謀ノ上池田桂仙、堂本印象、橋本關雪、横山大觀、山元春舉、西村五雲、伊藤小坡、菅橋彦其ノ他數名ノ有名ナル畫家ノ雅號又ハ本名ヲ冒稱シ各其ノ眞印影ニ紛ハシキ印影ヲ描寫又ハ作成シテ畫幅ヲ偽作シ且所謂箱書ヲモ偽作シタルモノナリトノ事實ヲ認定シタル上刑法第六十七條第一項第五十九條第一項等ヲ適用シ懲役一年六月ニ處シタルモノナルコトハ原審判決ノ事實及其ノ理由ニ徴シ明ナリトス然レトモ書畫及箱書ノ偽作ハ通貨又ハ有價證券等ノ偽造ト異リ別ニ其ノ罪ヲ問ハルヘキモノニアラストノ觀念ハ輒近ニ於ケル一般ノ常識ト爲リ偽作書畫ハ所謂偽物トシテ客觀的價値ヲ有シ偽作物トシテ珍重セラレ居ルコトハ通念的ノ常識タルカ如キ常態ナリト謂フヘク之ヲ法律上ヨリ觀察スルモ所謂書畫ナルモノハ愛玩娛樂ノ用ニ供セラレ又君子清樂ノ具タル美術品ノ部類ニ屬シ刑法第五十九條第一項ノ所謂文書圖畫ニ該當セサルモノナルコト元ヨリ論ヲ俟タサルトコロナリトス又名家又ハ高名ナル畫家ノ氏名又ハ雅號ヲ冒稱シ落款ヲ偽作シテ書畫ヲ偽作シ又ハ其ノ箱書ヲ偽作スルモ此等ノ偽作品ハ所謂美術品ニ屬シ法律的重要性ヲ有スル國民生活上ノ事實ニ關スル文書圖畫ニ非サルヲ以テ刑法ニ所謂文書偽造罪ニ該當スルモノニアラスト解スルヲ相當ナリト信ス而シテ大正二年三月二十七日及大正十四年十月十日ノ御院ノ各判決ハ

此ノ見解ニ反シ文書偽造罪ノ成立ヲ肯定シ居ルカ如キモ該判例ニハ反對者多ク文書偽造ニ非スト論斷スル學界ノ有力者モ亦多數アルヲ以テ右判例ハ速ニ變改セラレヘキモノト信スルモノナリ上告辯護人ノ右見解ニ依レハ原審認定ノ如キ事實ハ原審適用ノ法條ニ依ルヘキ文書偽造罪ノ成立セサルコト明白ナルカ故ニ原審ハ罪ト爲ラサル事實ヲ有罪トシ且刑法第五十九條第一項ノ所謂文書圖畫トシテ同條ヲ適用處斷シタルハ明カニ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルヲ以テ原判決ハ此ノ點ニ於テ當然破毀セラレヘキモノト信ス(昭和十四年六月十一日發行サンデー毎日十六、七頁「新畫暴騰ノ波ニ乘リ流行作家ノ賈物横行」ト題スル水明五郎氏ノ説及同年六月一日發行大阪毎日新聞同六月二日發行同新聞「書畫ノ偽造ト刑法」ト題スル瀧川幸辰教授ノ論文ヲ右論旨ノ一例示トシテ援用シ各之ヲ參照セラレレンコトヲ望ム)ト云フニ在リ

因テ案スルニ美術品タル書畫ヲ模寫スルハ自由ナリト雖之ニ作者ノ落款ヲ損ニ表ストキハ署名及印章偽造罪ヲ構成スヘク又損ニ作者ノ雅號若クハ本名ヲ用ヒテ其ノ容器タル箱ニ箱書ヲ爲シテ作者名義ノ内容書畫カ其ノ者ノ眞筆ニ相違ナキ趣旨ヲ表ハストキハ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス蓋落款トハ作者自ら其ノ名稱ヲ掲記シ併セテ其ノ印章ヲ捺捺スルノ謂ナレハ第三者カ損ニ之ヲ爲スニ於テハ署名印章ノ偽造トナルヘク又雅號トハ特定人カ自己ヲ表彰スル一種ノ名稱ナレハ氏名ト等シク署名ナルヲ以テ損ニ雅號又ハ本名ヲ用ヒテ箱書ヲ爲スハ其ノ書畫ノ眞筆ニ係ル事實ヲ證明スルニ足ルヘキ文書ヲ作

## 【要旨】

成シタルモノニ外ナラサレハナリ而シテ第三者ノ爲シタル箱書ノ鑑定ノ性質ヲ帯ヒ從テ當該書畫カ何人ノ筆蹟ナルヤノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ文書タル性質ヲ具備スルコト明ナレハ之ヲ事實證明ニ關スル文書ト云フヲ得ヘシ原判決ノ認メタル事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ署名印章ノ偽造又ハ文書偽造ニ當ルコト洵ニ明ナルヲ以テ原判決ハ罪ト爲ラサル事實ヲ認メテ法律ヲ適用シタルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事井上貫一關與

## ○詐欺被告事件(昭和十四年(れ)第五八六號)

(昭和十四年八月三十一日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 兵頭秋太郎 辯護人 (國松 經 録 榮 師 守 志 光)

詐欺罪ト任務違背

○ 判示事項

○ 判決要旨

生命保險會社出張所ノ外務員カ同會社ノ診査醫ト共謀シ被保險者ヲ診査セスシテ健診報狀ヲ作成セシメ之ヲ右會社ニ送付シ保費ヲ欺キ保險契約者ヲシテ保險證券ノ交付ヲ受クルニ至ラシメタルトキハ詐欺罪成立シ別ニ背任罪ヲ構成セス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

同法第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人秋太郎ヲ懲役五月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人秋太郎ハ昭和十年十二月十一日以降同十三年十二月三十一日迄ノ間東京市京橋區二丁目ニ本社ヲ有スル千代田生命保險相互會社宇和島出張所外務員トシテ保險契約者募集ニ從事シ居タル者ナル處昭和十二年十二月上旬頃愛媛縣北宇和郡高光村毛利庄太郎代理人毛利爲吉ニ對シ右庄太郎長女秀子ヲ被保險者トシテ同會社ニ金額千圓ノ生命保險契約加入申込ヲ爲サシメタル上同社診査醫原審相被告人水谷正太郎ニ於テ秀子ヲ診査シ其ノ健診報狀ヲ同社高松支部ニ送付シタルニ同年十二月末日頃同支部ヨリ秀子ノ再診査ヲ爲スヘキ旨ノ通知ニ接シ當時被告人秋太郎ハ秀子カ肋膜炎ノ既往症ヲ有スルコトヲ知悉セルニ拘ラス同會社ヨリ該契約成立ニ依ル報酬ヲ受ケンカ爲水谷正太郎ト共謀ノ上無診査ニテ秀子カ被保險者タルニ適スル健康體ナル旨ノ健診報狀ヲ作成シ同會社ヨリ毛利庄太郎ノ手ニ保險證券ヲ騙取セシムルコトヲ企圖シ同十三年三月三十日頃秀子ノ再診査ヲ爲ササルニ拘ラス前示正太郎ニ於テ再診査ノ結果秀子ハ被保險者タルニ適スル健康體ナル如ク記載シタル虛偽ノ健診報狀ヲ作成ノ上其ノ頃之ヲ同社ニ送付到達セシメ因テ同社當該係員ヲシテ被保險者ハ診査醫ノ診査ヲ受ケ居ルモノノ如ク誤信セシメ因テ同年四月頃右本社係員ヨリ同社名義保險契約者毛利庄太郎被保險者毛利秀子保險金額千圓ノ保險證券ヲ同縣北宇和郡旭村所在同會社代理店ヲ經テ被告人秋太郎ノ手ニ交付ヲ受ケタル上同年六月頃家藤豐實ノ手ヲ經テ之ヲ庄太郎方ニ於テ同人ニ交付シテ該保險證券一通ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人秋太郎ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ主文第一項ノ刑ヲ量定處斷シ且同法第二十一條ヲ適用シテ主文第二項掲記ノ未決勾留日數ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

## ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

## ○理 由

辯護人國松福祿上告趣意書第一點原審判決ハ上告人ニ對シ「水谷正太郎ト共謀ノ上無診査ニテ秀子カ被保險者タルニ適スル健康體ナル旨ノ健診報狀ヲ作成シ同會社ヨリ毛利庄太郎ノ手ニ保險證券ヲ騙取センコトヲ企圖シ」ト事實ヲ確定シ以テ水谷庄太郎ト共謀ニ因ル共同正犯トナシ以テ詐欺罪ニ問擬シタリ然レトモ之レ即チ擬律錯誤ノ不法ノ判決ナリト信ス原審判決ニ於テ上告人ト水谷庄太郎ト共謀セシル事實ヲ認定シタル證據トシテ上告人兵頭秋太郎第二審公判ニ於ケル供述ノ一部及第一審第一、二回水谷正太郎ニ係ル公判調書(記錄第四〇二丁以下)ヲ援用シタリ然レトモ其ノ援用ニ係ル證據ニ依ルモ上告人ト水谷正太郎トカ原審カ認定セル如ク「會社ヨリ毛利庄太郎ノ手ニ保險證券ヲ騙取セントノ」共謀ノ意思ノ連絡アル事實ヲ認定スルヲ得サルモノトス即チ(一)水谷正太郎カ上告人ノ依頼ニ依リ健診報狀ヲ作成シタルハ「私カ秀子ノ健診報狀ヲ作成セナンタナラハ兵頭秋太郎ハ保險契約ノ成立ノ成績カ上ラス報酬カ貰ヘヌカラ氣ノ毒ニ思フテ作成シタリ」(水谷正太郎第一審公判調書)又「同人カ締切ノ日カ迫テ居リ尙責任額ニモ達シナイシ本人ハ元氣ニヤツテ居ルノタカラト泣キ付キマス」ト無診査テ健診報狀ヲ作成シ本社ニ送付シタノチアリマス」(水谷正太郎公判調書)(二)上告人第二

審公判調書中「私ハ水谷正太郎ニ對シ秀子ヲ無診査テ濟マス様依頼シマシタ處正太郎ハ夫レヲ承知シ先ニ書類ヲ出シテ置カウト言フテ診査セシ健診報狀ヲ作ツテ本社ニ送ツテ呉レタノチアリマス」「秀子ノ保險契約ヲ締結致シマスト私ノ成績カ十割ト言フコトニナリ月賞モ多クナリマスシ收入モヨクナリマスカラ無診査テアルニ不拘再診査ヲシタ様ニシテ健診報狀ヲ作ツテ貰ツタノチアリマス」此等ノ證據ニ依レハ詐欺ノ共謀意思ヲ認定スルノ資料ナク反ツテ自己ノ任務ニ違反シテ自己ノ利益ヲ圖ル目的又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的意思ヲ認ムルニ充分ナリト信ス之ヲ要スルニ原審判決ハ詐欺ノ犯意ヲ認定スヘキ證據ナキニ拘ラス之ヲ認定シ又共謀ノ事實ノ認ムヘキモノナキニ不拘之ヲ認定シ以テ證據ニ依ラス事實ヲ確定シタル不法アルヲ以テ破毀ヲ免カレサルモノト信スル次第ナリト云ヒ」第二點原審判決ハ上告人ヲ水谷正太郎ト共謀ノ事實ヲ認メ且ツ詐欺罪ニ問擬シタリ然レ共水谷正太郎ハ大正七年千代田生命保險株式會社ノ囑託醫トナリ次テ昭和十一年九月頃ヨリ華社醫トナレリ而シテ囑託醫ハ診査報狀ヲ作成シ意見ヲ述ヘルニ過キササルモノ千代田生命保險株式會社ノ華社醫ハ一萬圓以下ノ保險契約ニ付テハ即決權ヲ有シ被保險者ノ健康狀態ニヨリ契約體ト拒絕體トヲ決定シテ診査報狀ヲ本社ニ送付スル權限ヲ有セリ(水谷正太郎第一審公判調書)而シテ所謂華社醫ノ即決權トハ競争制シキ保險募集ニ際シ本社ノ決定ヲ待ツニ於テハ他社ニ先キンセラシムルノ虞アルヨリ保險會社内部ノ規約ニ基キ華社醫ニ對シ保險契約締結ニ關シ一定ノ權限ヲ付與シタルモノナリ其ノ權限ハ一千圓以上一萬圓以下ノ

契約の場合ハ保險契約申込書カ本社ニ通達セストモ第一回保險料ヲ拂込ミタルトキハ準社醫ハ本社ニ代リ保險契約締結ノ承諾ノ意思表示ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルモノナリ(證人石崎要範證言調書)從テ準社醫ノ資格者タル水谷正太郎カ保險契約締結ニ付テハ敍上ノ權限ヲ有スルヲ以テ契約締結ニ際シテ保險會社ニ代リ代決シタル契約ハ本社ヲ拘束シ本社ハ契約ヲ締結セサル可カラサル效力アルモノトス而シテ内部的ニハ保險契約成立ノ諾否ヲ決スルノ權限ヲ有スル者ナリ斯クノ如ク本人ニ對シ本人ニ代リ事務ヲ處理處分スル權限ヲ有スル者カ其ノ處分權限ヲ濫用シテ其ノ權限内ノ事務ニ就キ詐欺的行爲アリトスルモ本人又ハ第三者ニ對シ欺罔ヲ爲シタルモノト謂フヲ得サルヲ以テ詐欺罪ヲ構成スルモノニ非スシテ背任罪ヲ構成スルモノトス他人ノ事務ヲ處理スル者カ第三者ト共謀シ其ノ利益ヲ圖リ其ノ任務ニ關シ本人ヲ欺キ財物ヲ交付セシメタル行爲ハ背任罪ノ要件ヲ具備スル場合ニ於テモ詐欺罪ヲ構成シ背任罪ヲ構成セスト御院ニ於テ度々判示サレタルモ何レモ他人ノ事務ヲ處理スル者トハ單純ナル事務ヲ處理スヘキ任務ヲ有スル者ヲ謂ヒ本人ニ代リ代決ニ依リ本人ノ意思ヲ表示シ得ル權限ヲ有スル者即チ本件ニ於ケル準社醫タル水谷正太郎ノ有スル權限ノ如キハ會社カ内部的ニ其ノ即決シタル事項ハ會社ニ代ル效力ヲ付與シ居ルヲ以テ本件ニ於テ水谷正太郎ノ爲シタル無診査報狀ハ會社自體ノ行爲ノ一部ニシテ會社以外ノ者ノ行爲ニ非スト解スヘキモノナレハ詐欺罪ノ觀念ヲ容ルルノ餘地ナク背任罪ヲ構成スヘキモノトス敍上ノ如ク水谷正太郎ノ本件ニ於ケル行爲ハ詐欺罪ヲ構成セス背任罪ヲ構成

スルモノトス故ニ背任罪ハ一定ノ任務ヲ有スル者ニ非スンハ犯シ得サルモノニシテ此ノ意味ニ於テ背任罪ハ刑法第六十五條第一項ニ所謂犯人ノ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ノ一ナリトス原審判決カ本件犯行ヲ上告人ト水谷正太郎トノ共謀ナリト斷スル以上ハ水谷正太郎ノ身分犯ニ對シ其ノ身分ナキ者カ共犯トシテ加功シタルニ過キスシテ上告人ノ行爲モ亦背任罪ヲ以テ律スヘキモノナルニ不拘原審ハ上告人ニ對シ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法ノ判決ニシテ到底破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在レトモ

生命保險會社出張所ノ外務員カ被保險者カ肋膜炎ノ既往症ヲ有スルコトヲ知悉セルニ拘ラス保險契約ヲ締結セシメ該契約成立ニ依ル報酬ヲ受クルト同時ニ保險契約者ニ保險證券ヲ取得セシメンカ爲同會社診査醫ト共謀ノ上診査醫ヲシテ被保險者ヲ診査セシメテ適格ナル健康體ナル旨ノ健診報狀ヲ作成セシメ之ヲ同會社ニ送付シ因テ當該係員ヲ錯誤ニ陥レ保險證券ヲ保險契約者ニ交付セシメタルトキハ詐欺罪ヲ構成スルモノトス蓋生命保險會社ノ診査醫ハ同會社ノ爲ニ事務ヲ處理スル者ナレハ被保險者ヲ診査セシメテ健診報狀ヲ作成スルハ其ノ任務ニ背キタル行爲ナルモ更ニ右外務員ノ詐欺ノ企圖ニ共謀シ同人ヲシテ虛偽ノ健診報狀ヲ會社ニ送付セシメ保險證券ヲ交付ヲ受クルニ至ラシメタルトキハ右背任行爲ハ當然ニ詐欺罪ノ觀念中ニ包含スルモノナレハナリ而シテ生命保險會社ノ診査醫ハ會社ニ雇備セラルルモノナルト囑託サレタルモノナルト問ハス會社ニ代リ保險申込人ノ健康狀態ヲ診査スル任

## 【要旨】



務ヲ有スルモノナレハ申込人ノ身體狀況ニ關シ危險測定ニ必要ナル事項ノ告知ヲ受ケタルトキハ即チ會社カ共ノ告知ヲ受ケタル效果ヲ生スヘキモ保險會社出張所ノ外務員ト共謀シテ虛偽ノ健診報狀ヲ作成シテ之ヲ會社ニ送付セシムルハ己ヲ欺クニ非スシテ會社ヲ欺クニ外ナラサルヲ以テ診査醫カ會社ニ代リテ爲シタル民事上ノ效果如何ニ拘ラス刑事上詐欺罪ノ構成要件ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス  
 原判決ノ認メタル事實ハ之ヲ要スルニ被告人秋太郎ハ千代田生命保險相互會社宇和島出張所外務員トシテ保險契約者募集ニ從事シ居タル者ナルトコロ昭和十二年十二月上旬頃毛利庄太郎代理人毛利爲吉ニ對シ庄太郎長女秀子ヲ被保險者トシ同會社ニ金額一千圓ノ生命保險契約加入申込ヲ爲サシメタル上同社診査醫第一審相被告人水谷正太郎ニ於テ秀子ヲ診査シ其ノ健診報狀ヲ同社高松支部ニ送付シタルニ同支部ヨリ秀子ノ再診査ヲ爲スヘキ旨ノ通知ニ接シ當時被告人秋太郎ハ秀子カ肋膜炎ノ既往症ヲ有スルコトヲ知悉セルニ拘ラス同會社ヨリ該契約成立ニ依ル報酬ヲ受ケンカ爲右水谷正太郎ト共謀ノ上無診査ニテ秀子カ被保險者ニ適スル健康體ナル旨ノ健診報狀ヲ作成シ同會社ヨリ毛利庄太郎ノ手ニ保險證券ヲ騙取センコトヲ企圖シ同十三年三月三十日頃秀子ノ再診査ヲ爲ササルニ拘ラス正太郎ニ於テ再診査ノ結果秀子ハ被保險者タルニ適スル健康體ナル如ク記載シタル虛偽ノ健診報狀ヲ作成ノ上其ノ頃之ヲ同社ニ送付送致セシメ因テ同年四月頃右本社係員ヨリ同社名義保險契約者毛利庄太郎被保險者毛利秀子保險金千圓ノ保險證券ヲ右出張所ヲ經テ被告人秋太郎ノ手ニ交付ヲ受ケタル上同年六月頃家

藤豐實ノ手ヲ經テ之ヲ庄太郎方ニ於テ同人ニ交付シテ該保險證券一通ヲ騙取シタルモノナリト云フニ在リテ該事實ハ原判決舉示ノ各證據ニ依リ優ニ之ヲ證明スルニ足ルヲ以テ原判決ニハ詐欺並共謀ニ關スル證據ナキモノト云フヲ得サルト同時ニ右事實ニ對シ欺詐罪ヲ以テ論シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ背任罪ヲ以テ問擬スヘキモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事山井浩關與

○住居侵入被告事件(昭和十四年(其)第五六八號  
同年九月五日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 鎌倉 茂

【第一審】 須崎區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

門構ノミアリテ戸扉ナキ門構ト住居侵入

○判決要旨

門構ノミアリテ戸扉ノ備ナキ邸宅ト雖モ正當ノ事由ナクシテ其ノ  
門内ニ入ルトキハ住居侵入罪成立ス

【參照】 刑法第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ  
侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以  
門構ノミアリテ戸扉ナキ門構ト住居侵入

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二十日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十四年二月十三日午後九時三十分頃出征軍人ノ留守宅タル高知縣高岡郡窪川町中神ノ川玉川シマ(當六十九年)方邸宅内へ同人ノ孫玉川靜(當十九年)ト情交ノ目的ヲ以テ故ナク侵入シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第三百三十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ被告人ヲ二十日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人上告趣意書第一點本件公訴事實ハ被告人ハ昭和十四年二月十三日高知縣高岡郡窪川町中神ノ川玉川シマ方住宅内へ同人ノ孫玉川靜ト情交ノ目的ニテ故ナク侵入シタルモノナリトイフニアリ右ニ對シ被告人ハ第一審第二審公判廷ニ於テ極力住居侵入ノ犯意ヲ否認シテ其ノ日(昭和十四年二月十三日)

ハ宮谷近太方ヲ御馳走ニナリ酒ニ酔ツテ居リ自分ノ下宿(玉川宅ヨリ一里以上アリ)ニ歸ルノカウルサクナツタノヲ知り合ヒナル玉川シマ方ニ泊ラシテ貰ヒタイト思ツテ午後九時半頃提灯ヲ點ケタ儘正門ノ處カラ入り突當リノ縁ノ前迄行ツテ玉川シマニ宿ヲ貸シテモライタイト云ヒ二、三問答ノ内シマニ斷ラレテ直ク歸ツタトノ意味ノ供述ヲ爲シ居レリ然ルニ原判決ハ被告人ノ右ノ意味ノ供述證人玉川シマ同中越猪勝ノ證言及ヒ被告人ノ檢事廷ニ於ケル供述ヲ綜合シテ被告人ハ玉川シマノ孫玉川靜ト情交ノ目的ヲ以テ故ナク玉川シマ方ニ侵入シタリト認定シタルモノナリ被告人カ原判決表示ノ日時頃判示ノ場所タル玉川シマ方ニ行キシコトハ爭ナキ事實ナリ而シテ玉川シマ宅ハ門構へハアレトモ門戸ナク晝夜ノ別ナク一般ノ外來者ハ自由ニ門構へノ所ヲ出入シ得ル様ニナリ居ルコトハ證人玉川靜同高尾利雄ノ證言ニヨリ明カニシテ當夜被告カ火ヲ點ケタル提灯ヲ所持シ居リタルコト竝ニ被告人ト玉川家トハ知り合ヒノ間柄ナル點モ證人玉川シマ同玉川靜ノ證言ニヨリ明カナリ又被告人カ右玉川家ノ門ヨリ二、三問ノ突當リニアル縁ノ前迄行ツテ宿ヲ貸シテ吳レト相談ヲスル際縁ニ上ラサリシコトハ證人玉川シマノ證言中「其ノ者ハ縁ニ上ラナカッタカ」ノ間ヒニ對シ「上リマセヌ」ノ答ニヨリ明カナル事實ナリ右ノ諸事實明カナルニモ拘ラス被告人ノ行爲ヲ住居侵入罪ヲ構成スルモノトシテ有罪ノ判決ヲ爲セシハ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト謂ハサルヘカラスト云ヒ」第二點原判決ハ被告人カ玉川シマ方ノ門戸ナキ門構へノ内ニ入り夫レヨリ二、三問隔リタル縁

ノ前迄行ツタ事實ヲ以テ被告人カ故ナク人ノ住居スル邸宅ニ侵入シタリト判斷セルモノノ如シ然ルニ  
 高知縣窪川町ハ高知市ノ西方約二十里ヲ隔タル山間未開ノ田舎町ニシテ且玉川シマ宅ノアル同町中神  
 ノ川ハ同町ノ中心地ヨリ一里以上隔リタル山間ノ部落ニシテ人家ハ所々ニ散在スルノミニテ大概ノ家  
 ニハ門戸ナク外來者ハ晝夜ノ別ナク家ノ縁側(玄關ト云フヘキ所)マテ自由ニ出入シ得ルヲ普通トス  
 ル状態ナリ故ニ被告人カ玉川シマ方ノ縁ノ前迄行ツタノハ其ノ地方ニ於ケル通常ノ訪問ヲナシタルモ  
 ノト云フヘキモノニシテ刑法第三百十條ニ所謂人ノ住居スル邸宅ニ侵入シタリト認ムヘキモノニアラ  
 ス被告人ハ玉川方ノ縁側ニモ上リタルモノニアラスシマヨリ宿ハ貸セント拒絕セラルルヤ其ノ儘歸リ  
 タルモノナレハ要求ヲ受ケテ其ノ場所ヨリ退去セサルモノニモアラス之ヲ要スルニ本件ニ於テ刑法第  
 百三十條前段ニ邸宅トハ玉川シマ宅ノ如何ナル場所ヲ云フヤ明カニセサルヘカラサルニ事此所ニ出  
 テスシテ被告人ノ行爲ヲ漫然玉川シマ方邸宅内ニ侵入シタリト認定シタルハ審理ヲ盡ササルノミナラ  
 ス擬律錯誤ノ違法アルモノト思料スト云ヒ」第三點被告人ハ當夜火ノ點キタル提灯ヲ所持シ居リタリ  
 高知縣窪川町附近ニ於テ夜這ヲナスニ提灯ヲ點ケテ行ク慣習アルヲ聞カス通常夜這ハ家人ノ寢靜マリ  
 タル後ヒソカニ家宅内ニ侵入スルモノナリ故ニ原審ニ於テハ窪川町附近ニ於ケル夜這ニ付各般ノ調査  
 ヲ爲シ被告人ノ所爲ヲ夜這ト認定スヘキヤ否ヤヲ判斷スヘキモノト思考セラルニ事此所ニ出テサリシ  
 ハ事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト信スルモノナレハ第一點ニ於テ概説シタルモ

重ネテ述フル次第ナリ以上ノ次第ナルヲ以テ原判決ヲ破毀シ相當ノ御判決相成度シト云フニ在レドモ  
 記録ニ依レバ原審ニ於テハ被告人ガ原判示玉川シマ方邸宅内ノ那邊ニマデ侵入シタルヤニ付テモ具サ  
 ニ取調ヲ爲シタルコト明カナルガ故ニ其ノ審理ニ於テ何等不盡ノ點ヲ殘ス所無シ但ダ原判決ニハ被告  
 人ハ右玉川シマ方邸宅内ニ故ナク侵入シタルモノナリトノミ判示シ同邸宅内ノ何レノ場所マデ被告人  
 ガ侵入シタルヤヲ明カニスル所ナシト雖モ住居侵入罪ノ判示シテハ他人ノ住居スル邸宅内ニ故ナク侵  
 入シタルコトヲ明カニスルヲ以テ足レリトシ其ノ他具體的ノ判示ヲ必要トセス又其ノ邸宅内ノ那邊ニ  
 マテ侵入シタルヤト云フガ如キコトハ必ズシモ之ヲ判示スルノ要ナキモノナレバ原判決ハ其ノ判示ニ  
 於テモ亦違法ノ點アルコト莫シ而シテ原判決ニ舉示セラレタル證據ヲ以テスレバ被告人ハ原判示ノ如  
 ク右シマ方邸宅内ニ同人ノ孫靜(當十九年)ト情交ヲ爲スノ目的ヲ以テ侵入シタルコトヲ認定スルニ  
 十分ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實誤認アルコトヲ疑フニ足ルベキ事由ハ毫モ存スル  
 コトナシ且門構ノミアリテ門戸ノ備ヲ缺キ晝夜ノ別ナク外部ヨリ人ノ出入シ得ベキ状態ノ邸宅ナリト  
 テ苟モ正當ノ事由ナクシテ其ノ内部ニ侵入スルトキハ住居侵入罪ハ即チ成立スベク又其ノ侵入ガ邸宅  
 内ノ那邊ニマデ及ヒタルヤト云フガ如キコトハ同罪ノ成否ニ何等ノ消長ヲモ及ボスコトナキハ勿論ナ  
 ルト共ニ居住者ノ孫ナル未成年ノ女子ト情交ヲ爲スノ目的ヲ以テ他人ノ邸宅内ニ侵入スルトイフガ如  
 キハ固ヨリ正當ノ事由ニ依ルモノト云フヲ得ズ侵入者ガ當該邸宅ノ居住者ト知合ノ間柄ナリシト云フ

【要旨】

門構ノミアリテ門戸ナキ門構ト住居侵入

ガ如キコトハ右結論ヲ左右スベキモノニ非ザルハ多言ヲ要セザルガ故ニ原審ガ前敘認定事實ニ依リ被告  
人ノ所爲ハ住居侵入罪ニ該當スト爲シタルハ極メテ至當ニシテ擬律錯誤ノ違法ナドハ少シモアルコ  
ト莫シ論旨ハ孰レモ理由ナシ

仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決ス

檢事横田麟二關與

○收賄被告事件(昭和十四年(九)第五五七號  
同年九月九日第一刑事部判決) 棄却)

【上告人】 被告人 佐々木信藏 辯護人 (石川時之助)

【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

共犯人ノ一人ト訴訟費用ノ單獨負擔

○判決要旨

共犯人中ノ一被告人ノ爲特ニ要シタル訴訟費用ノ如キハ其ノ費用  
ヲ生セシメタル被告人ヲシテ單獨ニ負擔セシムルコトヲ得ルモノ  
トス

【參照】 刑事訴訟法第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負  
擔セシムルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人佐々木信藏ヲ懲役一年ニ處シ第一審ニ於ケ  
ル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入ス被告人佐々木信藏ヨリ金六萬三千二百六十五圓ヲ追徴ス當  
審ニ於テ生シタル訴訟費用ハ被告人佐々木信藏ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人佐々木信藏ハ大正七年十二月衆議院事務局庶務課會計係ノ屬官ニ任セラレ大正十四年二月同係主任トナリ昭和  
十年二月同事務局會計課主事ニ任セラレ奏任官ノ待遇ヲ受クルニ至リタルモノニシテ大正十四年二月以降昭和十二年  
十一月休職ヲ命セララルルニ至ルマテ引續キ衆議院書記官長並ニ衆議院事務局庶務課長或ハ會計課長ノ監督ノ下ニ同事  
務局ノ豫算決算及收入支出ニ關スル事項固有財産ニ關スル事項物品購入及出納保管ニ關スル事項及營繕ニ關スル事項  
等ノ會計事務ヲ掌リ從テ職務上同事務局ノ取扱ニ係ル議會關係ノ印刷物ノ註文ニ關スル事務ヲモ報ヒ居リタルモノニ  
シテ被告人谷本正ハ昭和四年四月中東京市芝區愛宕町二丁目十四番地所在常磐印刷株式會社ニ支配人トシテ雇ハレ昭  
和

共犯人ノ一人ト訴訟費用ノ單獨負擔

和七年一月以降同會社ノ取締役ヲ爲シ居タルモノナルトコロ

第一 被告人谷本正ハ其ノ入社當時多額ノ負債ヲ生シ經營困難ニ陥リ居リタル常警印刷株式會社ノ窮狀ニ狂奔シ之カ爲有力ナル顧客殊ニ官廳方面トノ取引開拓ニ腐心セル折柄昭和四年十月頃豫テ衆議院事務局ニ出入シ居リタル印刷ブローカー一色卓二ノ斡旋ニ依リ同會社カ衆議院事務局出入ヲ許サレ右一色ヲ其ノ代人トシテ出入セシメ居リタルカ翌昭和五年四月頃以降同被告人ニ於テ一色ニ代リ同事務局擔當ノ同會社外交員トシテ同事務局ニ出入スルコトトナリ其ノ頃民間印刷業者トシテ専ラ同事務局ノ印刷注文ヲ受ケ居リタル民友社印刷所ノ外交員亡三枝爲親ヲ介シテ被告人佐々木信藏ニ紹介セラレ其ノ頃同被告人ニ對シ常警印刷株式會社ニ對シテモ民友社ト同様同事務局ノ印刷物ノ請負ヲ更ニ繼續注文セラレタキ旨懇請スルトコロアリ其ノ快諾ヲ受ケ爾後引續キ競争入札又ハ隨意契約ノ方法ニヨリ同事務局ヨリ印刷物ノ注文請負ヲ爲シタルカ昭和五年五月中右三枝爲親ヨリ衆議院事務局ノ印刷物ヲ請負フニ付テハ被告人佐々木信藏ヨリ種々便宜ヲ與ヘラレ居ルヲ以テ其ノ謝禮トシテ同被告人ニ對シ印刷物請負金額ノ一部ニ相當スル金員ヲ贈與スヘキ旨懇請セラレ之ヲ承諾シ茲ニ被告人佐々木信藏ニ對シ右常警印刷株式會社カ右衆議院事務局ヨリ其ノ印刷物請負注文ヲ受ケタルニ付右佐々木信藏ヨリ前記職務上種々便宜ヲ與ヘラレタル爲メ謝禮ト爲ス趣旨ヲ以テ昭和五年五月二十二日頃以降衆議院事務局ヨリ印刷物請負代金ヲ交付セラルル都度其ノ一部ニ相當スル金額ヲ割キ昭和十二年八月十八日頃ニ至ル迄ノ間ニ前後約五十六回ニ互リ東京市赤坂區中ノ町五番地被告人佐々木信藏方ニ於テ同被告人ニ對シ直接或ハ其ノ家人ヲ介シ現金合計金三萬三千七百圓ヲ孰レモ同被告人ノ職務ニ關シ賂トシテ贈與交付シ

第二 被告人佐々木信藏ハ

(一) 前記ノ如ク衆議院事務局ヨリ指名競争入札又ハ隨意契約ノ方法ヲ以テ同事務局ノ印刷物請負注文ヲ受ケ居リタル常警印刷株式會社支配人谷本正カ被告人佐々木信藏ノ右事務局ニ於ケル前記職務上種々ナル便宜ヲ與ヘタルコトニ對スル謝禮トシテ同被告人ニ交付スル賂賂タルノ情ヲ知悉シナカラ前示ノ如ク谷本正ヨリ昭和五年五月二十二日頃ヨリ昭和十二年八月十八日頃ニ至ルマテノ間前後約五十六回ニ互リ前記自宅ニ於テ自己自ラ又ハ其ノ家人ヲ介シ現金合計金三萬三千七百圓ヲ受領シ

(二) 昭和五年十二月頃以降民友社印刷所ノ外交員トシテ専ラ衆議院事務局ニ出入シ同社ノ爲メ同事務局ヨリ印刷ノ請負注文ヲ受ケ居リタル原審相被告人山口備吉ニ於テ同印刷所カ同事務局ヨリ委員會會議録其ノ他ノ文書ノ印刷注文ヲ指名競争入札或ハ隨意契約ノ方法ニ依リ請負ヲ爲スニ付被告人佐々木信藏ヨリ其ノ職務上種々ナル便宜ヲ與ヘラレタル爲メ謝禮トシテ同被告人ニ對シ昭和六年二月十六日頃以降衆議院事務局ヨリ印刷物請負代金ヲ民友社印刷所ニ交付セラレタル都度其ノ金額ノ一部ニ相當スル金額ヲ贈與シタルニ際シ其ノ賂賂タルノ情ヲ知悉シナカラ昭和六年二月十六日頃ヨリ昭和十二年九月十三日頃ニ至ルマテノ間前後約六十六回ニ互リ前記自宅等ニ於テ自己自ラ又ハ其ノ家人ヲ介シ右備吉ヨリ現金合計金三萬九百九十五圓ヲ受領シ

以テ職務ニ關シ賂賂ヲ收受シタルモノニシテ被告人等ノ行爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス法律ニ照スニ被告人佐々木信藏ノ行爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處シ刑法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スヘク次ニ同被告人カ收受シタル賂賂合計金六萬三千二百六十五圓ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項後段ニ依リ該價額ヲ追徵シ當審ニ於テ生シタル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ同被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

共犯人ノ一人ト訴訟費用ノ單獨負擔

## ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

## ○理 由

辯護人津久井利行上告趣意書第一點ハ原判決ハ法令ヲ不法ニ適用シタル違反アルモノトス(一)原判決ハ當審ニ於テ生シタル訴訟費用ハ被告人佐々木信藏ノ負擔トスト判示セリト雖刑事訴訟法第二三七條第一項ハ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ同第二三八條ニハ共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ト明記セルニ拘ラス訴訟費用ヲ被告人佐々木信藏一人ノミノ負擔トセリ(二)抑刑事訴訟法第二三八條ハ刑事訴訟費用法第七條ヲ修正規定セルモノニシテ共犯ノ訴訟費用ハ之ヲ負擔セシメサレハ兎モ角負擔セシメタル場合ニハ共犯人ヲシテ連帶セシムルコト明瞭ニシテ單ニ一人ニ負擔セシメ一人ニ負擔セシメサルノ趣旨ニ非ラス刑法施行法第六七條ハ共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トスト明記シ其ノ改正規定タル刑事訴訟費用法第七條ハ共犯人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ連帶負擔トシ更ニ現行刑事訴訟法第二三八條ノ規定ヲ見タルモノトス(三)刑事訴訟法上ノ共犯ハ刑法上ノ共犯ト異ナリ必要の共犯モ亦之ヲ含ムモノトセサレハ其ノ意味ヲ爲ササルナリ而シテ判例ニ於テモ之ヲ認メタリ贈賄行爲ト收賄行爲トハ相互ニ不可分の關係ヲ有スルモノナレハ刑法施行法第六七條ニ所謂共犯ナリ(大審院判

決録第十七輯八八二頁)贈賄ノ授受アリタル場合ニハ贈賄者ト收賄者トハ相互ニ共犯タルノ關係ヲ有スルモノトス(同第十六輯一三八二頁)選舉違反事件ノ證人ニ對シ選舉情勢又ハ選舉運動方法ニ關スル事項或ハ金錢供與罪ニ於ケル供與金員ノ出所ニ關スル事項ニ付訊問サレタル場合ニ於テハ同證人訊問ニ因リテ生シタル訴訟費用ハ供與者タル被告人並被供與者タル被告人ヲシテ連帶負擔セシメ得ヘキモノトス(大審院判例集第十六卷八五四頁)衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第五號ノ金錢ノ交付ヲ爲シタル者ト其ノ受ケタル者トハ共犯トシテ之ニ對シ其ノ訴訟費用ヲ連帶負擔セシメ得ルモノトス(同判例集第十六卷一三〇九頁)(四)本件判決理由ヲ見ルニ被告人佐々木信藏ハ常盤印刷株式會社支配人谷本正カ被告人佐々木信藏ノ衆議院事務局ニ於ケル前記職務上種々ナル便宜ヲ與ヘタコトニ對スル謝禮トシテ同被告人ニ交付スル賄賂タルノ情ヲ知悉シナカラ前示ノ如ク谷本正ヨリ昭和五年五月二十二日頃ヨリ昭和十二年八月十八日頃ニ至ル迄ノ間前後約五十六回ニ亙リ自己自ラ又ハ其ノ家人ヲ介シ現金合計金三萬三千七十圓ヲ受領シト記載シ證人田口莊三ハ原院ニ出廷シ佐々木信藏カ常盤印刷株式會社ノ外交員谷本正並民友社印刷所ノ外交員山口備吉及齋藤計吉等ヨリ多額ノ金員ヲ受領シテ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタコトヲ氣付カサリシヤノ裁判長ノ問ニ對シテ自分トシテハ左様ノ事實ノ有ツタコトハ當時一向氣付マセント答ヘ然シ證人カ佐々木ト一緒ニ衆議院事務局ニ勤務シテ居ツタ當時同事務局ヲハ綱紀紊亂シテ居ツタノヲハナイカノ問ニ對シ左様ヲス夫レハ事實ヲ有リマスカ自分ト

共犯人ノ一人ト訴訟費用ノ單獨負擔

シテハ佐々木カ同事務局ニ勤務中出入ノ商人ヨリ賄賂ヲ取ツテ居ツタト云フ様ナ事實ノ在ツタコトハ全然氣付キマセンテシタト答ヘタリ(記録二六四一——二六四二)以上ノ如ク證人訊問ニ因リテ生シタル訴訟費用ハ收賄者タル被告人佐々木信藏贈賄者タル谷本正ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス右ノ理由ニ因リ共犯ノ訴訟費用ヲ被告人佐々木一人ノミニ負擔セシメタル不法アルヲ以テ破毀ヲ免レサル判決ナリト云フニ在リ

然レトモ公訴ノ訴訟費用カ共犯人タル被告人全員ニ關シ生シタルモノナルニ於テハ其ノ全員ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシメ得ルコト勿論ナルモ常ニ必ス共犯人全員ヲシテ訴訟費用ヲ連帶負擔セシムルコトヲ要スルモノト爲スヘキニ非ス其ノ費用ヲ共犯人全員ヲシテ負擔セシムヘキヤ否ヤハ一ニ裁判所カ諸般ノ事情ヲ審査シテ決スヘキ問題ニ屬スルコト刑事訴訟法第二百三十八條ノ規定ニ徴シ明白ナルトコロトス而シテ共犯人中ノ或被告人ノ爲特ニ要シタル訴訟費用ノ如キハ之ヲ共犯人全員ヲシテ負擔セシムルヨリモ其ノ費用ヲ生セシメタル被告人ノミヲシテ單獨ニ負擔セシムルヲ相當トスルカ故ニ共犯人全員ヲシテ其ノ費用ヲ連帶負擔セシメサレハトテ之ヲ以テ違法ナリト爲スヲ得ス所論ノ刑法施行法第六十七條刑事訴訟費用法第七條等ニ於テ規定スルトコロハ其ノ趣旨ニ於テ右刑事訴訟法第二百三十八條ト同一ニ歸著スルモノト云フヘク上級刑法施行法刑事訴訟費用法ノ規定ヲ援引シテ以テ訴訟費用ハ必ス共犯人ヲシテ同一ニ連帶負擔セシムルヲ要スルカ如ク論スルハ當ラズ記録ニ徴スルニ原審ハ贈

## 【要旨】

賄ノ被告人谷本正收賄ノ被告人佐々木信藏ノ兩名ニ係ル被告事件ヲ併合シテ審判シタルコト明白ナルカ故ニ同人等ハ刑事訴訟法第二百三十八條ニ所謂共犯人ニ該當スルモノト云フヘク從テ右兩名ニ關シ生シタル訴訟費用ハ共犯ノ訴訟費用トシテ同人等ニ之カ連帶負擔ヲ命スルニ何等ノ妨ケナシト雖原審ニ於ケル證人田口莊三ハ被告人佐々木信藏ノ原審辯護人タリシ津久井利行、石川時之助カ特ニ同被告人ノ利益ノ爲ニ其ノ喚問ヲ申請シ原審ノ許可シタルモノニ係リ而モ同證人ハ原審公判廷ニ於テ被告人佐々木信藏ノ人物性行執務關係出入商人ニ對スル態度同被告人ニ對スル世評其ノ他直接同被告人ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受ケタルコトモ亦記録ニ徴シ明白ニシテ該證人訊問ハ相被告人谷本正ニ對シ特殊ノ關係ヲ有スルモノト認ムルヲ得ス左レハ縱令被告人佐々木信藏、谷本正カ共犯人ニシテ右證人田口莊三ノ訊問ニ因リ訴訟費用ヲ生シタリトスルモ該費用ハ特ニ被告人佐々木信藏一人ノ爲ニ要シタルモノト認ムヘキモノナルヲ以テ右共犯人兩名ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムヘキモノニ非サルコト前級ノ理由ニ照ラシ明瞭ナリ從テ原審カ被告人佐々木信藏一人ニ對シ該訴訟費用ノ單獨負擔ヲ命シタルハ洵ニ正當ニシテ原判決ニ所論ノ如キ違法アルモノト云フヲ得ス加之訴訟費用ニ對スル不服ノ申立ハ附隨的裁判ニ對スル上訴タルノ性質ヲ有シ本案ノ裁判ニ對スル上告其ノ理由ナキトキハ右申立ハ之ヲ維持進行シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ不適法トシテ之ヲ排斥スヘキモノナルコトハ刑事訴訟法第二百四十二條ニ於テ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限リ訴訟費用ノ裁判ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得



ル旨規定シ訴訟費用ノ裁判ニ對シ獨立シテ上告ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲セル趣旨ニ徴シ明白ニシテ右ハ夙ニ本院判例ノ趣旨トスルコロナリ左レハ本案ニ對スル上告意モ其ノ理由ナキ本件ニ於テ訴訟費用ノ裁判ニ對スル非難ヲ以テ上告ノ理由トスル本論旨ハ排斥ヲ免レサルモノトス以上孰レノ方面ヨリ觀ルモ論旨ハ理由ナク之ヲ採用スルニ由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事徳永榮吉關與

○詐欺被告事件(昭和十四年(レ)第七五五號  
同年十月十六日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 辻田善兵衛 辯護人 四方田 保

【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

抵當權實行ノ妨害ト不法利得罪——不法利得罪ニ於ケル利益ノ判示方

○判決要旨

- 一 抵當權實行ノ爲競賣ノ申立ヲ受ケタル債務者力競落ノ意思ナキ
- 二 拘ハラス他人名義ヲ以テ競落シ其ノ代金ヲ納付セス再競賣ノ
- 止ムナキニ至ラシメ因テ抵當權ノ實行ヲ妨ケタルトキハ財産上

抵當權實行ノ妨害ト不法利得罪 不法利得罪ニ於ケル利益ノ判示方

不法ノ利益ヲ得タルモノトス【要旨第一】

二 不法利得罪ヲ斷スル判決ニ於テハ犯人カ不法ニ財産上利益ヲ得タルコトヲ知り得ヘキ程度ニ事實ヲ判示スルヲ以テ足り必スシモ其ノ利益ヲ算數的ニ明示スルノ要ナキモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第二百四十六條第二項 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ旨渡テ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入ス本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ昭和八年一月三十日保證責任吹田信用組合(當時有責任任吹田信用組合ト稱ス)ヨリ金七千圓ヲ年九分ノ割合ニ依ル利息ヲ加算シ同年十二月三十一日ヨリ昭和十二年十二月三十一日迄ノ間毎年金二千二百二十二圓五十二錢宛年賦償還スヘク右年賦金ノ支拂ヲ怠リタルトキハ殘額ニ付期限ノ利益ヲ失フヘキ約旨ニテ借受右債務ノ履行ヲ擔保スル爲被告人所有ニ係ル大阪府三島郡吹田町四千七百九十七番地ノ三宅地五十一坪七合五勺外宅地三筆同所四千七百九十七番地ノ五及六地上木造瓦葺平家建住宅一棟建坪二十八坪四合外附屬建物五棟ニ付抵當權ヲ設定シタルカ昭和十年八月六日迄ニ四回ニ合計金六百七十七圓四十九錢ヲ利息中ヘ支拂ヒタルノミニテ其ノ餘ノ支拂ヲ爲ササリシ爲メ前記組

合ヨリ昭和十一年五月四日大阪區裁判所ニ對シ前記不動産ニ付抵當權實行ニ依ル競賣ノ申立ヲ受ケ同廳昭和十一年(ケ)第二三三號不動産競賣事件トシテ繫屬スルヤ被告人ハ該事件ノ完結ヲ遲延セシメ其ノ間債務ノ履行ヲ免レンコトヲ企テ

第一 昭和十一年七月三日ノ右競賣事件ノ競賣期日ニ競賣場所タル大阪府三島郡吹田町役場ニ於テ競落代金ヲ納付シテ競落スル意思無キニ拘ハラス之アルモノノ如ク裝ヒ被告人ノ長女スマ子名義ヲ以テ競賣物件中吹田町四千七百九十七番地ノ五及六地上第一號一、木造瓦葺平家建住宅一棟建坪二十八坪四合外附屬建物五棟ニ付競賣價額千三百十九圓六十錢ノ申立ヲ爲シ係執達吏ヲシテ其ノ旨誤信セシメスマ子ヲ右建物ニ對スル最高價競賣人トシテ呼上ヲ爲サシメ延テ同月七日ノ競落期日ニ大阪區裁判所ヲシテスマ子ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ競落代金ヲ納付セス因テ同年八月六日同裁判所ヲシテ再競賣ヲ命スルノ止ムナキニ至ラシメ以テ右競賣手續ノ進行ヲ妨ケ其ノ間債務ノ履行ヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得

(中略)

タルモノニシテ被告人ノ右所爲ハ意思繼續ニ係ルモノトス  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入シ尙所犯情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ依リ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主 文

本刑上告ハ之ヲ棄却ス

抵當權實行ノ妨害ト不法利得罪 不法利得罪ニ於ケル利益ノ判示方

被告人上告趣意書一、第二審ノ公判調書ニハ御記載事實ト餘程相違ノ點カアリマス則チ初メニ裁判長殿ト自分トノ問答ハ實ニ左ノ通りテアリマス問何故控訴シタカ答事實ト餘程違ツテ居リマス答但シ檢事殿ノ聽取書ハ自分ノ申上タ事ヲ書記殿ニ命シテ聽取書ヲ御取リノ際ニ裁判所ヲ欺罔シテ延期策云々ト云ヒ居ラレシ故之カ御訂正ヲ求メント思ヒシカ書記殿ニ書カシ居ラレル最中ニ之ヲ求メルト檢事殿ノ御職務ヲ御妨ケスル故ト思ヒ後ニテ訂正ヲ求メント思ヒ居リシニ書キ終ハラレルヤ直チニ御印ト仰セラレルニ付ウツカリ御印セシモノニ有之候其ノ御訂正ヲ求ムル事ヲモ忘レテウツカリ御印セシモノニ有之候但シ空腹トナリ身體モ疲勞セシ故其ノ御訂正ヲ求ムル事ヲ忘レテウツカリ御印セシモノニ有之候依テ後日召喚願ヲ求メテ出頭セシ際ニ御訂正ヲ御願ヒセシニ御取リ上ケ無故ニ公判ヲ其ノ事實ヲ述ヘタノテアリマスカ御記載落ニナツテ居リマス裁判長殿事實ト餘程違ツテ居ルノタネ但シ檢事殿カ惡意ニ御取リニナルトソウナルヤナイカトノ問答ニ有之候然ルニ公判調書ニハ自分ノ答ハ處刑事實ハ其ノ通り相違アリマセンカソノ事ニ依リ財産上不法ノ利益ヲ得ヨウト云フ様ナ考ハナカツタノテスト答ヘタル旨ノ御記載アリ則チ事實ト相違シテ居リマス二、第二審ノ第一回ノ公判ニ判事殿カ公判ノ最終ニ有利ナ證據ヲモアラハトノ仰セラレシニヨリ自分ハ後ヲフリムキ四方田辯護人ヨリ證人呼出シ申請セシニ六人共全部却下セラレタルモノニ有之候然ルニ第二審調書ニハ無之トノ御記載アリ則チ

事實ト相違シテ居リマス三、辯護人四方田保氏ハ無罪論ヲ唱ヘ大山光三辯護人モ無罪論ヲ唱ヘシモ若シ不幸罪アリトセハ執行猶豫ノ恩典ニアツカリ度シト陳述ナシタリ然ルニ第二審公判調書ニハ單ニ執行猶豫ヲ求ムト御記載ニ有之則チ事實ト相違シテ居リマス、四、原審第二回ノ公判ニハ裁判長殿ハ有利ナ證據ハナイカトノ仰セニ無之トノ御記載アリシカ則チ事實ハ全ク御訊問ニナリマセン故相違シテ居マス五、第二審ノ公判調書ニハ左記ノ御訊問事項ハ御記載有之候モ全ク事實御訊問無カリシ事ヲ調書ニ記録サレアルモノニ候間攝津銀行ノ競賣事件モ本件ノ如ク競落シテ置キナカラ代金ヲ納メス本件同様ニ延期策ヲ構シテ居ツタノカ答左様ラス然シ私トシテハ不動産ヲ賣却シテ金ヲ拵ヘ度イト思ツテ居リマシタ右ノ事項ハ絕對ニ御訊問ニハナリマセンテシタ本件以外ノ事ヲ申上ケカケマスト裁判長殿カラ御差留ニナツタ位テス間未成年者ノ清子ニ競落サス事ハ青木ト相談ノ上テ初メカラ決ツテオツタノテハナイカ答左様テハアリマセン當時私ハ知ラナカツタノテスカスマ子カ青木ト相談ノ上清子名義ニ競落シタモノタト思ヒマス間被告ノ娘清子カ未成年者ナルコトヲ知リナカラ同人ノ委任狀ヲ作リスマ子ニ其ノ代理人トシテ第三回目ノ競賣ニ參加セシメテ競落シ之カ許可決定ヲ受クルヤ未成年者ナル事ヲ理由トシテ右決定ニ對シ異議又ハ抗告ノ申立ヲ爲シ右決定ニ對シ取消シテ手續ノ進行ヲ妨ケ前回同様一時債務ノ履行ヲ免レタモノテハナイカ答左様ナ結果ニナリマスカ私ハ左様ナ考ヘハナカツタノテス間結局右様ニ一時債務ノ履行ヲ免ル事ニ依リ財産上ノ利益ヲ得ル譯タネ答結果ハソウ云フ事ニナリ

抵當權實行ノ妨害ト不法利得罪 不法利得罪ニ於ケル利益ノ列示方

マス問左様ニ一時債務ノ履行ヲ免レテ行ツタ事ハ昭和十一年七月三日ノ第一回ノ競賣當日ヨリ被告ハヨク判ツテ居ツタノテハナイカ答ソウイフコトニ判ツテ居リマシタカ私トシテハ利息ヲ支拂フコトニナリマスカラ別ニ構ハスト言ツテ居リマシタ問裁判所ヲ利用シテ權利ヲ行使スル事ハ良イカ夫レニハ自ラ限度カアツテ正當ナル權利カ必要テハナイカ答左様テス記録ニヨリマスト異議ノ抗告ニ付精シク御訊問ニナツテ居リマスカ公判テハ何故代金ヲ納付セナンタトノ事カ主眼テアリマシタ然ルニ事實ト相違シテ居リマス、六本件ノ御判決ハ競落スル意思及賣力ナクシテ競落シ競賣手續ノ進行ヲ妨ケ其ノ間債務ノ履行ヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得トノ御理由ナリシモ競落ノ意思ハアリ過キル程アリシモノニ有之第一回第二回第三回ノ競落前ニ競落代金全部借リル約束又ハ賣買ノ約束ナリシモ全部相手方ノ違約ノ爲納付出来サリシモノニ有之候コノ事實ヲ立證スル爲メニ申請セシモノナリシニ證人六人全部ヲ却下セラレタルハ十分ノ審理ナサシテ御判決セラレタルハ不法アルモノト存シ候未成年テ競落セシ事及其レヲ理由トシテ抗告セシハ皆青木ノ所爲ナルニ依リ其ノ青木ヲ申請スヘキ處同人ハ行方不明ニ付コノ事實ヲ立證ノ爲初代氏ヲ申請セシニ却下セラレシモノニ有之候尙詳細ニ申シマスレハ當日組合カ全部競落セント申シ居リシニスマ子及自分カ兼ネテ前ヨリ親類ノ渡邊ヘ本件物件ハ頼ンテアリマスト嘆願シテ當方ヘ競落セシモノ故モシ不拂ニテ再競賣トナレハ其ノ時ニハ組合ニ競落セラレル事ハ明カナルニ依リ前述ノ如ク營業所及住宅テモアル大切ナ場所故未成年ヲ理由トシテ取消ノ意思ニテ

競落セシモノニアラス立證スル爲ニ申請セシモノナリスマ子ハ翌日親類ノ渡邊ヘ金策ヲ頼ミシ處渡邊ハ快諾セシモノニ有之候コノ事實ヲ立證ノ爲生田君江ヲ申請スヘキ處君江ノ子供カ病氣故寺西伊佐吉氏ヲ申請セシニ却下セラレシモノニ有之候當日ハ同場所テ八〇三號ノ競賣モアリ民事ニナツテ居リマス相手方ノ吉木氏ノ違約ノ爲コノ事件ニ掛ツテ居リシ爲渡邊ヘ依頼セシ解決カ遅レンノ内ニ年内トナリ一日早々病氣ニナリ六ヶ月程入院セシモノナリソレヨリ手違トナリ日誌ニ記スル如ク金策セシカ金策カ出来ス民事事件ノ和解ヲ求メテソノ上金ヲ解決セントセシニスマ子ハ反對ナシ相手方モ承諾スル如ク言ツテ最後ハ承諾ナサス種々苦勞セシカ金策ハ出来ス今度他ノ渡邊氏ニ代位辨濟ヲ依頼セシモノナリ相手方ニ違約サレシ故納金不能ニナリシ事實ハ相違無之候モ違約サレシ以後ノ金策ニ付テハ自分トスマ子トノ意見ノ相違モ競落代金納付不能ノ原因ノ一ツニ有之候詳言致シマスレハ第二回ノ競落前ニ植田助次郎氏カ買ヒニ來マシタカスマ子ハ本件ヲ植田氏ニ賣買セヨト申シマスカソノ當時八〇三號ノ田中三都男ニ競落依頼セシ物件ヲ第一回ノ競落(本件)ノ當時買ヒニ來タ買手ハ逃ケマシタカ他ノ買手カ來マシタノテソノ物件ノ競落代價一坪六圓四十錢ヲ當時ハ十圓ニ買ヒニ來マシタノテソレヲ賣買シテ(八〇三號)ソノ上金ヲ本件ノ第二回ノ競落代金ヲ納付シヨウト思ツテ居リシニソレニハスマ子カ反對シマシタスマ子ハ(八〇三號)ノ物件ハ將來暴騰スル見込ハ充分アル故本件ヲ先ニ賣ツテソノ上金ヲ八〇三號ノ競落代金ヲ納付セヨト申シマシタカ自分ハ八〇三號ノ物件ヲ先ニ賣ル意見テアリ

マシタスマ子カ本件ヲ植田氏ニ賣ルコトヲ餘リニ熱心ニススメマシタノテ親類ニモ相談シ賣ル決心ヲシマスト買手ノ植田氏ハ返事カ遅レタ故ニ他ヲ買ツタト言ツテ斷リニ來マシタ第二審ノ第一回ノ公判ノ際ニ植田氏カ買ヒニ來タナラ何故早ク賣買ノ交渉ヲシテ代金ヲ納付セナンタカトノ御訊問ニ答トシテ親類ニ相談シナケレハナリマセンシ家族トモヨク相談シテマシタノテ遅レマシタト單ニ申シマシタカ詳言致シマスト前述ノ如クニ有之候第二審ノ第一回ノ公判カ十二時ニ休憩トナリ午後ハ裁判長殿カスマ子ハ檢事殿ノ聽書ニハ父ハ植田氏ニ賣ルノハ元店員テアツタカラ頭ヲ下ケルノハイヤト言ツテ賣ラナカツタト言ツテ居ルカソレカ本當ノ成行テハナイカトノ御訊問ニハ單ニ先方カラ斷リニ來マシタト御答致シマシタ然ルニ調書ニハ午後ノ問答ハ左記ノ項ト二項カ記載落ニナツテ居リマス間第三回目ノ競落前ニ親類ノ渡邊ニ競落代金ヲ頼ミシモノナラ何故渡邊ニ競落方ヲ依頼セナンタ又代金ハ如何程ノ約束テアリシカ答代金ハ三千圓位頼ンテアリマシタ登記料カ扣ニナリマスカラ家族ノ名義ヲ競落致シマシタ但シコレハ渡邊ノ名義ニシマスト又家族ノ名義ニ致シマスニハ二重ノ登記料カ自分ヨリ支拂ハネハナリマセン故家族ノ名義ニ致シマシタ競落代金納付ノ義務ヲ履行センカ爲金策又ハ賣買ノ苦勞セシモ前述ノ如ク相手方ノ違約又ハ意見(親子)ノ相違テトノ話モ手違ニナリ意見カヨウヤク纏マルト買手ハ逃ケテシマフト云フ様ナ次第ヲ運ノ惡イ時ニハスル事ナス事カ皆手違トナリ誠ニ血ノ出ル様ナ苦勞ヲ致シマシタ惡イブローカーニ掛リ空利子マテシテ頼ンタ事モアリマシタカ結局ハ最後ニナ

ルト話ハ纏リマセンテシタソノ間ニ賣買ノ運動費ト言ツテブローカーニ相當多額ノ費用ヲ使ヒ結局ハタマサレマシタヤウナ次第ヲ有之候裁判所ヘ事情ヲ申上ケ御職權テ二回程約六ヶ月延期ナリシ事モ有之候モ前述ノ如ク皆手違トナリシモノナリ御職權ヲ延期ナリシモノ故抗告ハ不必要ナルニ青木カ勝手ニ抗告シテ居ツタヨウナ次第ヲ競賣期日カ延期ニナレハソレタケ利息ハ増加スルヲ以テ其ノ點自分ノ不利益トナルモ之等ヲ犠牲トシテ爲セシ事ヲ罪ヲ犯スノ意ハ少シモ有リマセンテシタ七、尙詳言シマスレハ金ヲ借りテ證書ヲ差入レナカラ其レヲ否認スルモ結局敗訴シタル場合借主ハ同法二百四十六條ニ該當セネハナラ事ト思ヒマス然ルニ之等ノ場合ニハ何人モ之ヲ詐欺トシテ告訴又ハ告發スル人モ無ク又刑ヲ受ケタル事ヲモ聞キマセス況ンヤ自分ノ行爲ハ借リシ金ヲ借ラスト言フカ如キ恐レ多キ事ヲ申スニアラス前述ノ如ク債務ヲ完全ニ履行致サント企テシコト故無論罪ニナラサルコトト存シテ爲シタルコトテアリマス故詐欺罪ニナラヌモノト信シマス若シ前記ノ如キ者一則チ金ヲ借リナカラ裁判所ニテ借ラスト言ヒシニ證人ノ證據ヲ敗訴セシ場合ハ皆詐欺犯罪者ト言ハネハナラヌ事ト存シマス世人ハ之ヲ詐欺ト見ス裁判所モ詐欺ト見ラレサルカ如キニヨルモ明瞭ノ事ト存シマス(ハ)若シ自分ノ行爲ハ假リニ詐欺罪ヲ構成スルト假定シテモ競落代價支拂ノ延期ニテ自分ハ如何程ノ利益ヲ得タルモノナルヤヲ御明瞭ニ判示セラレスシテ御判決セラレタルハ當ヲ得ナイ事ト存シマス尙前述ノ如ク不當ナ第二審ノ公判調書ヲ參考トナサレテ御判決セラレシハ當ヲ得ナイ事ト存シマス第一回ノ競落代價ハ

抵當權實行ノ妨害ト不法利得罪 不法利得罪ニ於ケル利益ノ判示方

一千二百餘圓第二回ノ競落代價ハ二千三百圓餘第三回ノ競落代價ハ二千六百圓餘前記ノ如ク競落價格ハ次次ニ値上リ自分ハソレタケ多ク組合ヘ支拂フ爲ニ組合トシテハ損害(延期ノ爲ニ)無之候モノト存シマス尙組合ハ昭和十二年十二月末日ニ第三者ノ岡村氏ヘ債權讓渡セシモノニ有之候但シ通知モ無之實際ノ取引ハ信シラレヌ點モ有之候モ組合トシテハ延期ノ爲ニ損害ハ無之モノト信シマス前記ノ如ク最後ノ競落代金ニ競賣費用一百六十圓ヲ加ヘテ合計四千四百三十五圓也ヲ渡邊氏ニ代位辨濟ヲ依頼セシモノナリ其ノ後組合ニ解決方ヲ歎願スルモ組合ハ岡村氏ヘ交渉ナシタレトノ話ヲ岡村氏ハ債權讓渡受ケレハ所有權モ移轉セル如ク思ヒ再々歎願スルモ代金ヨリモ物件全部引渡セヨトノ言ニ途方ニ暮レテ居リマス以上ノ次第テアリマスカラ何卒再度事實調ヘ成シ賜リ度ク嘆願仕リ候ト言フニ在レトモ刑法第二百四十六條第二項ノ不法利得罪ヲ斷スル判決ニ於テハ犯人カ不法ニ財産上現實ノ利益ヲ得タルコトヲ知り得ヘキ程度ニ事實ヲ判示スルヲ以テ足り必スシモ其ノ利益ヲ算數的ニ明示スルノ要ナキモノトス故ニ本件ノ如ク被告人カ不動産ニ付抵當權實行ニ依リ競賣ノ申立ヲ受ケタルニ際シ自己ニ競買ノ意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ競落代金ヲ納付セス裁判所ヲシテ再競賣ヲ命スルノ止ムナキニ至ラシメ以テ競賣手續ノ進行ヲ妨ケタルトキハ其ノ間債務ノ履行ヲ免レ現實財産上不法ノ利益ヲ得タルモノト謂フヘク其ノ利益ヲ算數的ニ判示セザルモ右第二項ノ不法利得罪ヲ斷スルニ妨ケナキモノトス次ニ原審公判調書ヲ閱スルニ辯護人ヨリ刑ノ執

【要旨第一】

【要旨第二】

行猶豫ヲ求ムル旨ノ辯論ヲ爲シタル以前無罪ノ判決ヲ求ムル旨ノ辯論ヲ爲シタル旨ノ記載アリ又裁判長カ有利ナル證據ノ申出ヲ捉シタルニ對シ被告人ハ無之旨ノ答ヲ爲シタル記載アリテ所論ノ如ク違法アルモノト認メ難シ若シ夫レ原審カ證人ノ申請ヲ却下シタルヲ言爲スル所論ニ至リテハ原審ノ專權タル證據調ノ限度ヲ批難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス其ノ他ノ所論モ其ノ理由ナキコト辯護人四方田保上告趣意書ニ對スル説明ニ依リ了解スヘシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與次郎關與

○恐喝未遂逮捕監禁被告事件(昭和十四年(れ)第八一五號 棄却)

【上告人】 被告人 林 昌 業 辯護人 松岡 茂 一

【第一審】 在北京日本帝國總領事館 【第二審】 長崎地方裁判所

情ヲ知ラザル警察署員ヲシテ爲サシムル留置ト不法監禁

○ 判示事項

情ヲ知ラサル警察署員ヲシテ爲サシムル留置ト不法監禁

○ 判決要旨

滿洲國警察尉カ名ヲ職務ノ執行ニ藉リ北京ノ警察署員ニ對シ他人ノ留置方ヲ委囑シ因テ情ヲ知ラサル署員ヲシテ其ノ留置場ニ拘禁セシムルハ不法監禁ナリトス

【參照】 刑法第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ滿洲國熱河省赤峰警察署ニ警尉トシテ勤務中同地方ヨリ北京方面ニ向ケ阿片ノ密輸出ヲ爲シタル者アリトノ風評ヲ聞クヤ職務執行ニ名ヲ藉リ夫レ等密輸出關係者ヨリ金員ヲ取得センコトヲ思ヒ妻ノ病氣看護ト稱シ休暇ヲ得テ北京ニ赴キ調査ノ結果豫テ阿片密輸出ノ容疑者ト目シ居リタル滿人張桂亭カ同所前門外驢馬市大街明記土藥店方ニ同居中ナルコトヲ探知シ得タルヨリ茲ニ

第一職務執行ヲ裝フ爲メ故ラニ滿洲國警尉ノ制服制帽ヲ着用シ北京外二區警察署員數名ヲ帶同シテ昭和十四年二月十四日前示明記土藥店ニ到リ阿片ノ密輸出ノ取調ニ假託シ捕繩ニテ張桂亭ヲ縛シ前示警察署ニ連行シタル上爾後同年三月三日頃迄十數日間同署留置場ニ拘禁シ以テ同人ヲ不法ニ逮捕監禁シ

(中略)  
タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ不法逮捕監禁ノ所爲ハ刑法第二百二十條第一項ニ第二ノ恐喝未遂ノ所爲ハ同法第二百五十條第二百四十九條第一項ニ該當スルコト以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ恐喝未遂罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期間範圍内ニ於テ懲役一年六月ニ處スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人松岡茂一上告趣意書原審判決ハ被告人ノ行爲中不法監禁ノ事實ニ關シ審理不盡理由不備ノ違法アリ即チ刑法第二百二十條ハ「不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ」ト規定シ逮捕ト監禁トハ各別ノ行爲ナル事ヲ明示シ居ルヲ以テ被告人ノ行爲中逮捕ト監禁トハ各別ニ事實ヲ審究シ證據ヲ明ニセサル可カラサル事ハ論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ原判決ハ其ノ理由一ニ於テ「前略」前示明記土藥店ニ到リ阿片ノ密輸出ノ取調ニ假託シ捕繩ニテ張桂亭ヲ縛シ前示警察署ニ連行シタル上爾後同年三月二日頃迄十數日間同署留置場ニ拘禁シ以テ同人ヲ不法ニ逮捕監禁シ」ト認定シ其ノ證據說明ノ部ニ於テ「被告人

情ヲ知ラサル警察署員ヲシテ爲サシムル留置ト不法監禁

ノ當公廷ニ於ケル—中略—ソコテ逃ケタライカント思ツテ捕縛テ兩手ヲ兩側ニ下ケサセタ儘身體ヲダ  
 ルグル卷ニ縛リマシタソシテ同人ヲ外二區警察署ニ連レテ行キ署員ニ暫ク留置場ニ入レテ置イテ吳レ  
 ト頼ミ同年三月二日迄拘禁シタル旨ノ供述—ニ依リテ事實ヲ認定シタリト判示シタリコレ上告人カ審  
 理不盡理由不備ノ違法アリト攻撃スル所以ナリ何トナレハ監禁ハ一定ノ區劃ヲ定メテ人ノ自由ヲ拘束  
 スル所爲ナルヲ以テ其ノ拘束スル場所的區劃ハ直接タルト間接タルトニ拘ラス加害者ノ實力支配範圍  
 内ニ在ルヲ要スルヤ論ヲ俟タス監禁ニシテ毫モ加害者ノ實力及ハス他人ノ自由意思ニ委ネアル場合ニ  
 於テハ當該被告人ニ對シ監禁罪ノ成立ヲ認メ得サル可シ然ルニ本件上告人ハ被害者張桂亭ニ施縛シテ  
 外二區警察署ニ連行シ身柄ノ拘束ヲ依託シタリト言フ果シテ然ラハ監禁者ハ上告人ニアラスシテ外二  
 區警察署ノ司法警察官ナリト言ハサルヲ得ス蓋シ上告人ハ外二區警察署内ノ拘留場ニ對シ實力支配ノ  
 權限ヲ有セサルヲ以テナリ從テ此ノ場合ニ於テ外二區警察署司法警察官カ阿片密輸出容疑者タル張桂  
 亭ノ身柄ヲ抑留スルニハ(一)滿洲國ト中華民國トノ間ニ於ケル國際條約關係ニ於テ犯人ノ逮捕引渡  
 ニ關スル共助手續ニ依ルカ(二)又ハ外二區警察署カ法律ノ根據ニ基キ阿片密輸入容疑者トシテ一  
 定ノ手續ニ依リ形式ヲ備ヘテ拘留スルカノ二點ヲ想像シ得ラル可ク單ニ自ラ滿洲國警尉ナリト稱スル  
 上告人ノ依託ニ依リ人ヲ監禁スル事之有ル可キモノニアラス況ンヤ原判決ノ判示スルカ如ク被告人ハ  
 何等ノ職權ナク又職權ナキ事ヲ認識シテ爲シタルモノトセハソハ單ナル一私人ノ行爲ニシテ一私人カ

濫リニ逮捕シタル人ヲ依託アリタルノ故ヲ以テ警察官署ニ監禁ス可キモノニアラサルヤ論ナシ何レニ  
 シテモ被告人ハ自ラ直接監禁行爲ヲナシタルニアラスシテ外二區警察署ノ支配ノ許ニ監禁セラレタル  
 モノナル事ハ疑ヲ入ルル餘地ナシ故ニ原審判決ハ(一)被告人ハ職權ナキニ拘ラス之有ルカ如ク裝ヒ  
 故意ナキ外二區警察署司法警察官ヲ欺罔シテ國際共助關係ノ手續ニ依リ間接ニ監禁行爲ヲナシタルモ  
 ノナリヤ否(二)外二區警察署司法警察官ヘ如何ナル法規ノ根據ニヨリ如何ナル形式手續ヲ以テ張桂  
 亭ヲ十數日間ニ互リ監禁シタルヤ等ノ事實ヲ審究闡明シテ其ノ結果ヲ判決理由中ニ掲ケ之レカ認定ノ  
 思料タル證據ヲ明示セサル可カラサルニ原判決ハ何等此ノ事ニ觸レス單ニ被告人ノ法廷ニ於テ供述シ  
 タル「留置場ニ入レ置イテクレト頼ミタリ」トノ供述ヲ證據トシテ被告人ニ不法監禁ノ罪責ヲ負ハシ  
 メタルハ審理不盡理由不備ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在リ

## 【要旨】

然レトモ不法監禁罪ノ成立スルニハ犯人カ不法ニ他人ノ行動ノ自由ヲ束縛シ之ヲシテ事實上一定ノ場  
 所外ニ脱出スルコトヲ得サラシムル狀態ニ置クヲ以テ足り犯人自ラ監禁ノ行爲ヲナササルモ情ヲ知ラ  
 ナル第三者ヲ利用シ其ノ者ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得ヘク此ノ場合犯人ニ於テ其ノ罪責ヲ負フヘキハ  
 當然ナリトス本件ニ付之ヲ觀ルニ被告人ハ滿洲國熱河省赤峰警察署ニ警尉トシテ勤務中職務執行ヲ裝  
 ヒ北京外二區警察署員ヲ欺キ阿片ノ密輸出ノ取調ニ假託シ同署員ニ對シ張桂亭ヲ同署留置場ニ留置方  
 ノ依頼ヲナシ因テ情ヲ知ラサル同署員ヲシテ右張桂亭ヲ判示期間同署留置場ニ拘禁セシメタルモノナ

情ヲ知ラサル警察署員ヲシテ爲シタル留置ト不法監禁



ルコト原判決摘示事實竝ニ其ノ證據説明ニ徴シ明瞭ナルヲ以テ被告人ノ右所爲ハ前敘説明スル所ニヨリ不法監禁罪ニ該當スルコト勿論ナリ而テ既ニ被告人カ不法ニ張桂亭ヲ事實上監禁シタルコト原判示ニヨリ明白ナル以上特ニ前示警察署ノ同人拘禁ノ法規上ノ根據ヲ判示スルノ要アルコトナシ結局原判決ニハ理由不備又ハ審理不盡等所論ノ如キ違法存スルコトナク論旨理由ナシ右ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○恐喝被告事件(昭和十四年(れ)第七六〇號  
同年十月二十七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 倉田金三郎 辯護人 (石川忠義男)

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

恐喝罪ト對價ノ支拂

○判決要旨

恐喝罪ニ在リテハ財物ノ交付ヲ受ケ又ハ財産上ノ利益ヲ得タル者カ幾分ノ對價ヲ支拂ヒタルトキト雖其ノ獲得シタル財物又ハ財産上ノ利益ノ全部ニ付犯罪ノ成立アルモノトス

【參照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役  
恐喝罪ト對價ノ支拂

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人倉田金三郎ヲ懲役一年ニ處ス(其ノ他ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人神阪一ハ昭和七年七月、八月頃原審相被告人松井武雄、關澤良助、宗謙一郎等ト共ニ皇室中心主義ヲ標榜スル所謂右翼團體大議會ノ結成準備中偶々右關澤ニ於テ三井辨藏、公府徳川團順等ヲ役員トスル輕井澤ゴルフ俱樂部カ朝香宮殿下ヲ名譽總裁ニ奉戴シテカラ之レカ勅許ヲ經ス剩ヘ土地分讓等ノ營利事業ヲ營ミ同分讓地ノ中央ヲ貫通スル一私道ヲ「朝香通」ト命名シテ之ヲ足下ニ墾闢シ居ルノミナラス同俱樂部ニ於テ附近農民ヨリ其ノ所有地ヲ買上ケナカラ代金ノ支拂ヲ延滞シテ農民ノ憤激ヲ買ヒ地方農民ニ對シ思想的惡影響ヲ與ヘタル等ノ事實アル旨ノ風聞ヲ聽キ込ミ居タルヲ奇貨トシ該問題ヲ捉ヘテ大議會最初ノ行動ト爲シ其ノ名ニ於テ之レカ糾彈運動ヲ爲ストキハ同會ノ名聲ヲ揚ケ得ルト共ニ之ニ依リテ更ニ被告人等ノ名利ヲ蠲滅得ルモノト思惟シ茲ニ被告人等四名相謀リ同年九月上旬取急キ大議會ノ事務所ヲ東京市京橋區銀座西二丁目五番地レストラン福本軒事大橋銀次郎方ニ設置シ糾彈方法ニ付謀議シタル結果關澤松井ヲシテ主トシテ直接糾彈ノ衝ニ當ラシメ被告人神阪之レニ續キ宗ハ專ラ裏面ニ在リテ畫策指導スルコトニ決シ同年十月上旬頃ヨリ同年十一月下旬頃迄ノ間數回ニ互リ東京市麻布區本村町百六十九番地三井辨藏方同市澁谷區猿樂町三十四番地徳川團順方及三井一家ノ總本家ナルノ故ヲ以テ同市麻布區今井町四十二番地三井八郎右衛門方ニ到リ同人等ニ面會ヲ強要シタルモ容レラレサリシ爲右辨藏ノ執事加藤源三郎右團順

ノ家令福原修右八郎右衛門ノ家扶櫻井新太郎等ニ面接シテ夫々前記輕井澤ゴルフ俱樂部ニ關スル問題ヲ指摘シ其ノ責任ノ重大ナルコトヲ強調シタル上大議會ハ右問題ヲ徹底的ニ糾彈スヘク殊ニ三井一家一門ハ擧ツテ爵位ヲ返上シ且國外ニ退身隠棲スヘシト強要シ且右加藤源三郎、福原修ニ對シ前記要求ノ趣旨ヲ記載シタル決議文ヲ手交シ或ハ三井辨藏、徳川團順等ヲ不敬罪トシテ告發シテ輿論ヲ喚起シ社會問題ト爲スヘキコトアルヘキ旨ヲ申向ケ告發書ヲ示シテ問責シタルカ其ノ間三井辨藏等カ被告人等ノ糾彈ニ畏怖困惑シ相當金員ヲ提供シテ圓滿解決ヲ希望シ居ル由ヲ仄聞スルヤ茲ニ被告人等四名ハ前記不敬問題ノ糾彈ニ名ヲ藉リテ三井辨藏ヨリ金員ヲ囑取センコトヲ企テ引續キ前同様ノ糾彈ヲ繼續シタルモ偶々同年十二月上旬頃ニ至リ被告人神阪ト豫テ親交アル被告人倉田金三郎ノ申出ニ依リ對價ヲ得テ該問題ノ圓滿解決方ヲ同人ニ一任シタル爲竟ニ右辨藏ヨリ金員ノ交付ヲ受タルニ至ラズシテ恐喝ノ目的ヲ達ケス

第二 被告人倉田金三郎ハ昭和七年十一月二十六日頃被告人神阪一ヨリ右第一掲記ノ如ク同被告人及原審相被告人關澤良助、松井武雄、宗謙一郎等カ輕井澤ゴルフ俱樂部ニ不敬ノ事實アリト做シ所謂右翼團體大議會ノ名ニ於テ同俱樂部ノ役員タル三井辨藏、徳川團順等ヲ問責中ナル由ヲ聞知スルヤ直チニ同俱樂部役員鳩山秀夫ニ就テ其ノ事情ヲ聽取シ更ニ三井辨藏、徳川團順等トモ面接ノ上同人等ノ爲メ好意ヲ以テ右問題ノ解決ニ盡力シ度キ旨申出テ之レカ解決方ヲ引受ケ他方被告人神阪及關澤宗等ト屢々交渉ヲ遂ケタル結果同年十二月十一日被告人倉田ニ於テ大議會ニ對スル寄附金名義ヲ以テ被告人神阪等四名ニ對シ金一萬圓ヲ提供スルコトニ依リ同人等ヲシテ右問題ヨリ手ヲ引カコトヲ約セシメ其ノ覺書ヲモ徵スルヲ得タルヲ以テ三井辨藏、徳川團順等ニ對シ直チニ其ノ旨ヲ報告シ之ニ對スル同人等ノ態度ニ期待スルコトコト多ナリシニ拘ハラス其ノ後三井辨藏等カ右解決ニ對スル囑禮トシテ僅カニ金五千圓ノ小切手一通或ハ三井八郎右衛門ノ署名ナキ感謝狀等ノ提供ヲ申出タルニ過キサリシヲ以テ不滿ノ念ニ堪ヘス

恐喝罪ト對價ノ支拂

茲ニ被告人倉田ハ自己カ被告人神坂等ヨリ前記糺彈行為ノ圓滿解決方ヲ一任セラレ居ルヲ奇貨トシ之ヲ利用シテ三井辨藏、徳川團順等ニ對シ多額ノ金品共ノ他ノ利益ヲ強要セムコトヲ企テ昭和八年一月頃ヨリ同年二月中旬頃迄ノ間被告人ノ肩書居宅共ノ他ニ於テ屢々三井辨藏及其ノ執事加藤源三郎ニ面接シ謝禮名義ノ下ニ徳川團順、三井八郎右衛門、三井辨藏ノ直筆署名アル感謝狀ヲ求メ或ハ右辨藏ノ關係スル三井物産株式會社ニ對スル被告人倉田ノ經營ニ係ル合資會社倉田商店ノ信用限度ヲ金十萬圓増加スヘキコト等ヲ要求シタルモ孰レモ之ヲ拒絕セラレタルヨリ更ニ三井辨藏ニ對シ被告人倉田ニ實權アル昭和殖産株式會社所有名義ノ東京市世田谷區經堂所在ノ五千八十一坪ノ土地カ當時價格約金五萬圓ニ過キササルニ拘ハラス之ヲ代金十五萬圓ニテ買取ラレ度キ旨要求シ若シ同人等カ右要求ニ應セサルニ於テハ同被告人ニ於テ一應取纏メタル大義會員等ト手ヲ切り同人等カ再ヒ糺彈行為ニ出ツルコトヲ放任スヘク被告人自身モ亦該糺彈問題ノ内容ヲ公表スルニ至ルヘキ旨申向ケテ右辨藏ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ同年二月二十日頃前記土地ヲ代金十二萬五千圓ニテ買取ルコトヲ約セシメ同年三月二日頃同市町區丸ノ内三井信託株式會社内ニ於テ同人ノ代理人加藤源三郎ヨリ前記土地賣買代名義ノ下ニ右金員ノ交付ヲ受ケ以テ恐喝ノ目的ヲ達ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人倉田金三郎ノ判示所爲ハ刑法第二百四十九條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鈴木義男、石川忠義上告趣意書第一點原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ被告人倉田金三郎ニ對スル犯罪事實トシテ原判決ノ認定スルコロハ同被告人カ三井辨藏等ノ依頼ニ依リ私財約一萬圓ヲ投シテ判示大義會員神坂了一等ヲ取纏メ所謂輕井澤ゴルフ俱樂部問題ヨリ手ヲ引カシメタル後ニ於テ三井辨藏等カ「右解決ニ對スル謝禮トシテ僅カニ金千五圓ノ小切手一通或ハ三井八郎右衛門ノ署名ナキ感謝狀等ノ提供ヲ申出タルニ過キサリシテ以テ不滿ノ念ニ堪ヘス」三井辨藏等ニ對シ多額ノ金品共ノ他ノ利益ヲ強要セムコトヲ企テ「三井辨藏ニ對シ被告人倉田ニ實權アル昭和殖産株式會社所有名義ノ東京市世田谷區經堂所在ノ五千八十一坪ノ土地カ當時價格約五萬圓ニ過キサリシニ拘ラス之ヲ代金十五萬圓ニテ買取ラレ度キ旨要求シ若シ同人カ右要求ニ應セサルニ於テハ同被告人ニ於テ一應取纏メタル大義會員等ト手ヲ切り同人等カ再ヒ糺彈行為ニ出ツルコトヲ放任スヘク被告人自身モ亦該糺彈問題ノ内容ヲ公表スルニ至ルヘキ旨申向ケテ右辨藏ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ同年二月二十日頃前記土地ヲ代金十二萬五千圓ニテ買取ルコトヲ約セシメ次テ同年三月二日頃同市町區丸ノ内三井信託株式會社内ニ於テ同人ノ代理人加藤源三郎ヨリ前記土地賣買代名義ノ下ニ右金員ノ交付ヲ受ケ以テ恐喝ノ目的ヲ達ケタルモノナリ」ト謂フニ在リ然レトモ判示認定ニ依リ明カナル如ク被告人ハ昭和七年十二月中ニ於テ神坂、關澤及宗等ト屢交渉ヲ遂ケ同人等ヲシテ手ヲ引クコトヲ約セシメ覺書ヲモ徴シ此ノ旨ヲ判示三井、徳川等ニ報告シタルモノニシテ假ニ判

恐喝罪ト對價ノ支拂

示ノ如ク被告人カ手ヲ引クト稱シタリトスルモ三井等ニ於テシカク畏怖スル謂ハレナク又被告人カ「自己ノ要求ノ正當ナリヤ否ヤヲ法廷ニ於テ争フ意味ノ」言辭（原判決引用ノ被告人倉田金三郎豫審第一回訊問調書）ヲ用ヒタリトスルモ开ハ被告人倉田カ正當ナル報酬トシテ幾何ヲ相當トスルヤヲ法廷ニ於テ争フ意味ニシテ固ヨリ權利行使ノ範圍ヲ出テス（此ノ點ニ於テハ後段論旨ニ於テ詳述ス）次ニ原判決ハ判示經營所在ノ五千八十一坪ノ土地ヲ當時ノ價格五萬圓ニ過キサリシ旨判示セリト雖土地ノ如ク頻繁ニ賣買讓渡セラレヌ恆久性アル財物ニ付テハ其ノ特定ノ賣買ニ於ケル價格カ相當ナリヤ否ヤヲ算定スルコトハ著シク困難ナルコト顯著ノ事實ナリ鑑定人福原雄二作成ノ鑑定書理由ニ依レハ其ノ當時附近土地ノ賣買實例ニ乏シク登記所稅務署ノ調査若クハ借地料小作料等ヲ標準トシテ算定シタルモノナリト謂フト雖昭和八年當時ハ經濟界ノ變動激シク所謂平價切下等ノ問題モアリ又都市ノ膨脹急速ニシテ東京近郊ノ土地價格ハ將來非常ナル騰貴ヲ豫想サレ之カ賣買ニ際リテモ必スシモ其ノ當時ノ收益ノミニ依ルコトナク所謂將來ノ値上リヲ見越シタル投資物トシテ價格ヲ定メラレタルモノトス從テ被告人カ原院公判廷ニ於テ價格十三、四萬圓ナリト思料シ居タリト供述シ又證人林彦三郎カ原院公判廷ニ於テ「昭和五、六年頃ニ於テ大體一坪二十圓ヨリ三十圓位」ノ由聞知スル旨供述セルハ斯ル意味ニ於ケル價格ニテ賣買當事者間ニ於テ取引上折衝スル場合ニハ寧ろ是等ノ價格カ正當ナリト思料ス況ンヤ現在ニ於テハ地價昂騰シ相手方ニ於テ利得ヲ爲シ居ル次第ナリ果シテ然ラハ原判決ニハ是等

重大ナル事實ニ付認定ヲ誤リタルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルヲ以テ破毀スヘキモノト信スト云ヒ」第二點原判決ハ其ノ事實理由第二ニ於テ「被告人倉田金三郎ハ……三井辨藏ニ對シ被告人倉田ニ實權アル昭和殖産株式會社所有名義ノ東京市世田谷區經營所在ノ五千八十一坪ノ土地カ當時價格約金五萬圓ニ過キサリシニ拘ラス之ヲ代金十五萬圓ニテ買取ラレタキ旨要求シ同人カ右要求ニ應セサルニ於テハ……右辨藏ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ同年二月二十日頃前記土地ヲ代金十二萬五千圓ニテ買取ルコトヲ約セシメ次テ同年三月二日頃同市町區丸ノ内三井信託株式會社內ニ於テ同人ノ代理人加藤源三郎ヨリ前記土地賣買代金名義ノ下ニ右金員ノ交付ヲ受ケ以テ恐喝ノ目的ヲ達ケタルモノナリ」ト判示シ右金十二萬五千圓全部ヲ恐喝シタルモノナル旨認定シタリ然レトモ假ニ判示土地ノ昭和八年二月當時ノ價格カ金五萬圓ニ過キササルモノトシ且判示ノ如キ恐喝行為アリトスルモ本件賣買ハ民法上當然無効ト稱スル程度ニ達セサルコト明ナリ從テ右金員全部カ代金名義ニ因ル喝取金員ナリト認定スヘキニ非ス又本件ノ如ク人ヲ恐喝シテ土地ヲ高價ニ買取ラシメタリト謂フカ如キ場合ニ於テハ詐欺罪ニ於ケル人ヲ欺罔シテ賣買目的物ノ價格等ニ付判斷ヲ誤ラシメタル場合ト異リ相手方ハ少クモ當該目的物タル土地ノ價格ヲ主觀的ニ判斷シ此ノ價值アル土地ヲ買受タルコトヲ承諾シタルモノナリ故ニ少クモ被告人カ交付ヲ受ケタル金員中ヨリ土地ノ相當價格ヲ差引キタル金員ヲ以テ恐喝金額ト爲ササルヘカラス然ラハ原判決ハ此ノ點ニ於テ理由齟齬ノ違法アリテ破毀スヘキモノト信スト云ヒ」第

三點原判決ハ判示第二ニ於テ被告人倉田金三郎カ昭和七年十一月中判示三井辨藏、徳川園順等ヨリ所謂輕井澤ゴルフ俱樂部問題ノ解決方ヲ依頼セラレ判示神阪、關澤及宗等ト折衝ノ結果同年十二月中被告人倉田ニ於テ金一萬圓ヲ右神阪等四名ニ提供シテ判示大義會ヲシテ手ヲ引カシメタルモ三井等カ被告人倉田ノ期待ニ反シ僅カニ金五千圓ノ小切手一通或ハ三井八郎右衛門ノ署名ナキ感謝狀等ノ提供ヲ申出テタルニ過キサリシヲ以テ判示ノ如キ手段ヲ以テ昭和八年二月二十日頃判示土地ヲ代金十二萬五千圓ヲ以テ三井辨藏ニ買取ラシメ同年三月二日頃右金員ヲ受取リタル事實ヲ認定シテ同被告人ヲ恐喝罪ニ問擬シタリ然レトモ判示ニ依リ明ナル如ク被告人倉田カ判示神阪等ト折衝ヲ爲スニ至リタルハ徳川園順、三井辨藏等輕井澤ゴルフ俱樂部關係者ノ委託ニ基クモノニシテ且當事者間ニ於テハ相當報酬ヲ支拂フヘキコトニ付暗黙ノ合意成立シ居タルモノナリ即チ證人鳩山秀夫ノ第二回豫審訊問調書(記錄第八回二九一〇丁以下)中間人ノ供述トシテ「四、解決ノ曉ニ於ケル倉田ニ對スル謝禮等ハ考ヘテ居ラナカッタカ答車代位ノ事ハセスハナルマイト考ヘテハ居ツタカ勿論倉田カラ謝禮云々ノ話カアツタ譯テハナク其處ハオ互ノ氣持ニ收メテ話ニハ上リマセンテシタ云々」トノ記載アルニ徴スルモ又相手方徳川園順、三井辨藏、鳩山秀夫等ノ社會的地位身分財力等ニ鑑ミ相當報酬支拂ニ付暗黙ノ合意成立シ居タルコトハ明ナリ而モ被告人倉田ハ右委託事務處理ニ付約一萬圓ノ支出ヲ爲シタルコトハ記錄上明カナルトコロナレハ右委託ニ基ク大義會員等ノ取償メニ成功シタル以上被告人倉田ハ相手方

ニ對シ相當報酬ヲ請求シ得ヘキ權利アルモノト謂ハサルヘカラス而シテ判示土地ノ價格カ假ニ原判決認定ノ如ク金五萬圓ニ過キサリシモノトスルモ被告人倉田カ受取リタル代金十二萬五千圓トノ差額金七萬五千圓ヨリ更ニ立替支出シタル前記一萬圓ヲ差引クトキハ六萬五千圓ト爲リ此ノ金額ハ被告人倉田カ前示委託事務處理ノ費用報酬ト爲ルヘキモノトス同被告人ハ此ノ請求權行使ノ手段トシテ判示ノ如キ所爲ニ出テタルモノニシテ此ノ請求權カ其ノ基礎ニ於テ又其ノ數額ニ於テ相當ナル限り被告人倉田ニ就テハ恐喝罪ハ成立セサルモノト謂ハサルヘカラス抑判示大義會ノ如キ團體ニ對シテ之ヲ取償メ不當ナル要求ナルニモセヨ表面化ナサシメスシテ解決スル如キハ相當ノ手腕ヲ要スルコロニシテ被告人倉田カ原院公判廷及豫審廷ニ於テ供述スル如ク其ノ當否ハ論外トスルモ判示大義會主張ノ如キモノカ公ノ問題ト爲ルコトハ累ヲ皇室ニ及ホス虞アリ判示所謂右翼團體大義會員カ如何ナル態度ニ出ツルヤ計リ難キ事態ニ在リシ當時ニ於テ假ニ被告人倉田カ内心相當報酬トシテ精神的物質的ノ期待ヲ持テテ解決ヲ引受けタリトスルモシカク非難セラルヘキモノニ非ス又其ノ車代若クハ報酬ノ額ニ於テモ前彼ノ經緯ニ鑑ミ其ノ仲介者カ辯護士鳩山秀夫ニシテ相手方カ我國著名ノ資産家タル三井家ノ一族三井辨藏ナル事實及被告人倉田カ私財一萬圓ヲ投シテ解決シタル事實等ヲ考慮スルトキハ前掲金額ハ必スシモ不當ニ多額ナリトハ謂フコト能ハサルトコロトス然ラハ被告人倉田ノ判示所爲ハ權利ノ行使ニ外ナラサルヲ以テ其ノ手段タル所爲カ別罪ヲ構成スルハ格別恐喝罪ヲ以テ問擬スヘキニ非サルヲ以テ

此ノ點ニ於テ原判決ハ違法ニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レドモ  
 原判決舉示ノ各證據ヲ綜合スレバ被告人ガ三井辨藏等ノ委囑ニ依リ私財約一萬圓ヲ投ジテ判示大義會  
 員神阪了一等ヲ取締メ所謂輕井澤ゴルフ俱樂部問題ヨリ手ヲ引カシメタル後ニ於テ、三井辨藏等ヨリ  
 ノ謝禮少カリシヲ奇貨トシ、被告人ニ實權アル昭和殖産株式會社所有名義ノ東京市世田谷區經堂所在  
 ノ五千八十一坪ノ土地ガ當時價格約五萬圓ニ過ギザリシニ拘ラズ三井辨藏ニ對シテ之ヲ代金十五萬圓ニ  
 テ買取ラレ度キ旨要求シ、若シ同人ガ右要求ニ應ゼザルニ於テハ、被告人ニ於テ一應取締メタル大義  
 會員等トノ手ヲ切り、同人等ガ再ビ糾彈行爲ニ出ヅルコトヲ放任スベク、被告人自身モ亦該糾彈問題  
 ノ内容ヲ公表スルニ至ルベキ旨申向ケテ右辨藏ヲ畏怖セシメ、因テ土地代金名義ノ下ニ金十二萬五千  
 圓ヲ交付セシメテ恐喝ノ目的ヲ遂ゲタルノ事實ヲ優ニ認定スルニ足り記録ニ徵スルモ毫モ所論ノ如キ  
 事實誤認ノ疑アルヲ見ズ。夫レ恐喝罪ハ人ヲ脅迫シテ畏怖セシメ、因テ財物又ハ財産上ノ利益ノ交付  
 ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ之ヲ得シムルニ因リテ成立スルモノナレバ、苟モ脅迫ニ因ル畏怖ノ結果、財物又  
 ハ財産上ノ利益ノ交付アリタル場合、詳言スレバ其ノ脅迫ニ因ル畏怖ナカリシナラムニハ、其ノ財物又  
 ハ財産上ノ利益ノ交付ナカリシナルベシトノ關係ノ認メラルル場合ニ在リテハ、縱シ被交付者ガ相當  
 ナル對價ヲ支拂ヒタルトキト雖、其ノ交付アリタル財物又ハ財産上ノ利益ノ全部ニ付恐喝罪ノ成立ヲ  
 認メザルベカラズ。然リ而シテ本件ガ原判決認定ノ如ク、其ノ當初ヨリ恐喝ノ意思アリテ、名ヲ權利

【要旨】

ノ行使ニ假託シテ實行セラレタルモノニ係ルコトハ疑ナキ所ニシテ、該認定ニ誤謬ナキコト敍上ノ如  
 クナル以上、被告人ガ交付ヲ受ケタル金員中ヨリ土地ノ相當價格ヲ差引キタル金員ヲ以テ恐喝金額ト  
 爲サザルベカラズト爲シ又被告人ノ判示所爲ハ權利ノ行使ニ外ナラザルヲ以テ、其ノ手段タル所爲ガ  
 別罪ヲ構成スルハ格別恐喝罪ヲ以テ問擬スベキニ非ズト爲スガ如キハ、凡ベテ當ラザルノ言ト謂ハザ  
 ルベカラズ。然ラバ原判決ニハ孰レノ點ヨリスルモ所論ノ如キ違法存在セザルモノト謂フベク各論旨  
 ハ理由ナシ。

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事村上常太郎關與

○賭場開張被告事件 (昭和十四年(九)第七八〇號 棄却)

(昭和十四年十一月七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 毛塚源太郎 原審辯護人 家入經晴 辯護人 家入經晴

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

刑事訴訟法第三百三十九條第一項前段ノ其ノ他ノ者ト被告人

○判示事項

刑事訴訟法第三百三十九條第一項前段ノ其ノ他ノ者ト被告人

○判決要旨

刑事訴訟法第三百三十九條第一項前段ニ所謂其ノ他ノ者ノ中ニハ被告人ヲモ包含スルモノトス

〔参照〕 刑事訴訟法第三百三十九條第一項 裁判長ハ被告人其ノ他ノ者被告人又ハ陪審人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人毛塚源太郎同大倉勝三ヲ各徵役十月ニ被告人久井田辰雄ヲ徵役六月ニ被告人長谷川直治ヲ徵役四月ニ處ス但被告人毛塚源太郎ニ對シテハ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス(其ノ他ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人毛塚源太郎ハ碑文谷一家ノ系統ニ屬シ東京市品川區南品川一帯ヲ總張リトスル博徒親分ニシテ被告人大倉勝三同久井田辰雄同長谷川直治ハ孰レモ其ノ乾兒ナルトコロ

第一 被告人毛塚源太郎同大倉勝三同久井田辰雄ノ三名ハ共謀ノ上昭和十三年七月、八月頃ヨリ翌十四年三月十五日迄

ノ間一ヶ月約十回ノ割ニテ合計數十回ニ互リ犯意ヲ繼續シ同市品川區南品川二丁目八番地ナル被告人大倉勝三方外ニケ所ニ於テ賭博場ヲ開張シ賭客與野豐吉外數名ヲシテ骨子等ヲ使用シ俗ニ丁半ト稱スル賭錢博奕ヲ爲サシメ其ノ都度同人等ヨリ寺錢ヲ徵シ以テ利ヲ圖リ

(中略)

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人毛塚源太郎ノ判示賭博場開張ノ所爲ハ刑法第百八十六條第二項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人毛塚源太郎ヲ懲役十月ニ處シ尙被告人毛塚源太郎ニ對シテハ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

第二審ハ公判廷ニ於テ共同被告人タリシ大倉勝三、久井田辰雄、長谷川直治ヲ審問スルニ當リ被告人毛塚源太郎及同人ニ關係アル傍聽人ヲ退廷セシメタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人家入經晴齋藤英二上告趣意書第一點ハ原裁判所ハ刑事訴訟法第三百三十九條ノ規定ヲ濫用シ審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタル失當アリ原裁判所ハ右上告人ニ對スル被告事件ヲ審判スルニ當リ上告人ト共同被告人タリシ大倉勝三、久井田辰雄、長谷川直治ノ三名ヲ審問スルニ腐リ上告人毛塚源

刑事訴訟法第三百三十九條第一項前段ノ其ノ他ノ者ト被告人

太郎及毛塚源太郎ニ關係アル傍聽人全部ヲ退廷セシメテ審理ヲ爲シタリ惟フニ刑事訴訟法第三百三十九條ニヨレハ「裁判長ハ證人共ノ他ノ者被告人又ハ或ル傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得」一被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ又同シ」ト規定セリ本條前段ノ證人「其ノ他ノ者」トハ證人及鑑定人通事又ハ翻譯人ヲ指稱スルコトハ同法第三百三十八條トノ關係ニ於テ明白ナリ而シテ傍聽人ヲ退廷セシムル場合ハ右法條ノ示ス如ク證人鑑定人通事又ハ翻譯人ヲ訊問スル場合ニ限リ其ノ他ノ場合ニ於テハ傍聽人ヲ退廷セシムルコトヲ得ス何トナレハ前示法條後段ハ被告人カ他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料セラルトキハ其ノ被告人ノミヲ退廷セシムル法意ニシテ此ノ場合ニ於テ傍聽人ヲ退廷セシムルコトハ法ノ認ムルコトコトニ非サレハナリ換言スレハ刑事ノ公判ハ當然公開スヘキモノニシテ又其ノ公開ノ結果證人、鑑定人、通事、翻譯人等カ被告人又ハ傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料セラルル場合ニ於テハ眞實探究ノ必要上被告人又ハ其ノ傍聽人ヲ退廷セシムルコトヲ得ヘク被告人カ他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料セラルル場合ハ其ノ他ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得ルニ止マル從テ本件ニ於テ被告大倉勝三、久井田辰雄、長谷川直治ノ三名カ被告人毛塚源太郎ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料セハ毛塚源太郎ヲ退廷セシムルコトハ前示法

條後段ノ規定ノ適用ニシテ何等不法ノ點ナキモ共同被告人大倉勝三外二名ヲ訊問スルニ膺リ證人其ノ他ノ者ヲ訊問スル場合ノ規定ヲ援用シテ傍聽人ヲ退廷セシメタルハ前示法條ニ違反シ延イテ審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルモノト謂ハサルヘカラス此ノ點ニ於テ原判決ハ當然破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ

案スルニ公判公開ノ原則ハ憲法ノ明定スルトコロニ係リ寔ニ所論ノ如クナリト雖モ本件ニ於ケル所論原審裁判長ノ措置ハ特殊傍聽人ニ對スル刑事訴訟法第三百三十九條ニ基ク裁判長ノ訴訟指揮ニ過ギスシテ公開禁止ヲ以テ目スベキニ非ザルモノトス而シテ同法條ニ徵スレバ裁判長ハ證人共ノ他ノ者被告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルベシト思料スルトキハ其ノ供述中斯ノ如キ虞アル特殊被告人又ハ傍聽人ヲ退廷セシムルヲ得ルモノト爲シタルモノニシテ同條第一項前段ノ「其ノ他ノ者」ニ被告人ヲモ包含スルモノト解スヘキコトハ眞實發見ヲ主義トスル刑事訴訟法ノ原則ニ鑑ミ蓋シ至當ノ見解ナリト云ハザルベカラズ尤同條項後段ニ於テ被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルベシト思料スルトキハ裁判長ハ同上前段ノ如キ措置ニ出ヅルヲ得ベキ旨規定セルモ右ハ本來同前段中ニ當然其ノ趣旨ヲ包含スルコロナルヲ唯其ノ疑ヲ避クル爲之ヲ明ニシタルニ過ギザルモノトス果シテ然ラバ原審ガ被告人等ニ對スル本被告事件ノ審判ニ當リ前示刑事訴訟法ノ規定ニ則リ被告人ト原審ニ於テ共同被告人タリシ大倉勝三、久井田辰雄、長谷川直治ノ各審問ニ付被告

【要旨】



人及同人ニ關係アル傍聽人全部ヲ退廷セシメテ審理シタレバトテ其ノ間公判手續上何等ノ違法アリト云フベカラズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事村上常太郎關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(れ)第七八六號  
同年十一月九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 白木光太郎 辯護人 平山文次

【第一審】 一宮區裁判所

○判示事項

絲配給統制規則第三條ノ買受ノ意義

○判決要旨

絲配給統制規則施行前ノ買受契約ニ基キ其ノ施行後ニ於テ人造絹絲ヲ割當票ト引換ニ非スシテ引渡ヲ受ケタルトキハ同規則第三條ニ違反スルモノトス

絲配給統制規則第三條ノ買受ノ意義

【參照】輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年法律第九十二號)第二條  
政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキ  
ハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置  
ヲ爲スコトヲ得

一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項  
ヲ命シ又ハ制限ヲ爲スコト  
二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命  
令ヲ爲スコト

同法第四條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲  
シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所  
有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト  
能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

同法第五條 第二條ノ規定ニ依リ命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違  
反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス  
絲配給統制規則第三條 工業者ハ割當票ト引換フルニ非ザレハ其ノ使用スル絲(輸出  
品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造ノ爲使用スルモノヲ除ク)ヲ買受クルコトヲ得  
ズ

同法第四條 工業者ニ對シ前條ノ絲ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ之  
ヲ販賣スルコトヲ得ズ  
前條ノ絲ヲ販賣スル者ハ工業者ヨリ割當票ト引換ヘニ買受ノ申込アリタルトキハ  
正當ノ事由アルニ非ザレハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

同法第四條ノ二 工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ販賣スル者ハ第一條第一項ノ規定ニ依  
ル絲ノ指定前ニ爲シタル販賣契約ニ基キ工業者ニ對シ指定アリタル第三條ノ絲ヲ  
引渡スコトヲ得ズ

同法附則第四 工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ販賣スル者ハ本則施行前ニ爲シタル販賣  
契約ニ基キ工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ引渡スコトヲ得ズ  
石炭配給統制規則第一條 石炭ノ生産業者又ハ販賣業者ハ商工大臣ノ許可ヲ受クル  
ニ非ザレバ別表第一號ニ掲グル石炭ヲ販賣(本則施行前ニ爲シタル契約ニ依リ引渡  
ヲ含ム以下同シ)スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 左ノ各號ノ一ニ該當スル石炭ヲ販賣スルトキ  
イ 御用品  
ロ 官廳用品  
ハ 軍用品  
ニ 船舶用品

二 別表第一號ニ掲グル石炭ノ一ニ付販賣業者ニ對スル販賣契約數量ガ月當二百  
五十噸、使用者ニ對スル販賣契約數量ガ工場、事業場其ノ他ノ使用場所毎ニ月當二  
百五十噸ヲ超エザルトキ

絲配給統制規則第三條ノ買受ノ意義

三 天災事變其ノ他己ムヲ得ザル事由アリタルニ因リ許可ヲ受クルコト能ハザル  
トキ

物品販賣價格取締規則第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何者ノ名義  
ヲ以テスルナリ間ハズ其ノ指定ノ際商工大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル販賣價格ヲ  
商工大臣又ハ地方長官ガ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價  
ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ズ但  
シ輸出スル場合取引所ニ於テ販賣スル場合及己ムヲ得ザル事由ニ依リ卸賣ニ付テ  
ハ商工大臣小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

鐵鋼配給統制規則第二條 鐵鋼ノ製造業者又ハ販賣業者(シヤリン業者ヲ含ム)以下  
同シ)ハ官廳公共團體又ハ商工大臣ノ指定シタル團體(以下統制團體ト稱ス)ニ於テ發  
行スル鐵鋼割當證明書ト引換フルニ非ザレバ鐵鋼ヲ使用スル者ニ對シ鐵鋼ヲ販賣  
(昭和十四年八月九日以前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)以下同シ)スルコトヲ得  
ズ但シ左ニ掲ケル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 左ノ各號ノ一ニ該當スル鐵鋼ヲ販賣スルトキ
  - イ 御料品
  - ロ 官廳ニ於テ購入スルモノ
  - ハ 公共團體ニ於テ購入スルモノ
- 二 天災事變其ノ他己ムヲ得ザル事由アリタルニ因リ鐵鋼割當證明書ニ依ルコト  
ヲ得ザルトキ

鐵鋼配給統制規則第二條

鐵鋼ヲ業務用ノ原料又ハ材料トシテ使用スル者ハ商工大  
臣ノ指定シタル者(以下統制會社ト稱ス)及其ノ指定シタル販賣業者(以下指定販賣業  
者ト稱ス)以外ノ者ヨリ鐵鋼ヲ買受ケ又ハ受託加工其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルナ  
間ハズ自己ノ所有ニ屬セザル鐵鋼ヲ受入ルルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當  
スル場合ハ此ノ限ニアラズ

- 一 軍ヨリ鐵鋼ヲ受入ルルトキ
- 二 鐵鋼ヲ業務用ノ原料又ハ材料トシテ使用スル者ニシテ鐵鋼ノ販賣業ヲ營ムモ  
ノ販賣ノ目的ヲ以テ買受クルトキ
- 三 鐵鋼ノ少量使用者トシテ地方長官ノ指定シタル者ケ自己ノ用ニ供スル塔解用  
以外ノ鐵鋼ヲ受入ルルトキ
- 四 特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

銅、鉛、錫等配給統制規則第一條 本則ニ於テ銅、鉛、錫、鎳又ハアシチモンノ地金トハ銅  
地金、鉛地金、亞鉛地金、錫地金又ハアシチモン地金及左ノ各號ノ一ニ該當スル粗地金  
ヲ除クノ外銅、鉛、錫又ハアシチモン主タル成分トスル粗地金ヲ謂フ

- 一 產金法ノ適用ヲ受ケル製鍊ノ過程ニ在ル含金物
  - 二 銅又ハ黃銅、青銅其ノ他ノ銅合金ノ屑(ニルミヲ含ム)又ハ故ヲ再生シタルモノ
  - 三 鉛又ハハンダ、活字合金其ノ他ノ鉛合金ノ屑又ハ故ヲ再生シタルモノ
- 本則ニ於テ故銅トハ銅又ハ黃銅、青銅其ノ他ノ銅合金ノ屑(ニルミヲ含ム)及故並ニ此  
等ヲ流替ヘタルモノ及前項第二號ニ掲ケル粗地金ヲ謂ヒ故鉛トハ鉛又ハハンダ、活  
字配給統制規則第三條ノ買受ノ意義

字合金其ノ他ノ鉛合金ノ屑及故並ニ此等ヲ洗替ヘタルモノ及前項第三號ニ掲ゲル粗地金ヲ謂ヒ故並鉛トハ亞鉛ノ屑(亞鉛滓ヲ除ク)及故並ニ此等ヲ洗替ヘタルモノヲ謂ヒ故並トハ錫ノ屑(錫滓ヲ除ク)及故並ニ此等ヲ洗替ヘタルモノヲ謂フ

國産羊毛ノ購買制限ニ關スル件(昭和十四年商工省令第十九號)

羊毛ヨリ本邦内ニ於テ剪取シタル羊毛(反毛及毛製品製造過程ニ於テ數シタル屑毛ヲ除ク)ハ之ヲ買受(本令施行前爲シタル契約ニ依リ受入ルル場合ヲ含ム)若ハ移入シ又ハ受託加工其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルハ自レ自己ノ所有ニ關セザル羊毛ヲ受入ルルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

○事實

原審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ愛知縣中島郡奥町字其四前二十九番地ニ織物製造工場ヲ設ケ織物製造販賣業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ絲配給統制規則施行前ナル昭和十三年十二月十五日頃ニ爲シタル買受契約ニ基キ昭和十四年二月二日及同月五日ノ二回ニ互リ犯意ヲ繼續シテ小島兼市ヨリ右工場ニ於テ輸出品又ハ輸出品ノ原料若クハ材料ノ製造ノ爲メ使用スルモノニ非ラサル内需用加工人遺絹絲合計百六十一封度此ノ價格計金二百十九圓十錢相當ヲ割當票ト引換フルニ非スシテ引渡ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ絲配給統制規則第三條第一項昭和十四年商工省告示第十號ニ違反シ輸出入品等ニ

關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ尙刑法第十八條ニ則リ右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人平山文次上告趣意書第一點ハ原審判決ハ被告人白木光太郎カ「絲配給統制規則施行前ナル云々」トノ事實ヲ認定シ昭和十四年商工省告示第七號絲配給統制規則第三條ヲ適用シ罪アリト判斷セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリ即チ本件取引ノ加工(ボーラー・撚絲)人造絹絲ハ小島兼市ヨリ被告人白木光太郎カ昭和十三年十二月十五日頃ニ先物トシテ約六十貫内外(本件目的物ハ撚絲ナルカ故ニ確タル數量ヲ取極ムル能ハス)ヲ翌一月中ニ受渡ノ約ニテ買受契約ヲ爲シ其ノ一月中ニ殆ントト受渡ヲナシタルモ未了ノ百六十一封度ノ荷物ヲ昭和十四年二月二日及同月五日ノ二回ニ割當票ト引換ヘニ非スシテ被告人カ受取りタルモノナルコトハ右判示及一件記録ニ依リ明白ナリ而シテ本件適條ノ絲配給統制規則ハ昭和十四年二月一日ヨリ施行セラレタルヲ以テ本件受渡ヲナシタル加工人造絹絲ハ該省令實施前ニ賣買契約成立シ居ルモノナルモ之レカ殘存品ニ付キ二月一日以後ニ履行セラレタルニ止マルモノニシテ所謂既契約品ノ受渡カ罪トナルヤ否ヤノ案件ナリ一、此種ノ案件ニ付テハ既ニ御院ニ

於テ判例トナリ居ル昭和十四年(レ)第三一號同年三月二十九日ノ判決ト同一ニ歸著スヘキ事案ナルカ如キモ然ラス右判例トナリタル適條ハ綿絲配給統制規則(昭和十三年三月一日商工省令第六號)ニシテ同規則ニハ所謂既契約品ノ受渡ニ付テハ毫モ明文ノ存セザリシ爲業者間ニ於テ種々ナル疑義カ生シ居リタル處之レカ改正トモ見ルヘキ絲配給統制規則(昭和十四年一月二十三日商工省令第七號)ノ附則末項ニ於テ特ニ「本則施行前ニ爲シタル販賣契約ニ基キ工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ引渡スコトヲ得ス」ト定メ此ノ限界ヲ明白ニ規定セラレタリ即チ此ノ趣旨ハ(1)工業者ニ非サル商業者間ニ於ケル既契約品ノ受渡ニ付テハ同規則第三條ヲ適用セス(2)工業者ト雖モ既契約品ニ付キ賣約人ハ買受人ニ對シ引渡ヲ爲スコトヲ得ストノ趣旨ナルコトハ一點ノ疑ナシ殊ニ右絲配給統制規則ハ昭和十四年三月二十九日商工省令第十五號ヲ以テ改正セラレタル規則ニ依レハ本文ノ第四條ノ二ニ該當スルモノナルコトモ明白ナリ斯ク附則ヨリ正文ノ條項ニ迄躍進シ其ノ限界ヲ區分シ且ツ民間ニ指針ヲ與ヘ重要ナル疑義ヲ法則ニ於テ制定セラレタル條項ヲ捕ヘ之レカ單ナル注意の規定ナリトハ到底解スル能ハス右(1)ノ點ハ別トシ(2)ノ點ニ付キ更ニ詳述スレハ(イ)絲配給統制規則ノ附則末項ヨリスルモ同則第四條ノ二ニ依ルモ「工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ販賣スル者ハ云々絲ヲ引渡スコトヲ得ス」トアリ之レハ單ニ賣約人カ買受人ニ割當票ト引換ニ非スシテ荷渡ヲナスコトヲ禁シタルニ過キス若シ然ラストスレハ規則ハ何故ニ第三條第四條ノ賣買人相互ハ既契約品ヲ割當票ト引換ニ非スシテ受渡ヲ爲ス

ヲ得スト明示セサルヤ又改正セラレタル第四條ノ二ノ箇條ノ反面ニ存スル買受者ヲ基本トスル荷受人ノ爲第三條ノ二ニ於テ特ニ之レカ制限條項ヲ定メラレザリシヤヲ解スル能ハス(ロ)物品販賣價格取締規則第一條中ノ括弧内ニ存スル引渡ナル用語モ亦販賣者ノミニ解シ得ルコト疑ヒナシ以上ノ如ク法文自體及法ノ精神ハ既契約品ニ付テハ特ニ割當票ト引換ヲ爲サスシテ工業者ニ引渡ヲ爲シタル販賣者ノミヲ禁壓シタルニ止マリ又之レヲ以テ足ルト思惟セラレタルモノナリト解スルコトカ正當ナリト信ス二、斯ル片面的規則ハ統制法規中ニ幾多存ス即チ(1)物品販賣價格取締規則(2)綿絲販賣價格取締規則其ノ他スフ人絹絲毛絲等ノ各販賣價格取締規則ニ依レハ何レモ販賣者ノ方面ノミヲ禁壓シ居ルト同様ナリ右販賣價格取締規則ノ適用ニ付テハ法カ買受人ヲモ處罰スルコトハ此臨時立法ニ於テ苛酷ニ失ストセラレタルカ爲ニシテ前述既契約ノ受渡ニ付テモ法ノ精神亦茲ニ存ス三、此場合ニ共犯適用ヲ爲スコトハ法ノ精神ニ反スルト同時ニ舊刑法ノ收賄罪ニ鑑ミ殊ニ刑罰法規ハ狹義ニ解シ且類推ヲ許サストセラルル刑罰法規解釋理論保持ノ爲敢テ御明鑑ニ訴フル次第ナリ以上ノ理由ニ依リ原判決ハ本案件ニ付テ買受人タル被告人ニ對シ單ニ絲配給統制規則第三條ヲ適用シ以テ有罪ノ認定ヲ爲シタル違法アルカ故ニ之レカ破毀セラレ無罪ノ御判決相成度ト云フニアレ共

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲製造配給讓渡使用消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得ルコトトシ之ニ基キ昭和十四年商工省令第七號絲配

【要旨】

給統制規則第三條ハ買受同第四條ハ販賣ノ制限ヲ爲シテ販賣買受雙方ヨリ國策ノ線ニ副ハントセリ  
 固ヨリ販賣ト買受トニ付其ノ取扱ヲ異ニスヘキノ理由ナキハ當然ナリトス而シテ更ニ其ノ統制ノ周到  
 ヲ期セン爲附則第四ニ於テ工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ販賣スル者ハ本則施行前ニ爲シタル販賣契約ニ  
 基キ工業者ニ對シ第三條ノ絲ヲ引渡スヲ得ストノ注意の規定ヲモ設ケテ苟モ漏ルルコト勿ラシメント  
 シ此ノ附則ハ更ニ昭和十四年商工省令第十五號ノ改正ニ依リ第四條ノ二トシテ工業者ニ對シ第三條ノ  
 絲ヲ販賣スル者ハ第一條第一項ノ規定ニ依ル絲ノ指定前ニ爲シタル販賣契約ニ基キ工業者ニ對シ指定  
 アリタル第三條ノ絲ヲ引渡スコトヲ得ストシテ本文ニ編入セラルルニ至レリ蓋シ法ノ統制セントスル  
 處ハ物品夫レ自體ニアリテ其ノ物品授受ノ權利義務ノ發生時期ノ如キハ問フ所ニアラサルナリ是レ此  
 ノ注意の規定ノ生スル所以ナリ之ヲ他ノ例ニ徵スルニ石炭配給統制規則第一條物品販賣價格取締規則  
 第一條鐵鋼配給統制規則第二條鐵屑配給統制規則第二條銅錫等配給統制規則第一條等ハ販賣又ハ讓渡  
 ニ付キ同様注意の規定ヲ置キ國產羊毛ノ購買制限ニ關スル件ニハ買受ニ付キ同様ノ規定アリ以テ賣買  
 雙方共同様ニ解スヘキ立法ノ趣意タルコト明白ナリトス想フニ販賣又ハ買受ニ付注意の規定ヲ設ケタ  
 ルトキハ其ノ反面タル買受又ハ販賣ニ付キ同規定ヲ設ケタルカ如キハ徒ラニ繁雜ヲ増シ立法ノ體裁ヲ毀  
 タルヲ以テ其ノ一方の注意規定ヲ以テ十分ナリトセシナリ仍テ本件被告人カ絲配給統制規則施行前ナ  
 ル買受契約ニ基ツキ其ノ施行後ニ於テ本件人造絹絲ヲ割當票ト引換ニ非スシテ引渡ヲ受ケタル所爲ニ

對シ絲配給統制規則第三條違反トシテ處罰シタル原判決ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上  
 告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事佐々波與佐次郎關與

○常習賭博被告事件(昭和十四年(九)第八六一號 棄却)  
(同年十一月十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 千葉 留藏 辯護人 大塚 守 穂

【第一審】 旭川區裁判所 【第二審】 旭川地方裁判所

○判示事項

賭博罪ニ對スル事實ノ判示方

○判決要旨

賭博罪ニ對スル事實ノ判示方

被告人カ花札ヲ使用シテ俗ニ「三枚株」ト稱スル賭錢博奕ヲ爲シタル旨判示シタル以上特ニ其ノ方法ヲ詳記スルノ要ナシ

【参照】 刑法第八十六條第一項 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

刑事訴訟法第三百六十條第一項 右罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ常習トシテ昭和十四年七月七日旭川市三條通五丁目右五號中野定太郎方ニ於テ同人外二名ト共ニ花札ヲ使用シ俗ニ「三枚株」ト稱スル賭錢博奕ヲ爲シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人大塚守穂上告趣意書第一點原判決ハ理由不備ノ違法アリ原判決ハ其ノ理由ノ部ニ於テ「被告人

ハ云々俗ニ「三枚株」ト稱スル賭錢博奕ヲ爲シタルモノナリ」ト判示スレトモ所謂「三枚株」ナルモノハ如何ナル方法ヲ以テ輸贏ヲ決スルモノナルカヲ具體的ニ明示セス從テ偶然ノ事實ニ因リテ賭財ノ得喪ヲ結果スヘキ可能性アル方法ナリヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノナリ即チ果シテ此ノ方法ハ刑事上博奕ト稱シ得ヘキモノナリヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルモノナリ果シテ然ラハ原判決ハ此ノ點ニ於テ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

花札ノ用途ハ専ラ偶然ノ事情ニ因リ輸贏ヲ決スル博戲ヲ爲スニ在ルカ故ニ原判決ニ於テ被告人ハ花札ヲ使用シ俗ニ三枚株ト稱スル賭錢博奕ヲ爲シタル旨判示シタル以上ハ花札使用ノ性質ニ鑑ミ偶然ノ事情ニ因リ輸贏ヲ決スル賭博ヲ爲シタルコト自ラ明カニシテ假令三枚株ノ方法ヲ詳記セサレハトテ賭博罪ト爲ルヘキ事實ノ判示トシテ何等缺クル所ナク理由不備ノ違法存セス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

検事村上常太郎關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十四年(れ)第七四三號 棄却)  
(同年十一月十七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 五藤百太郎 原審辯護人 (野村 均 義 一男 辯護人 (石野 鈴 川 均 義 一男  
【第一審】 一宮區裁判所

○判示事項

綿絲配給統制規則違反並ステイブルファイバー及ステイブルファイバー  
綿絲配給統制規則違反ノ各行爲ト連續犯

○判決要旨

綿絲配給統制規則違反行爲トステイブルファイバー及ステイブル

綿絲配給統制規則違反並ステイブルファイバー及ステイブルファイバー  
價給取給統制規則違反ノ各行爲ト連續犯



ファイバー絲販賣價格取締規則違反行為トハ其ノ罪質ヲ異ニシ連續犯ヲ構成セス

【参照】輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年法律第九十二號)第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

- 一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限ヲ爲スコト
- 二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

同法第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

絲配給統制規則第一條 絲(綿、絹、毛、人造)ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者(以下工業者ト稱ス)ハ地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當ヲタル數量ヲ超エ絲ヲ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ズ但シ輸出品(滿洲國及關東州ニ輸出スルモノ)ヲ除ク以下同)又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
地方長官又ハ前項ノ團體ハ前項ノ規定ニ依ル割當ノ總數量ニ付商工大臣ノ承認ヲ

受クベシ

ステイブルファイバー及ステイノルフファイバー絲販賣價格取締規則第一條 ステイブルファイバー又ハステイノルフファイバー絲ハ何等ノ名義ヲ以テスルハ最  
高價格ヲ超ユル對價ヲ以テ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ輸出スル場合又ハ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノステイブルファイバー及ステイノルフファイバー絲ノ種類及最高價格ハ商工大臣之ヲ告示ス  
刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行為ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

○事實

第一審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ金十二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

(中略)

第二 被告人五藤百太郎ハ昭和十三年六月二十五日ヨリ同年十月十日ニ至ル迄ノ間犯意ヲ繼續シテ十數回ニ互リ岐阜縣羽島郡笠松町高島嘉七外十二名ノ各工業者ニ對シ商工大臣告示所定ノステイブルファイバー絲合計八萬九千三百封度ヲ夫々同告示所定ノ最高價格ヲ超ユル單價ナル百封度百十圓乃至百四十八圓ヲ以テ合計金十二萬五千九百四圓四十錢ニテ賣渡契約ヲ爲シ其ノ當時之ヲ引渡シテ販賣シタルモノナリ

絲配給統制規則違反ステイブルファイバー及ステイノルフファイバー絲販賣價格取締規則違反ノ各行為ト連續犯

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ステープルファイバー及ステープルファイバー絲販賣價格取締規則第一條商工省告示昭和十三年六月十五日第六十號同年七月一日第七十二號同年同月同日第九十九號同年八月十五日第二百四十號同年九月二日第二百五十七號同法律第五條ニ該當スル處被告人ノ右所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ更ニ刑法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シテ主文表示ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙同法第十八條ニ則リ罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞務場留置ノ期間ヲ定ムヘキモノトス

(中略)

辯護人鈴木義男同野村均一ハ本件公判請求書ニ依レハ被告人五藤百太郎ハ相被告人龍造同隆雄ト共謀ノ上判示第二所掲ノ犯行ヲ爲シタルモノニシテ右ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條ニ違反スルモノナリト云フニ在リ然ルニ被告人五藤百太郎ハ昭和十三年十一月十一日附一宮區裁判所ノ略式命令ニ依リ同被告人カ昭和十三年四月中旬ヨリ同年七月二十日頃迄ノ間ニ前後五回ニ互リ同被告人若クハ同被告人外一名ニ割當テラレタル數量合計五十三捆八十五玉ヲ超エ混紡綿絲七十九捆百三十七玉ヲ滿洲國關東州向綿布ギヤバジン製織ノ材料ニ使用シタルモノナリトシ之ニ對シ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條絲配給統制規則第一條ヲ適用ノ上罰金八百圓ニ處セラレ右略式命令ハ正式裁判ヲ仰クコトヲ確定シタルモノナルカ故ニ此ノ時迄ノ連續ノ關係ニ在ル犯罪事實ハ確定シタルモノトス而シテ右略式命令ニ依リ確定シタル臨時措置法違反行爲ト本件臨時措置法違反行爲トハ連續犯ノ關係ニ在ルコト明ナリ即チ刑法第五十五條ニ所謂同一罪名ニ觸ルルトハ連續シタル數行爲カ規定法條ヲ異ニスルモ處罰法條ヲ同フスル場合又ハ處罰法條ヲ異ニスルモ同一罪質ニシテ同一罪名ノ下ニ規定セラルル場合ヲ云フモノナルコトハ大審院ノ判例トスル所ナリ之ヲ本件ニ付キ見レハ一定物品ニ關スル製造ニ關スル制限ト配給讓渡使用消費ニ關スル制限トハ其ノ内容ヲ異ニスルモ共ニ臨時措置法第二條ニ所謂支那事變ニ關聯シ需給關係ノ調整上ノ目的ニ出ツル

コトハ同一ニシテ右諸種ノ制限ニ關シ凡百ノ商工省令商工省告示等制定公布セラルル所アリト雖何レモ處罰法條ハ臨時措置法第五條ニ歸一セリ故ニ臨時措置法第二條第一號ニ基キ發セラレタル絲配給統制規則等々ト同條第二號ニ基キ發セラレタルスフ及スフ絲販賣價格取締規則等々トハ夫々規定省令ヲ異ニスルモノ何レモ等シク臨時措置法第二條ノ内容ヲ爲スコトニ於テ異ルモノニアラスシテ其ノ處罰法條ハ結局同法第五條ニ外ナラス然ラハ之等規則違反ノ行爲ハ其ノ本質ヲ同フシ且同一ノ罰條ニ該當スル同種行爲ト謂フヘキヲ以テ被告人五藤百太郎ノ本件違反行爲ハ前記略式命令ニ依リ處罰セラレタル所爲ト連續一罪ヲ爲スモノニシテ而モ右略式命令確定前ノ犯行ニ係ルモノナルカ故ニ刑罰訴訟法第三百六十三條第一號ニ依リ免訴ノ判決ヲ受クヘキモノナリト主張スルヲ以テ此ノ點ニ付案案スルニ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ハ今次支那事變下ニ於テ其ノ戰爭遂行ニ必要ナル物資ノ供給力ヲ増大ナラシムル目的ノ下ニ物資ノ生産配給消費等ニ付キ統制ヲ加ヘ其ノ需給調整ヲ計ル爲ニ制定公布セラレタル一般の總括的法規ニシテ其ノ具體的内容ニ付テハ之ヲ勅令其ノ他ノ命令ニ委任シタル變態的法律ニシテ所謂白地刑罰法規ト稱セラルルモノナリトス蓋シ急迫セル戰時體制下ニ於ケル經濟現象ハ殊ニ複雑多岐ヲ極メ其ノ内容ハ到底之ヲ各個ニ豫測シ得サルヲ以テ之カ取締法規モ亦從テ豫メ統一制定スルコトヲ得サルノミナラス時々刻々ニ移行行ク情勢ノ變化ニ伴ヒ時ニ規定ノ改廢ヲナス場合ヲモ生スルカ故ニ茲ニ右ノ如キ内容ノ一部ヲ命令ニ委任シタルカ如キ變態的法律ノ制定ヲ見ルニ至リタルモノナリ斯クノ如キ趣旨ノ下ニ右臨時措置法ハ制定公布セラレタルモノナルカ故ニ辯護人所論ノ如ク同法第二條ニヨリ發セラレタル絲配給統制規則等々トステープルファイバー及ステープルファイバー絲販賣價格取締規則等々トカ何レモ同法條ノ内容ヲナシ其ノ處罰規定ハ同法第五條ニ歸一セリトノ事由ヲ以テ直ニ右兩種ノ違反行爲カ同一罪質ニシテ連續一罪ヲ爲スモノト連續スヘキモノニアラス宜シク他ノ一般犯罪ト同様個々ノ違反行爲ニ付其ノ罪質ヲ研討決定スヘキモノナリ而シテ絲配給統制規則違反ノ行爲ハ絲原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ニ關ス

絲配給統制規則違反並ステープルファイバー及ステープルファイバー絲販賣價格取締規則違反ノ各行爲ト連續犯

ル制限違反ノ所爲ニシテステープルファイバー及ステープルファイバー糸販賣價格取締規則違反ノ行爲ハステープルファイバー又ハステープルファイバー糸ノ販賣ニ關スル命令違反ノ所爲ナルヲ以テ右兩者ハ各々其ノ罪質ヲ異ニスルモノト謂フヘク從テ連續犯ノ關係ニ在ルモノニアラス依テ右二種ノ行爲カ連續一罪ヲナスモノナルコトヲ前提トスル前記辯護人等ノ免訴ノ主張モ亦之ヲ採用スルコトヲ得ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鈴木義男、野村均一、石川忠義上告趣意書原判決ハ其ノ事實摘示第二ニ於テ「被告人五藤百太郎ハ昭和十三年六月二十五日ヨリ同年十月十日ニ至ル迄ノ間犯意ヲ繼續シテ十數回ニ互リ岐阜縣羽島郡笠松町高島嘉七外十二名ノ各工業者ニ對シ商工大臣告示所定ノステープルファイバー糸合計八萬九千三百封度ヲ夫々同告示所定ノ最高價格ヲ超ユル原價百封度百十圓及至百四十八圓ヲ以テ合計金十二萬五千九百四圓四十錢ニテ賣渡契約ヲ爲シ其ノ當時之ヲ引渡シテ販賣シ」タル事實ヲ認定シ其ノ證據說明ニ於テ辯護人ノ爲シタル「被告人五藤百太郎ハ昭和十三年十一月十一日附一宮區裁判所ノ略式命令ニ依リ同被告人カ昭和十三年四月中旬ヨリ同年七月二十日頃マデノ間ニ前後五回ニ互リ同被告人若クハ同被告人外一名ニ割當テラレタル數量合計五十三捆八十五玉ヲ超エ混紡綿絲七十九捆百三十七玉ヲ滿洲國關東州向綿布ギマバジン製織ノ材料ニ使用シタルモノナリトシテ之ニ對シ輸出入品等ニ關スル

臨時措置ニ關スル法律第二條第五條綿絲配給統制規則第一條ヲ適用ノ上罰金八百圓ニ處セラレ右略式命令ハ正式裁判ヲ仰クコトナク確定シタルモノナルカ故ニ此ノ時マテノ連續ノ關係ニ在ル犯罪事實ハ確定シタルモノトス而シテ右略式命令ニ依リ確定シタル臨時措置法違反行爲ト本件臨時措置法違反行爲トハ連續犯ノ關係ニ在ルコト明ナリ云々」トノ主張ヲ排斥シ其ノ理由トシテ「綿絲配給統制規則違反ノ行爲ハ綿絲ヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ニ關スル制限違反ノ所爲ニシテステープルファイバー及ステープルファイバー糸販賣價格取締規則違反ノ行爲ハステープルファイバー又ハステープルファイバー糸ノ販賣ニ關スル命令違反ノ所爲ナルヲ以テ右兩者ハ各々其ノ罪質ヲ異ニスルモノト謂フベク云々」ト説示セラレタリ然レトモ綿絲(殊ニ混紡絲)トステープルファイバー糸(以下スフ絲ト略稱ス)又ハ製造加工ト販賣トハ其ノ文字ノ示ス如ク夫々別個ノ物品別個ノ行爲ナルコト勿論ナリト雖刑法上罪質ノ同一ナリヤ否ヤハ斯ル外形的事實ノ異同ニ依リ定マルモノニ非ス其ノ法律上ノ性質(目的態樣等)ヲ考察シテ定ムヘキモノト信ス而シテ上告人ト雖原判決カ排斥シタル如ク「同法(臨時措置法)第二條ニヨリ發セラレタル綿絲配給統制規則等々トステープルファイバー及ステープルファイバー糸販賣價格取締規則等々トカ何レモ同法條ノ内容ヲナシ其ノ處罰規定ハ同法第五條ニ歸一セリトノ事由ヲ以テ直ニ右兩種ノ違反行爲カ同一罪質ニシテ連續一罪ヲ爲スモノト連斷」シタルモノニ非ス又原判決カ指摘シタル如ク臨時措置法カ所謂白地刑罰法規タルコトヲモ考慮シタルトコロナ

綿絲配給統制規則違反及ステープルファイバー及ステープルファイバー糸販賣價格取締規則違反ノ各行爲ト連續犯

レトモ右臨時措置法ニ基ク一個ノ命令ニ關スル違反行爲アル毎ニ必ス罪質ヲ異ニスル犯罪ヲ構成スト爲スヘキニ非スト思料ス要ハ各違反行爲カ所謂同種行爲ト見得ルヤ否ヤニ存スルコロ之ヲ本件ニ就イテ考察スルニ(一)先ツ綿絲殊ニ混紡絲トスフ絲ノ法律上ノ異同ヲ定ムルコトヲ要ス凡ソ或物質ノ異同ハ物理化學上ノ觀點ト目的論的法律上ノ觀點トニ於テ大イニ異ルコトアルハ元ヨリ其ノ所ナリ物理化學上異種ノ物質ト雖法律上ニ於テハ同種ノ物トシテ取扱ハルルコトアルハ其ノ例ニ乏シカラス右綿絲配給統制規則第一條ニ於テモ「綿絲(綿トステープルファイバートノ混紡絲ヲ含ム以下同シ)云々」トアル如ク綿トスフトハ常ニ混紡セラレ又綿絲トスフ絲トハ同一目的ニ使用セラルルコトハ顯著ナル事實ナリ即チ綿絲ノ不足ハスフ絲ヲ以テ補ヒスフノ脆弱性ハ綿ヲ以テ補フトコロナルヲ以テ此ノ兩者ニ就イテ使用販賣價格等ノ制限カ爲サル場合ニ於テハ縱令同一法規ニ依リ規定セラレサルトキト雖法律上同質ノモノト謂フニ妨ケアルコトナシ即チ臨時措置法違反罪ニ於テハ綿絲トスフ絲トハ同種統制品ニシテ同一違反行爲ナリト謂フヘキモノト思料ス(二)次ニ綿絲ノ製造加工ニ關スル制限(臨時措置法第二條第一號ニ基ク綿絲配給統制規則)ニ關スル違反行爲トスフ絲等ノ販賣ニ關スル制限(同條第二號ニ基クスフ及スフ絲販賣價格取締規則)ニ關スル違反行爲トノ性質ノ異同ニ付考察スルニ前者ハ其ノ目的使用ノ制限ナルモ同規則中ニハ「第三條工業者ハ割當票ト引換フルニ非サレハ其ノ使用綿絲(輸出入品又ハ輸出入品ノ原料若ハ材料ノ製造加工ノ爲ニ使用スルモノヲ除ク)ヲ買受クルコト

ヲ得ス第四條工業者ニ對シテ前條ノ綿絲ヲ販賣スルモノハ割當票ト引換フルニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス」云々等ノ條項アリ使用制限ノ目的ヲ達スルニハ讓渡ヲ制限セサルヘカラスアルハ自然ノ勢ヒナリ而モ使用制限ト謂ヒ讓渡制限ト謂フモ窮極ハ臨時措置法ノ所謂當該物資需給關係ノ「調整」ナル目的ニ歸一セラルルトコロナリ果シテ然ラハ同法第二條第一號ノ使用制限ト同第二號ノ讓渡制限トハ法律上同質ノ物質ニ關スル限リ其ノ性質ヲ同シウスルモノト謂ハサルヘカラス此ノ點ニ付御院判例タル「刑法第二編第十四章ニ於テ第三百三十六條ヨリ第四百一十一條ニ至ル迄阿片煙ニ關スル罪ヲ規定シアリテ其ノ規定ハ何レモ阿片煙ノ吸食ヲ阻遏シテ公共ノ健康ヲ保持スルヲ歸趨トスルモノニシテ即チ同種同質ノ犯罪ニ屬シ刑法第五十五條ニ所謂同一ノ罪名ニ該當スルモノト云々」(大正十年(レ)第一七八五號事件判決)及「贓物收受ノ行爲ヲ贓物ノ運搬共ノ他ノ行爲ト共ニ連續シテ實行シタル場合ニ於テハ一個ノ贓物ニ關スル罪トシテ重キ刑法第二百五十六條第二項ノ刑ニ依リテ之ヲ處斷スヘキモノト云々」(大正二年(レ)第一六三九號事件判決)等ノ趣旨ハ以テ右論斷ノ根據トナリ得ルモノト思料ス要スルニ臨時措置法第二條ノ委任命令タル綿絲配給統制規則違反トスフ及スフ絲價格取締規則違反ノ各所爲トハ一ハ綿絲ニシテ他ハスフ絲ナリト雖法律上同一ニ取扱ハルヘキ物品ニシテ而モ製造加工制限ト讓渡制限トカ共ニ當該物品ノ需給關係ノ調整ヲ目的トシテ制定セラレ其ノ違反ハ何レモ臨時措置法第五條ニ該當スル以上ハ是等ノ違反行爲ハ同罪質ト謂フヘク結局上告人ノ本件所爲ハ先

綿絲配給統制規則違反及ステープルファイバール及ステープルファイバール販賣價格取締規則違反ノ各行爲ト連續犯